

第6編 林中原 I 遺跡XI

第1章 既往の調査

これまで林中原I遺跡では、町教委、事業団、群馬大学によって22回の発掘調査が実施されている。町教委が17回（第285図1～17、第38表）、事業団が4回（同図A～D、同表）、群馬大学が1回（同図O、同表）である。今回の発掘調査は、町教委が行なった第11次調査の林地区土地改良事業に伴う試掘調査を受けての本調査である。

昭和37年の群馬大学史学研究室による学術調査が本遺跡での発掘調査の先駆け、縄文時代中期の住居跡1軒が確認されたとのことである。

町教委では平成14年から本遺跡の発掘調査を行なっている。第1～3・5・6・8・10・11・13・17次調査が試掘・立会調査である。明確な遺構は確認されず、第8次で縄文時代前期後半、第5・6・10次で縄文時代中期、第11・17次で縄文時代中期後半～後期前葉の遺物包含層が確認された。

第4・7・9・12・14～16次調査は本調査が実施され、縄文時代中期後半～後期前葉の住居跡、配石遺構、石組遺構、土坑、遺物包含層が確認されている。平成15年度の第4次調査では住居跡から堀之内2式中段階あたりの半完形遺物・釣手付注口土器、平成18年度の第9次調査では、住居跡1軒からが体土器2点を含む良好な堀之内1式新段階の資料、平成19年度の第12次調査では、住居跡から複数個体の注口土器、遺構外からは多量の多孔石、平成20年度の第15次調査では土器捨て場の様相を呈した住居跡から完形・ほぼ完形となる多量の土器が出土しており、縄文時代後期の良好な資料が多数出土している遺跡である。

事業団は平成16年からハッカダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施している。平成19年度から21年度にかけて国道145号線・町道新設および国道取り付け工事に先立って実施された発掘調査（同図B～D地点）では、縄文時代前期～中期の住居跡、土坑のほか、中世城郭である林城の郭が調査され、中世～近世にかけての遺構が確認されている。B地点では、郭を区画する堀から石垣を伴う土橋と木橋、ほぼ完形の内耳銅が据えられていた方形炉を持つ竪穴建物などが発見された。

第2章 調査の経過

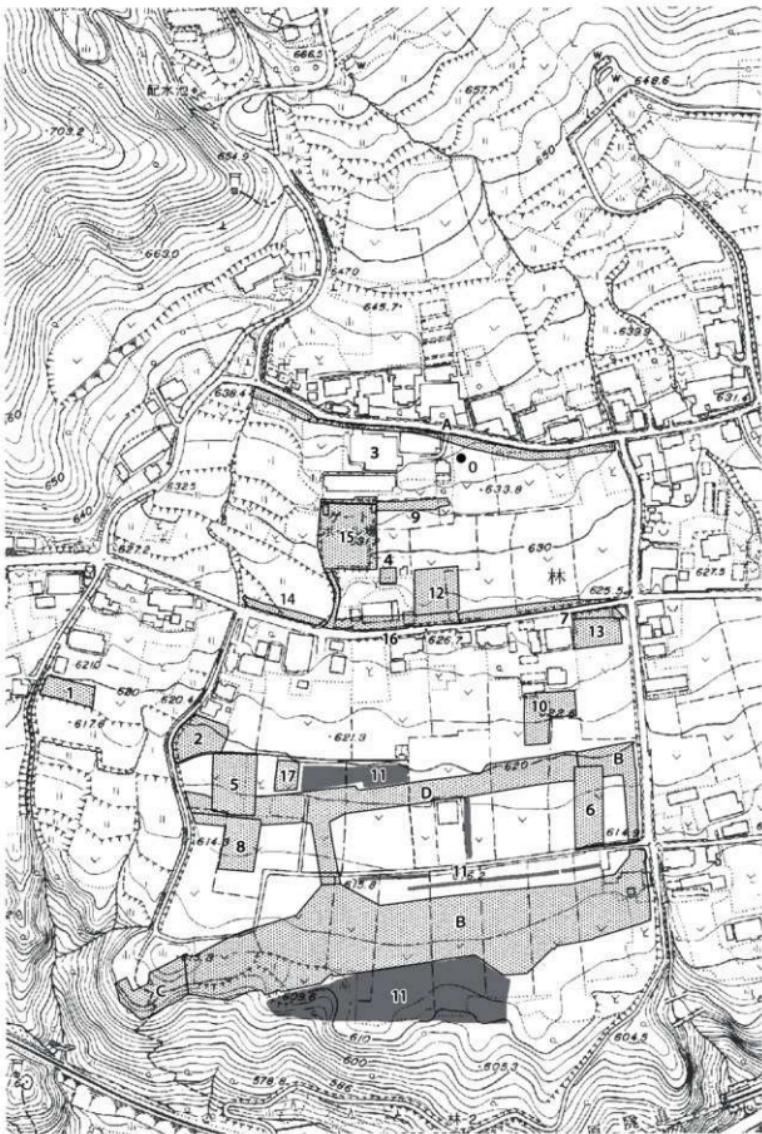
林中原I遺跡XIの発掘調査は、平成25年4月1日から開始し、同年8月29日に終了した。4月1日、発掘調査準備作業を開始した。4月4日、1区調査区内の竹の抜根作業を行なった。4月10日、1区の表土（耕作土とそれ以下の土）掘削・遺構確認作業を開始。4月18日、1区の遺構精査開始。4月26日、1区西側（谷地形から西）の遺構精査終了。4月30日、1区調査区東側の遺構確認作業、遺構精査を開始。

5月28日、3区の表土掘削を開始。5月29日、1区の空中写真撮影を実施。5月31日、3区の表土掘削が終了。

6月3日、3区の遺構精査を開始。6月4日、1区の遺構精査が終了。6月5日、2区の表土掘削・遺構確認作業を開始。6月7日、3区の遺構精査を一時中断する。6月13日、2区の遺構精査開始。6月17日、3区の現場養生を行う。

7月8日、3区の遺構精査を再開する。7月12日、2区の空中写真撮影を実施。7月19日、2区の遺構精査が終了。7月25日、3区の遺構精査が終了。4区で人力によるサブレンチ掘削を開始。7月30日、4区の表土掘削・遺構確認作業・遺構精査を開始。

8月6日、3区の空中写真撮影を実施。8月8日、3区2面目の表土掘削・遺構確認作業を開始。8月9日、3区2面目の遺構精査を開始。8月12日、4区の遺構精査がほぼ終了し、一時中断。8月27日、4区の遺構精査を再開し、調査が終了。8月28日、3区2面目の遺構精査が終了。8月29日、道具片付け・撤収作業を実施、発掘調査が終了した。



第285図 調査区位置図(1/2,500)

第3章 基本層序

今回の発掘調査の基本層序は、1・2区調査区で2か所（第287・288・292図A・B地点）、3区調査区で1か所（第287・289・294図C地点）、4区調査区で1か所（第287・290・295図D地点）で確認した。緩斜面上に立地している遺跡であるため、基本層序は概ね対応できるものと思われる。A地点・B地点は1・2区調査区の北壁と南壁、C地点は3区調査区北壁、D地点は4区調査区西壁で確認した。全部で八層あり、細分される層もある。

第I層 黒褐色土

表土である。粘性は弱く、しまりはある。試掘調査15トレンチの1層（長野原町教育委員会2008、以下同じ）、事業団調査の1層（公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2014、以下同じ）を細分したものである。

第I'層 黒褐色土

粘性はなく、しまりはある。A地点でのみ確認された。白色粒を少量含む。試掘調査15トレンチの1層、事業団調査のI層を細分したものである。

第I₂・I₃層 黒褐色土

粘性は弱く、しまりはややあり。C地点でのみ確認された。ロームブロック、ローム粒・白色粒を含み、含有物の違いによって細分した。つい最近運ばれてきた現代の盛土である。

第IIa・IId層 黒褐色土

同一の土層と考えられるものの確認地点が離れていることから枝番付した。粘性は弱く、しまりはある。ローム粒・白色粒を微量含む。試掘調査15トレンチの2層、事業団調査II層を細分したものである。

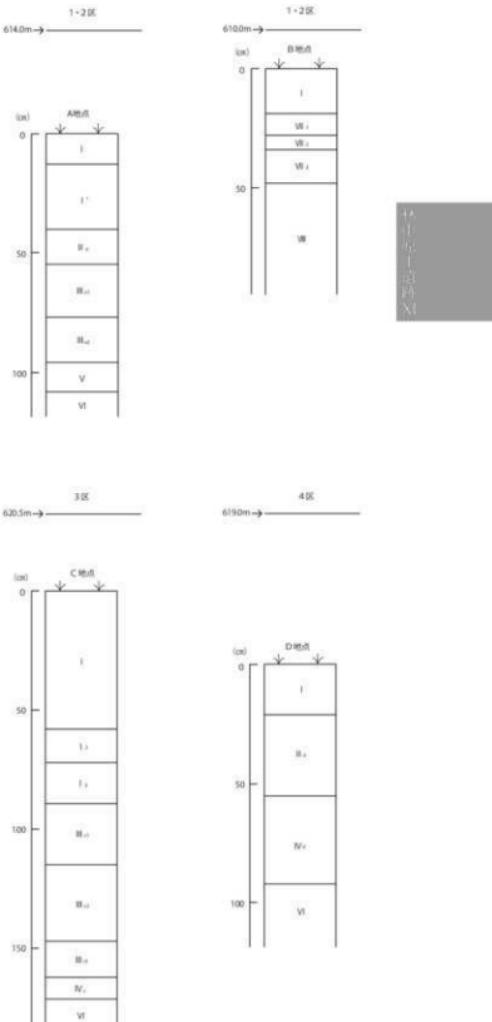
第IIIa₁・IIIa₂・IIIc₁・IIIc₂・IIIc₃層 黒褐色土

同一の土層と考えられるものの確認地点が離れていることから枝番付した。粘性は弱く、しまりはない。ローム粒・白色粒を含み、含有物の多寡により細分している。試掘調査15トレンチの2層、事業団調査のII層を細分したものである。

第IVc・IVd層 暗褐色土

同一の土層と考えられるものの確認地点が離れていることから枝番付した。粘性は弱く、しまりはある。試掘調査12・13トレンチの3層、事業団調査のIII層に相当するものと考えられる。

第V層 にぶい黄褐色土



第286図 基本土層柱状図(1/20)

林中原Ⅰ遺跡調査一覧（文献番号は巻末の参考文献参照）

番号	調査年度	調査機関	調査面積 (開発面積)	概要	備考
0	昭和37年度	群馬大学	?m ² (-)	(縦文) 中期集落跡	文献 36
1	平成14年度	長野原町教育委員会	10m ² (288m ²)	遺構なし	文献 6
2	平成15年度	〃	52m ² (489m ²)	遺構なし	文献 7
3	〃	〃	-m ² (2684.26m ²)	現状保存	文献 7
4	〃	〃	59.8m ² (675.42m ²)	(縦文) 後期集落跡・配石遺構・石組遺構 (住居跡か)	文献 7・14
5	平成16年度	〃	28m ² (734.69m ²)	(縦文) 包含層	文献 9
6	平成17年度	〃	59m ² (647m ²)	(縦文) 中期包含層	文献 10
7	〃	〃	500m ² (749.52m ²)	(縦文) 集落跡	文献 10 未報告
8	〃	〃	15m ² (528m ²)	(縦文) 前期後半包含層	文献 10
9	平成18年度	〃	190m ² (1820m ²)	(縦文) 後期集落跡・配石遺構	文献 11 未報告
10	〃	〃	42m ² (789m ²)	(縦文) 包含層	文献 11 未報告
11	〃	〃	436m ² (2541m ²)	(縦文) 中期後半～後期包含層・後期集落跡 (中近世) 現状遺構ほか	文献 11
11	平成25年度	〃	4013m ² 5226m ²	(縦文) 前期窓穴住居跡、土坑7(平安) 脇し穴8 (中・近世) 林城開闢施設など	本報告
	平成19年度	〃	555m ²	(縦文) 中期後半包含層・平安を含む土坑・孤立柱建物跡	文献 12 未報告
13	〃	〃	78m ² (564.22m ²)	(縦文) 後期初頭～前葉包含層	文献 12
14	〃	〃	165m ² (760m ²)	(縦文) 中期後半集落跡	文献 12 未報告
15	平成20年度	〃	535m ² (1291m ²)	(縦文) 中期末・後期初頭～前葉集落跡・配石遺構	文献 13 未報告
16	〃	〃	340m ² (825m ²)	(縦文) 中期末～後期前葉包含層・埋没河道・土坑	文献 13 未報告
17	平成21年度	〃	19m ² (205m ²)	(縦文) 中期末～後期前葉包含層	文献 15 未報告
A	平成16年度	(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団	1415m ² (1415m ²)	時期不明土坑	文献 76・88
B	平成19年度	〃	9874m ² (9874m ²)	(縦文) 前期前半・中期前半集落跡 (中近世) 林城開闢施設など	文献 76・91 一部 20年度 に調査継続
C	平成20年度	〃	618m ² (618m ²)	(縦文) 土坑(中世) 墓地など(近世) 集落跡	文献 76・92
D	平成21年度	〃	1954m ² (1962m ²)	(縦文) 前期後葉集落跡 (中近世) 集落跡	文献 76・92

粘性は弱く、しまりはある。ローム粒多量、白色粒微量含む。ローム漸移層。事業団調査のIV層に相当する。
第VI層 黄褐色土

粘性はなく、しまりはある。いわゆる関東ローム層。事業団調査のV層に相当する。

第VII₁層 暗褐色砂

粘性はなく、しまりはある。粒子は粗い。礫(φ 1 ~ 5 cm)を少量含む。

第VII₂層 褐色砂質シルト

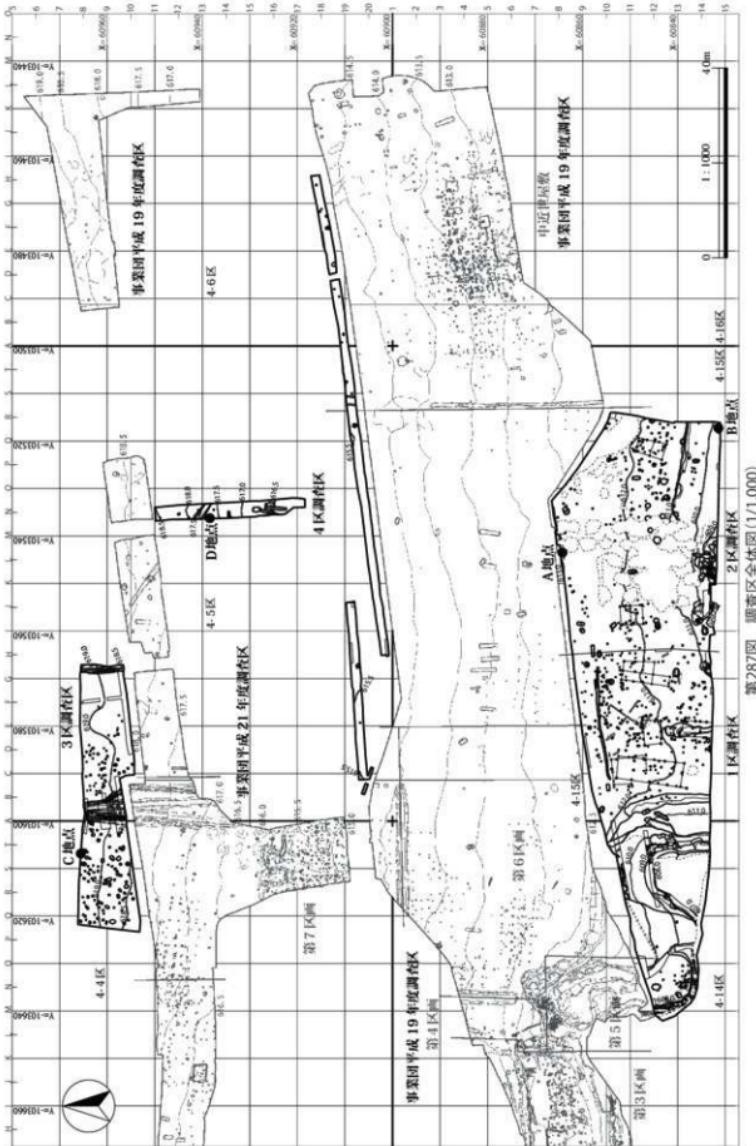
粘性は弱く、しまりはある。白色粒を微量含む。

第VIII₃層 黄褐色シルト質砂

粘性は弱く、しまりはある。にぶい黄褐色砂を少量含む。

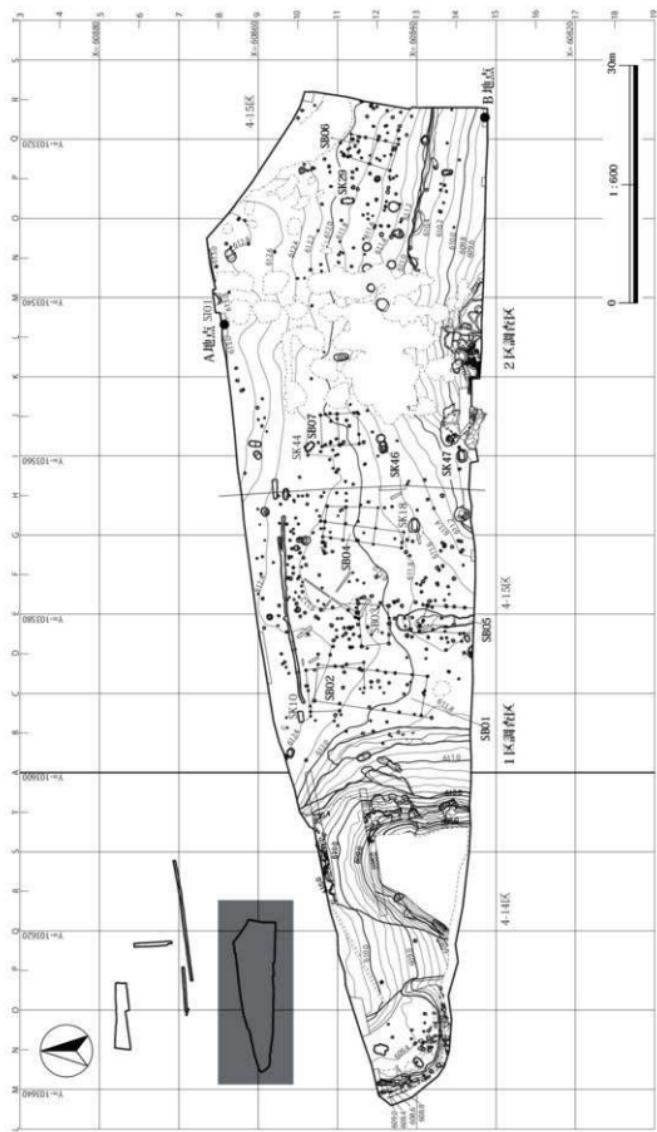
第VIII層 にぶい黄褐色砂

粘性・しまりともない。Y P k 純層か。

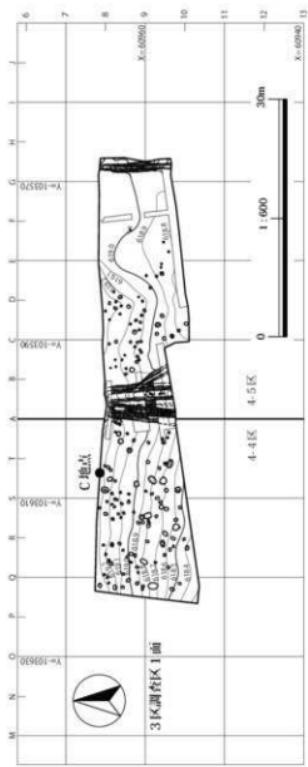
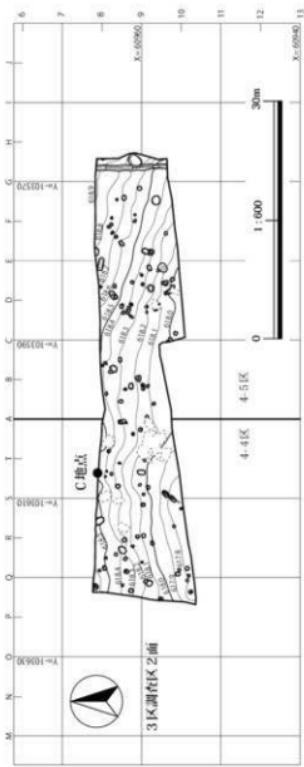


第287図 調査区全体図(1/1,000)

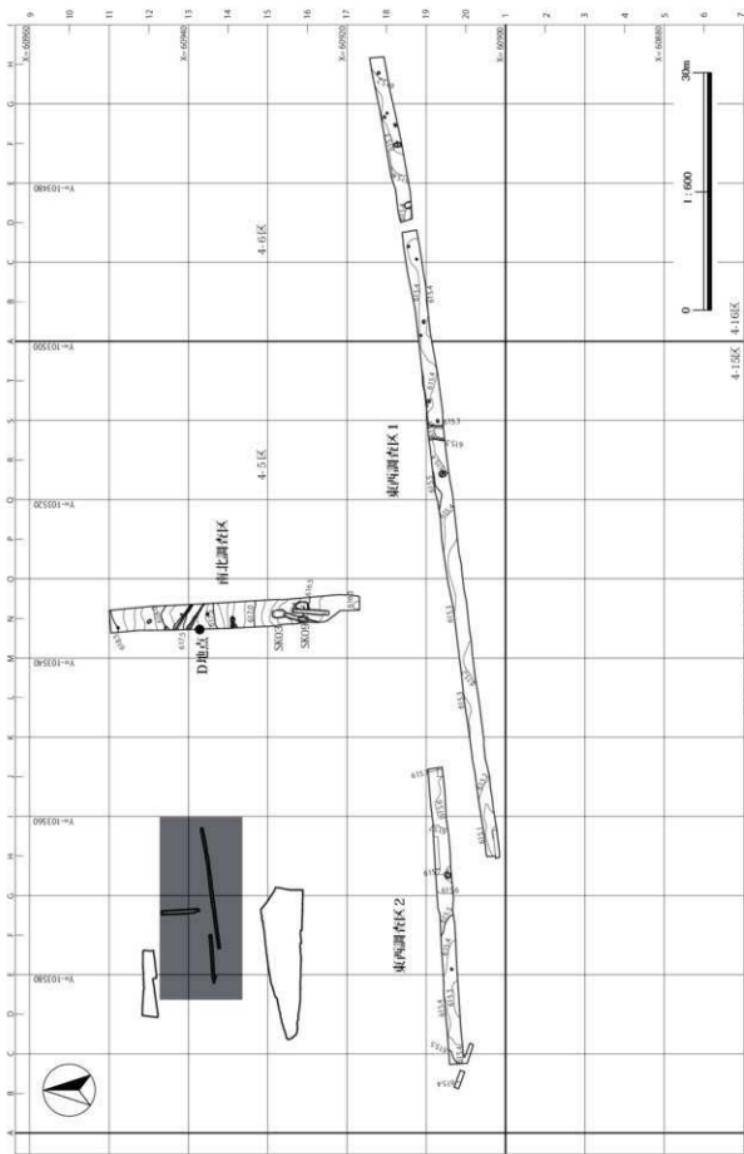
第288圖 1:2區調查區全體圖(1:600)



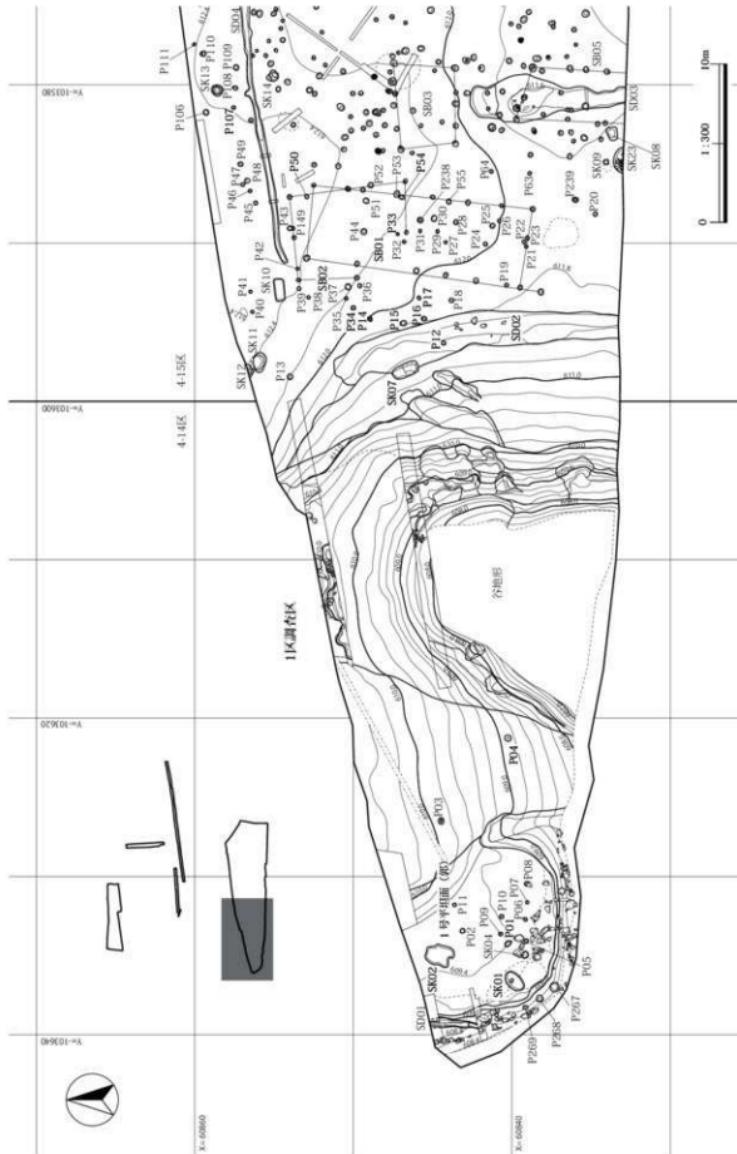
第289图 3区调查区全体图(1/600)



第290圖 4區調查區全體圖(1/600)

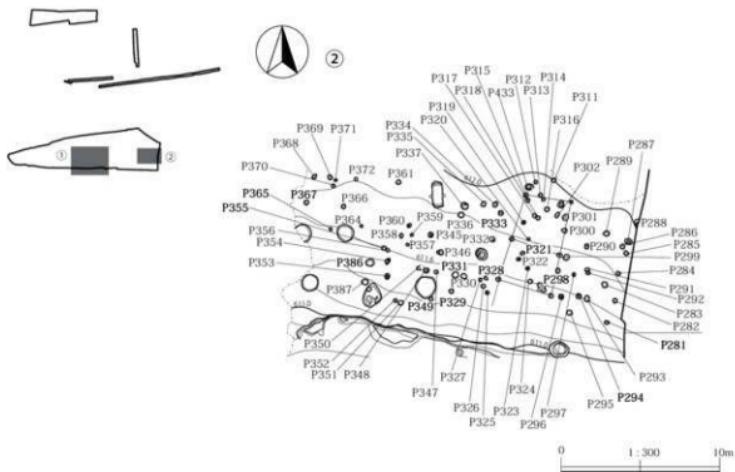
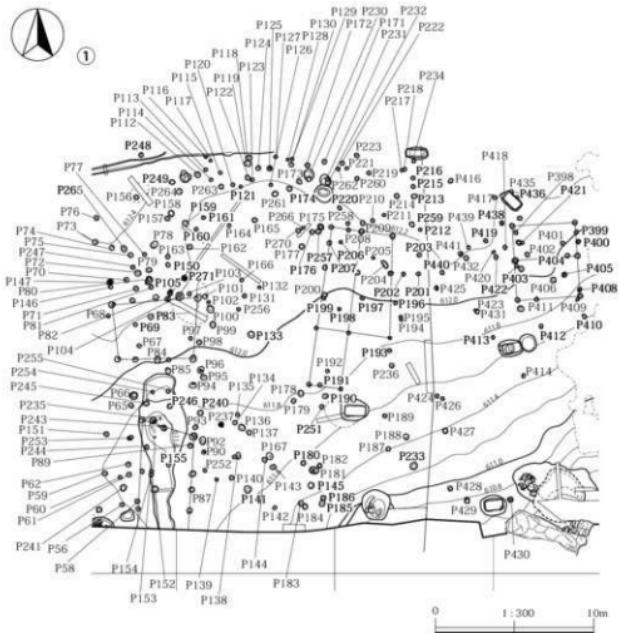


第291圖 1·2區調查區分佈圖(1/300)



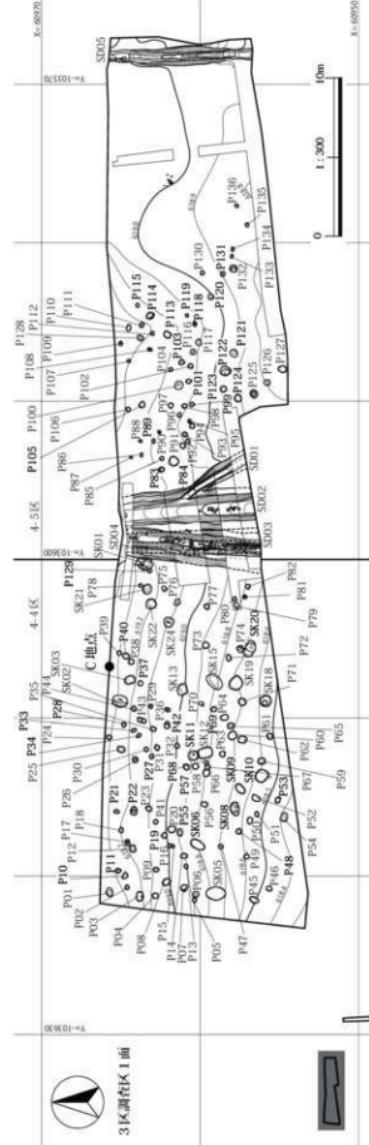
第292图 1·2区调查区分布图(1/300)



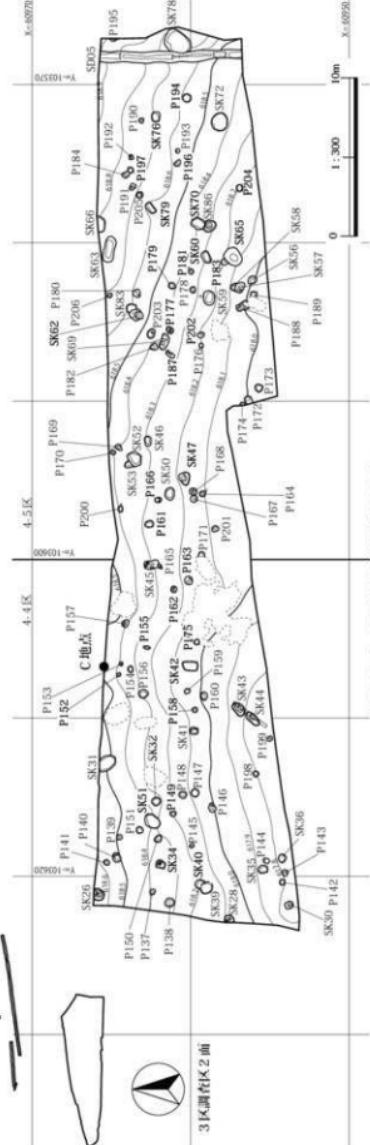


第293図 1・2区調査区分割図③(1/300)

≤ 1:5000



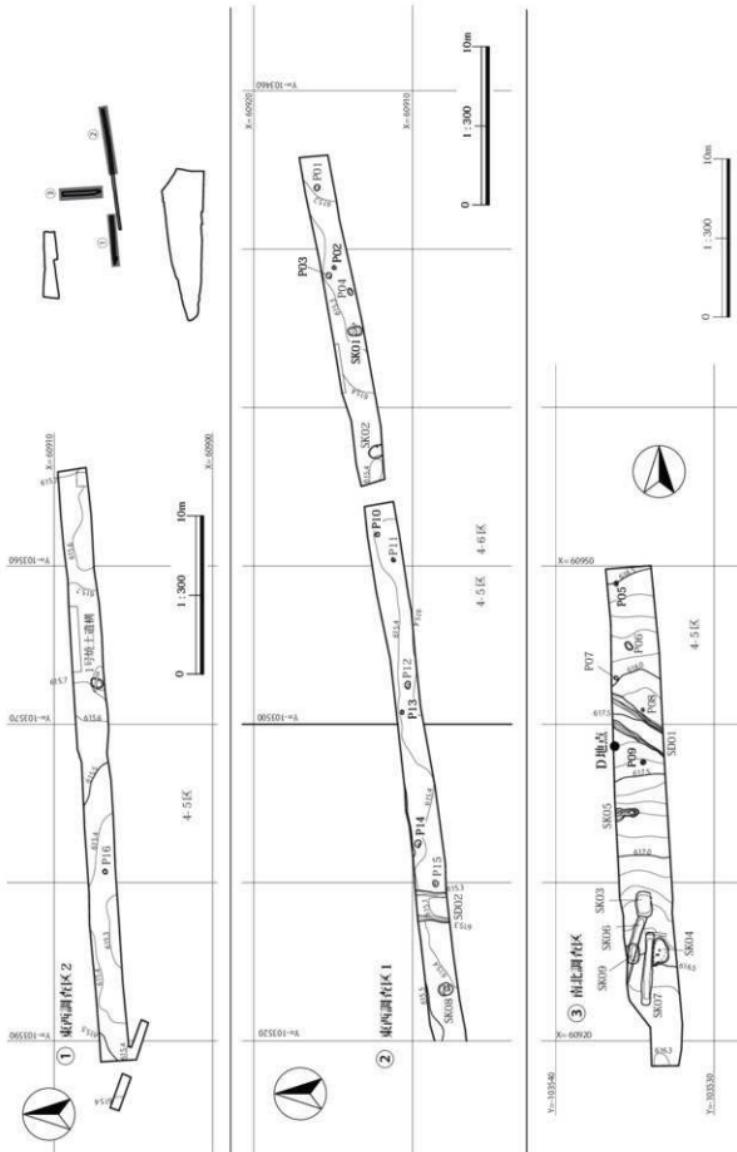
332



第294圖 3 地調查區分割圖(1/300)

第295圖

第295圖 4區調查區分割圖(1/300)



第4章 検出された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

林中原Ⅰ遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字林字中原に所在する縄文時代中期～後期にかけての集落が主体となる複合遺跡で、遺跡範囲の南側からは中世～近世にかけての遺構が確認されている。吾妻川左岸の最上位段丘面上に立地しており、最上位段丘面の南側中央部に位置している。遺跡範囲の西端は押手沢が南流し、その西側は林宮原遺跡となる。東側は林中原Ⅱ遺跡、北側は上原Ⅳ遺跡と接し、南側は段丘崖である。現況は畑地が多い。

今回の発掘調査は林中原Ⅰ遺跡の第11次調査にあたる。遺跡範囲の南側に位置し、大字林字中原 816-1 外30筆に所在する。発掘調査区は1・2区、3区、4区の3つに分かれている。1・2区は耕土置き場の都合で反転して調査を行なったため調査段階では2つの調査区としたが、本報告では1つの調査区として1・2区調査区とする。4区は発掘予定地が「L」状であるが、使用中の道路が横断しているため全域を調査することができなかつたことから3本のトレンチ状を呈する。

1・2区は段丘面南端部に立地し、北側は現在国道145号線ハッカバypassとなっている事業団の平成19年度発掘調査区（第285図B）と隣接する。3区は1・2区調査区から北へ約110mの所に位置し、南側は現在町道になっている事業団の平成21年度調査区（同図D）と、西側は町教委が試掘調査を行なった第17次調査区（同図17）と隣接している。4区は1・2区調査区と3区の間に位置する。発掘調査地点は遺跡範囲の南側に位置しており、中世～近世の遺構が多数確認された。現況は畑地・道路である。南方向に向かって緩やかに低くなる緩斜面地で、標高は609.5m～619.4mである。

今回の発掘調査で確認された遺構は、1・2区が縄文時代前期の竪穴住居跡1軒、縄文時代の土坑7基、平安時代の陥り穴6基、中世～近世の平坦面（郭か）1か所、掘立柱建物跡7棟、柱列1列、水場遺構1基、土坑31基、土壙墓1基、溝跡5条、ピット435基である。3区は2面で発掘調査を行ない、2面目は縄文時代中期～後期の土坑37基、ピット68基、1面目は中世～近世の溝跡5条、土坑17基、ピット136基、近代の焼土遺構1基である。4区は平安時代の陥り穴2基、中世～近世の溝跡2条、土坑7基、ピット16基、近代の焼土遺構1基、時期不明の土坑3基である。それ以外に1・2区 SK03・05・06・26・35・36、3区 SK04・07・14・16・17・23・25・27・29・33・37・38・48・49・54・55・61・64・67・68・71・73～75・77・80～82・84・85、3区P 185・186は土坑・ピットとして調査を行なったが、整理調査を行なった結果遺構ではないと判断したため欠番とした。また、1・2区 P 57・86・88・91・242・250はSB05に変更したため欠番とした。

調査期間が重複していたため、遺構番号は1・2区、3区、4区でそれぞれ01から付けている。そのため遺構名は1・2区 SI01のように調査区名を併記する。

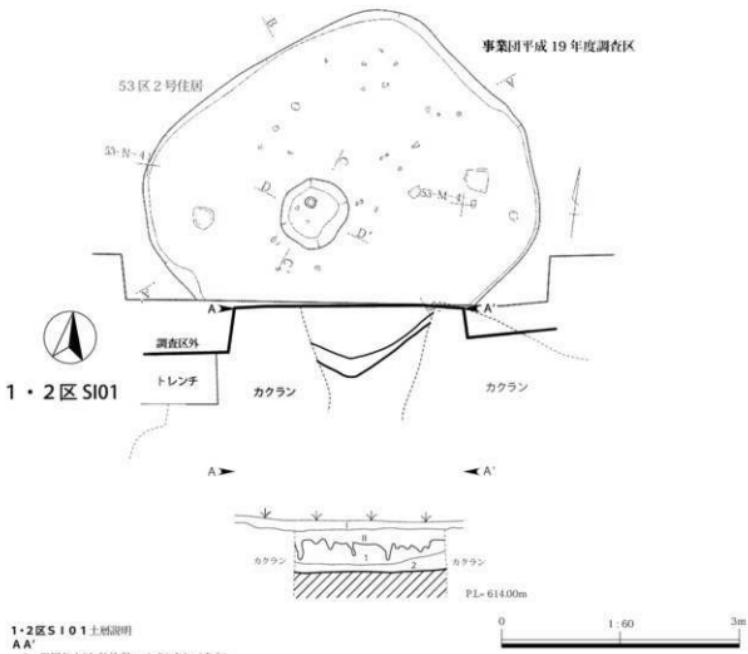
出土した遺物の種類は全ての調査区合わせて縄文土器、土師器、須恵器、中世陶磁器、近世陶磁器、石器、石製品、金属製品、古錢で、その数量はテンバコ14箱分であった。

第2節 縄文時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

1・2区 SI01 (第296図／PL 119)

位置 4-52区L-7・8、M-7 グリッド (1・2区調査区中央西部北壁際)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 北側の大半が調査区外にあり、事業団によって平成19年度に発掘調査が実施されている。今回の調査分は約半分がカクランで壊されている。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平



第296図 1・2区SI01実測図(1/60)

面形は事業団調査分と合わせて、隅丸形を呈する。今回調査を行なった分は主軸が1.28m以上、副軸が0.93m以上、確認面からの深さが最深39cm、床面積は0.78m²を測る。事業団調査分と合わせると、主軸4.50m、副軸4.15mを測る。**主軸方位** N-45°-E **壁・壁溝** 壁高は南東壁で38cmを測り、外傾して立ち上がる。壁溝は確認されていない。**床面** 直床式であるが、貼床や踏み締りは確認されなかった。**柱穴** 確認されていない。**炉跡** 事業団調査区で確認された。**その他の施設** 確認されていない。**遺物検出状況** 遺物は出土していない。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、確認された場所から事業団の平成19年度発掘調査の53区2号住居の南隅部と判断した。帰属時期は、本調査では遺物が出土していないため判断できなかったが、事業団の調査成果から縄文時代前期前半と考えられる。

(2) 土坑

3区調査区は、1面目の遺構確認面から2面目の確認面のローム漸移層の間で縄文時代後期の土器片が出土し、2面目の遺構確認面からは縄文時代中期後葉の土器が出土している。このことから、3区調査区2面目で確認された土坑は、縄文時代中期～後期前半と考えられると判断した。

1・2区 SK30(第297図/PL 119)

位置 4-15区O-12グリッド(1・2区調査区西部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸136cm、短軸131cm、確認面からの深さ29cmを測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、平面・断面形の形態及び同様の遺構の分布状況から、縄文時代に帰属する貯蔵穴と考えられる。

1・2区 SK37(第297図)

位置 4-15区M-12グリッド(1・2区調査区東部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸107cm、短軸102cm、確認面からの深さ25cmを測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、平面・断面形の形態及び同様の遺構の分布状況から、縄文時代に帰属する貯蔵穴と考えられる。

1・2区 SK38(第297図)

位置 4-15区M-11グリッド(1・2区調査区東部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 西側約1

／3がカクランで壊されている。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈すると考えられる。規模は長軸115cm、短軸78cm以上、確認面からの深さ24cmを測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、平面・断面形の形態及び同様の遺構の分布状況から、縄文時代に帰属する貯蔵穴と考えられる。

1・2区 SK39(第298図/PL 119)

位置 4-15区L-11・12グリッド(1・2区調査区東部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 南西側約1／4がカクランで壊されている。 **覆土** 上層は黒色土と黒褐色土が互層をなし、下層は褐色土・ぶい黄褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈すると考えられる。規模は長軸140cm、短軸131cm以上、確認面からの深さ63cmを測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 東・西壁は外傾して立ち上がる。北壁は下位が大きく内傾し、上位は外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 覆土下層から縄文土器片1点が出土したが、図示し得なかった。 **備考** 本遺構は、縄文土器片が出土していること、平面・断面形の形態及び同様の遺構の分布状況から、縄文時代に帰属する貯蔵穴と考えられる。

1・2区 SK45(第298図/PL 119)

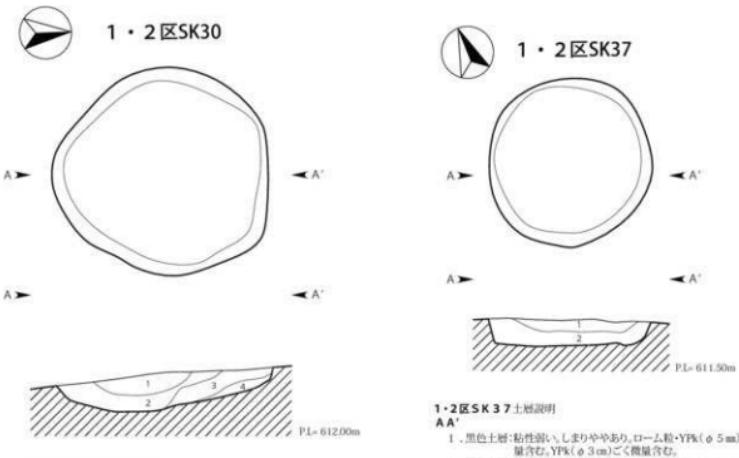
位置 4-15区I-11・12グリッド(1・2区調査区中央東部南側)。 **重複関係** SK46と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 概ね良好である。 **覆土** 上層は黒色土、下層は黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸113cm、短軸92cm以上、確認面からの深さ47cmを測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。

遺物 なし。 **備考** 本遺構は、平面・断面形の形態及び同様の遺構の分布状況から、縄文時代に帰属する貯蔵穴と考えられる。

1・2区 SK48(第298図/PL 119)

位置 4-15区N-11グリッド(1・2区調査区東部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸112cm、

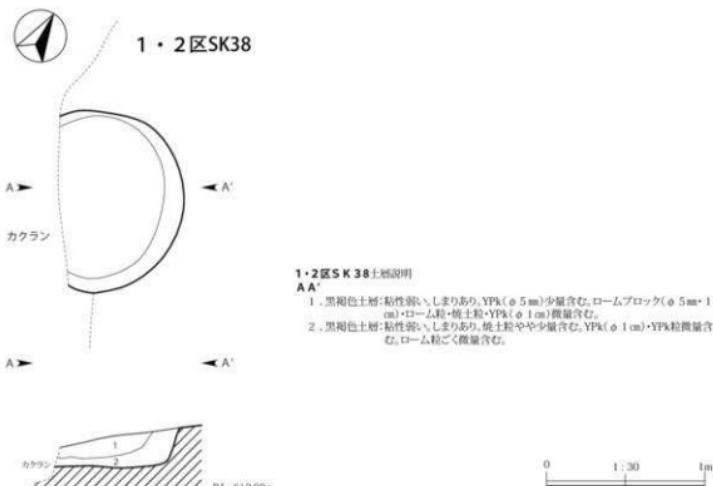


1・2区SK30 土層説明
AA'

1. 黒色土層：粘性弱い、しまりややあり。炭化粒（φ 5mm）・焼土粒微量含む。YPk（φ 5mm）あり。
2. 黒色土層：粘性弱い、しまりややあり。ローム粒少量含む。ロームブロック（φ 5mm）あり。
3. 黒色土層：粘性あり。しまりややあり。YPk粒微量含む。ローム粒ごく微量含む。
4. 黒褐色土層：粘性あり。しまりややあり。ローム粒ごく微量含む。YPk（φ 5mm）あり。

1・2区SK37 土層説明

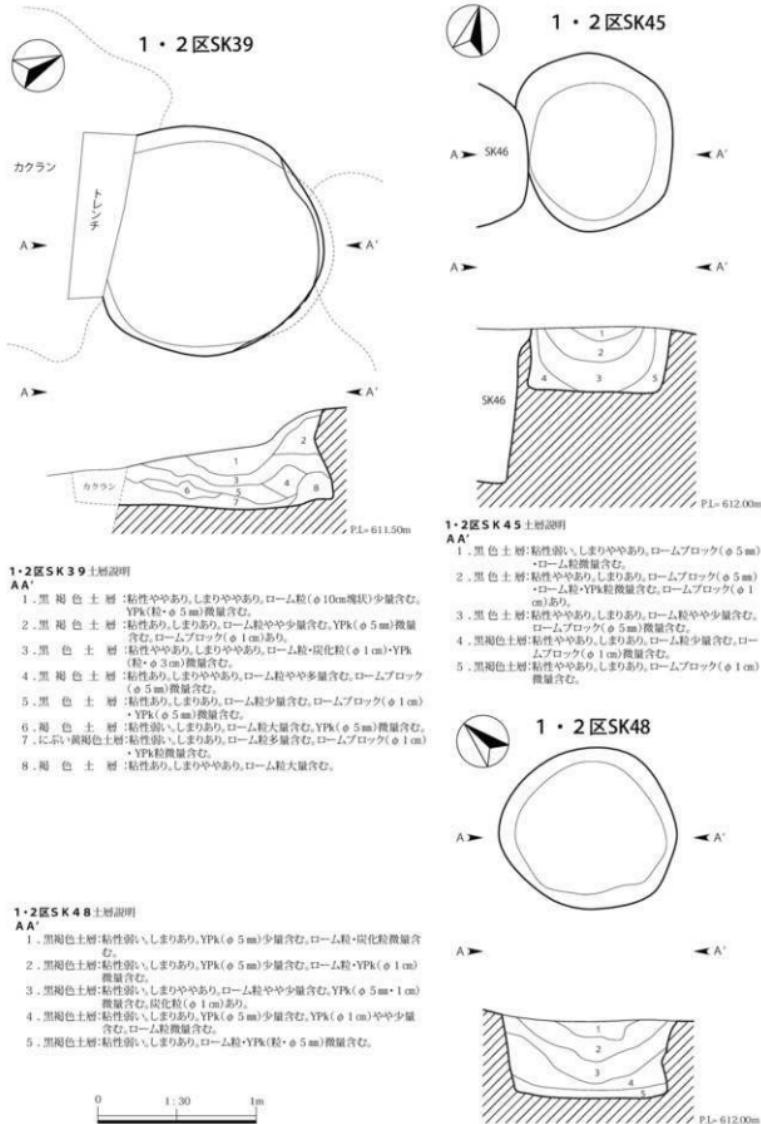
- AA'
1. 黒色土層：粘性弱い、しまりややあり。ローム粒・YPk（φ 5mm）少量含む。YPk（φ 3cm）ごく微量含む。
 2. 黒色土層：粘性ややあり。しまりあり。ローム粒・YPk（φ 5mm～1cm）微量含む。焼土粒（φ 5mm）あり。



1・2区SK38 土層説明

- AA'
1. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり。YPk（φ 5mm）少量含む。ロームブロック（φ 5mm・1cm）・ローム粒・焼土粒・YPk（φ 1cm）微量含む。
 2. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり。焼土粒やや少量含む。YPk（φ 1cm）・YPk粒微量含む。ローム粒ごく微量含む。

第297図 1・2区SK30・37・38実測図(1/30)



第298図 1・2区SK39・45・48実測図(1/30)

短軸 102cm、確認面からの深さ 54cmを測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 北西側は外傾して立ち上がる。南東側は下位が内傾し、上位が外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、平面・断面形の形態及び同様の遺構の分布状況から、縄文時代に帰属する貯蔵穴と考えられる。

1・2区 SK51（第299図）

位置 4-15区M-11グリッド（1・2区調査区東部南側）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 上位が力クランで壊されている。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 100cm、短軸 95cm、確認面からの深さ 36cmを測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 西壁はほぼ垂直に立ち上がり、上位が外傾する。その他の壁は外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、平面・断面形の形態及び同様の遺構の分布状況から、縄文時代に帰属する貯蔵穴と考えられる。

3区 SK26（第299図）

位置 4-4区P-7グリッド（2面／3区調査区西端部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 北側は調査区外にあるが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈すると考えられる。規模は長軸 67cm以上、短軸 76cm、確認面からの深さ 44cmを測る。 **主軸方位** N-18°-E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 東側が段状を呈する。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区 SK28（第299図）

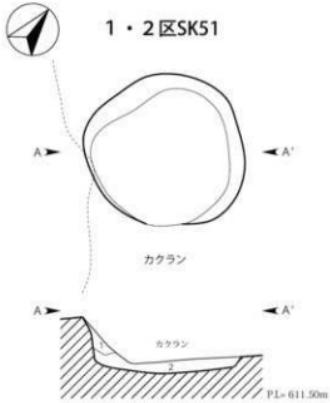
位置 4-4区P-9グリッド（2面／3区調査区西端部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 西側が調査区外にあるが、概ね良好である。 **覆土** 暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈すると考えられる。長軸 64cm以上、短軸 51cm以上、確認面からの深さ 23cmを測る。 **主軸方位** N-33°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 一部がわずかに窪んでいるが概ね平坦である。地山の礫が露出している。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区 SK30（第299図）

位置 4-4区P-10グリッド（2面／3区調査区西端部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 53cm、短軸 46cm、確認面からの深さ 25cmを測る。 **主軸方位** N-32°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 西側が一段低くなる。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は、2面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区 SK31（第300図）

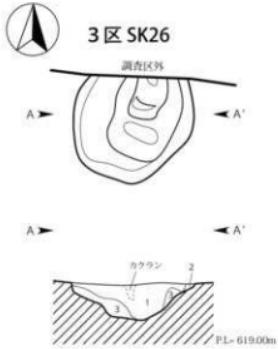
位置 4-4区R-7・8グリッド（2面／3区調査区西部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 北側は調査区外にあるが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 109cm以上、短軸 88cm、確認面からの深さ 19cmを測る。 **主軸方位** N-22°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** 縄文土器片・チャートが出土したが、図示し得なかった。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、時期を特定し得る遺物が出土していないが2面目で確認された遺構であることから、縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。



1・2区SK51 土層説明

A A'

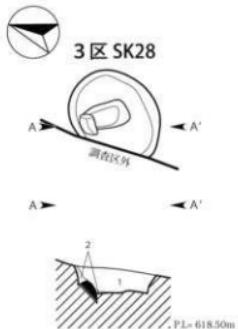
1. 黒褐色土層：粘性ややあり、しまりあり、ロームブロック(Φ 5mm)やや少量含む。ロームブロック(Φ 1cm)・Ypk(Φ 5mm)微量含む。
2. 黑褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒少量含む。炭化粒(Φ 1cm)・Ypk(粒)・Φ 5mm 推量含む。ロームブロック(Φ 1cm)・Ypk(Φ 1cm)あり。



3区SK26 土層説明

A A'

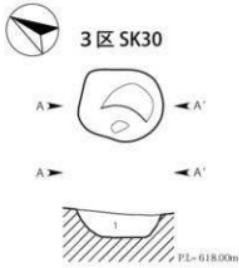
1. 黒褐色土層：粘性ややあり、しまりあり。ローム粒・Ypk(Φ 5mm)・小礫少量含む。
2. 哀褐色土層：粘性ややあり、しまりあり。ローム粒微量含む。
3. 褐色ローム層：粘性弱い、しまりあり。ロームブロック(Φ 5~15mm)大量含む。



3区SK28 土層説明

A A'

1. 暗褐色土層：粘性あり、しまりあり。Ypk(Φ 5mm) 多量含む。ローム粒・白色粒・礫少量含む。小礫微量含む。
2. 哀褐色土層：粘性あり、しまりあり。ロームブロック(Φ 3cm)・Ypk(Φ 5mm) 多量含む。ローム粒・小礫・礫微量含む。



3区SK30 土層説明

A A'

1. 黒褐色土層：粘性ややあり、しまりあり。Ypk(Φ 5mm) 多量含む。白色粒少量含む。ロームブロック(Φ 1cm)・ローム粒・小礫・礫微量含む。



第299図 1・2区SK51、3区SK26・28・30実測図(1/30)

3区 SK32（第300・308図／PL 120・132）

位置 4—4区Q—8グリッド（2面／3区調査区西部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 遺構上位は表土掘削の際に破壊され、下位の方までその影響がある。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸56cm、短軸55cm、確認面からの深さ10cmを測る。**主軸方位** 不明。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 少少原位置から動いているものの、縄文土器が正位で据えられたような状態で出土した。また、板状の石も見られた。縄文土器1点を図示し得た。**備考** 本遺構は、板状の石や炭化粒が出土していることなどから炉跡の可能性が想定できる。しかし、表土掘削の際に住居プランや住居施設に該当するような遺構は確認できなかった。本遺構の帰属時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E式期）と考えられる。なお、その他の2面目の遺構がローム漸移層で確認できたのに対し、本遺構は遺物が見つかったことによって、その直上の暗褐色土層がローム漸移層に切り替わりつつある高さで確認することができた。このことから、3区2面目で確認された遺構も本遺構と同じ高さで確認できた遺構であった可能性が考えられる。

3区 SK34（第300図）

位置 4—4区Q—8グリッド（2面／3区調査区西部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸59cm、短軸51cm、確認面からの深さ32cmを測る。**主軸方位** N—22°—E
壁面 ほぼ垂直に立ち上がる。**底面** 凸凹している。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明であるが、底面の凸凹の形状が根の痕跡に近いことから植栽痕の可能性も考えられる。帰属時期は、2面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区 SK35（第300図）

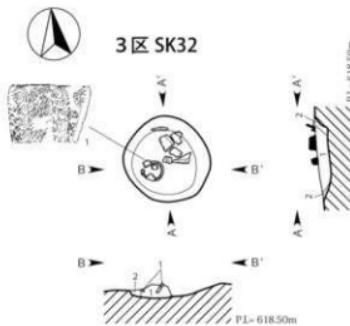
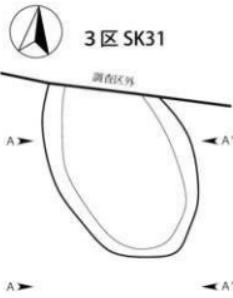
位置 4—4区Q—9グリッド（2面／3区調査区西端部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は隅丸方形を呈する。規模は長軸62cm、短軸51cm、確認面からの深さは27cmを測る。**主軸方位** N—2°—W
壁面 外傾して立ち上がる。**底面** 東側に向かって傾斜している。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区 SK36（第301図／PL 120）

位置 4—4区Q—10グリッド（2面／3区調査区西端部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸52cm、短軸47cm、確認面までの深さ15cmを測る。**主軸方位** N—76°—W
壁面 南壁は大きく外傾して立ち上がる。北壁は外傾して立ち上がり、中位に段を有する。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区 SK39（第301図）

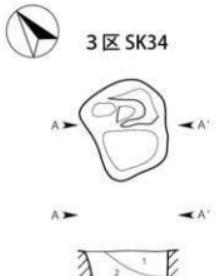
位置 4—4区P—9グリッド（2面／3区調査区西端部）。**重複関係** SK40と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 概ね良好である。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸推定82cm、短軸69cm、確認面までの深さ18cmを測る。**主軸方位** N—39°—W
壁面 外傾して立ち上がる。**底面** 北側に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。



3区SK31 土壌説明

AA'

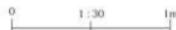
1. 黒褐色土層：粘性強い、しまりあり、白色粒や少量含む。ロームブロック（φ 1~3cm）・ローム粒・白色粒・YPk（φ 1cm）微量含む。
2. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒多量含む。白色粒（φ 5mm）微量含む。
3. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ロームブロック（φ 5mm）・ローム粒・白色粒微量含む。縦（φ 3cm）あり。



3区SK34 土壌説明

AA'

1. 黒褐色土層：粘性ややあり、しまりあり。白色粒多量含む。ローム粒・YPk（φ 2~5mm）少量含む。
2. 黒褐色土層：粘性ややあり、しまりあり。白色粒多量含む。ローム粒・YPk（φ 1mm~1cm）少量含む。ロームブロック（φ 1cm）微量含む。
3. 暗色ローム層：粘性ややあり、しまりあり。YPk（φ 1cm）微量含む。



第300図 3区SK31・32・34・35実測図(1/30)

遺物 なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区 SK40（第301図）

位置 4—4区P—9グリッド（2面／3区調査区西端）。 **重複関係** SK39と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** SK39によって南側が壊されている。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層はにぶい黄褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈すると考えられる。規模は長軸40cm以上、短軸57cm、確認面からの深さ19cmを測る。 **主軸方位** N—18°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。

底面 西側が若干低い段状を呈する。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区 SK41（第301図）

位置 4—4区R—8・9グリッド（2面／3区調査区西部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 概ね良好である。 **覆土** 上層は黒褐色土、中層は暗褐色土、下層はにぶい黄褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸52cm、短軸41cm、確認面からの深さ32cmを測る。 **主軸方位** N—9°—E **壁面** 西壁は外傾して立ち上がる。東壁はほぼ直立し、上位が外傾する。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区 SK42（第301図）

位置 4—4区S—8・9グリッド（2面／3区調査区西部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 概ね良好である。 **覆土** 上層は暗褐色土、下層は褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸99cm、短軸60cm、確認面からの深さ17cmを測る。 **主軸方位** N—5°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区 SK43（第302図）

位置 4—4区S—9グリッド（2面／3区調査区西部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 概ね良好である。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸93cm、短軸61cm、確認面からの深さ22cmを測る。 **主軸方位** N—54°—E **壁面** 下位はほぼ垂直に立ち上がり、上位は大きく外傾する。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区 SK44（第302図）

位置 4—4区R・S—9グリッド（2面／3区調査区西部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 概ね良好である。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸107cm、短軸52cm、確認面からの深さ23cmを測る。 **主軸方位** N—46°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央部東側が一段低くなり、テラス状を呈する。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。



第301図 3区SK36~39~42実測図(1/30)

3区 SK45（第302図）

位置 4—4区T—8グリッド（2面／3区調査区中央部）。**重複関係** P 165と重複しているが、新旧関係は不明である。**遺存状態** 概ね良好である。**覆土** 上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は中央がわずかに括れた楕円形を呈する。規模は長軸92cm、短軸53cm、確認面からの深さ27cmを測る。**主軸方位** N—7°—W **壁面** 大きく外傾して立ち上がり、西壁の一部に段を有する。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区 SK46（第302図／P L 120）

位置 4—5区B—8グリッド（2面／3区調査区中央部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 概ね良好である。**覆土** 上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸62cm、短軸41cm、確認面からの深さ33cmを測る。**主軸方位** N—90° **壁面** 東・北壁はほぼ垂直に立ち上がり、西・南壁は外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区 SK47（第302図）

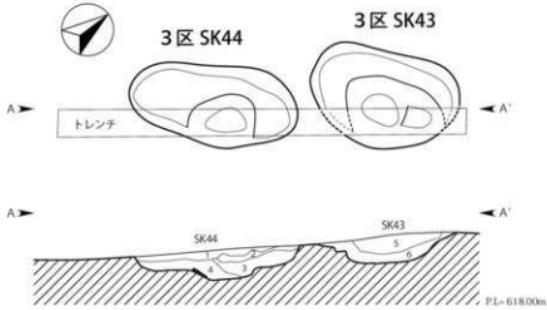
位置 4—5区A・B—8グリッド（2面／3区調査区中央部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 概ね良好である。**覆土** 上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は隅丸三角形状を呈する。規模は長軸81cm、短軸71cm、確認面からの深さ13cmを測る。**主軸方位** N—59°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 北側が一段低くなり、南側はテラス状を呈する。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区 SK50（第303図／P L 120）

位置 4—5区A—8グリッド（2面／3区調査区中央部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 概ね良好である。**覆土** 上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸80cm、短軸58cm、確認面からの深さ16cmを測る。**主軸方位** N—90° **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区 SK51（第303図）

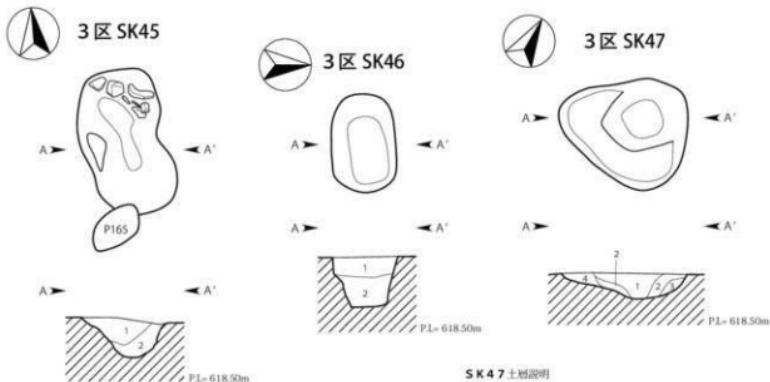
位置 4—4区Q—8グリッド（2面／3区調査区西部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 概ね良好である。**覆土** 黒褐色土が基盤で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸108cm、短軸79cm、確認面からの深さ22cmを測る。**主軸方位** N—46°—E **壁面** 北壁は大きく外傾し、その他は外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。



3区SK43・44土層説明

AA'

1. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ロームブロック(φ 1cm)・焼土粒・白色粒(φ 5mm)微量含む。YPk(φ 1cm)あり。
2. 暗褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒多量含む。白色粒(φ 5mm)微量含む。
3. 暗褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。焼土粒・白色粒微量含む。白色粒(φ 5mm)あり。
4. 暗褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。ロームブロック(φ 5mm)・白色粒(φ 5mm)微量含む。白色粒ごく微量含む。YPk(φ 1cm)あり。
- (以上SK44)
5. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。白色粒やや少量含む。ローム粒・炭化物・白色粒(φ 5mm)・YPk粒微量含む。
6. 暗褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。白色粒やや少量含む。炭化物・白色粒(φ 5mm)・YPk(φ 1cm)微量含む。(以上SK43)



3区SK45土層説明

AA'

1. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒・白色粒(φ 5mm)・YPk粒微量含む。
2. 暗褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。焼土粒・白色粒・礫(φ 1cm)微量含む。白色粒(φ 5mm)・YPk(φ 1cm)あり。

3区SK46土層説明

AA'

1. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。白色粒・YPk(φ 5mm)微量含む。
2. 暗褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。ローム粒・白色粒少量含む。ロームブロック(φ 1~5cm)・YPk粒・小礫微量含む。

3区SK47土層説明

AA'

1. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。ローム粒少量含む。白色粒・YPk(φ 1mm~1cm)・小礫微量含む。
2. 暗褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。ローム粒・YPk(φ 1mm)微量含む。白色粒・小礫微量含む。
3. 暗褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。ロームブロック(φ 5mm)多量含む。ローム粒・白色粒微量含む。
4. 暗褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。ローム粒・YPk(φ 2mm)微量含む。



第302図 3区SK43~47実測図(1/30)

3区SK52(第303図)

位置 4—5区B—8グリッド(2面／3区調査区中央部)。 **重複関係** SK53と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 概ね良好である。**覆土** 上層は黒褐色土、下層はにぶい黄褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は隅丸五角形を呈する。規模は長軸94cm、短軸77cm、確認面からの深さ29cmを測る。**主軸方位** N—28°—W **壁面** 東・南壁はほぼ垂直に、西・北壁は大きく外傾して立ち上がる。**底面** 南側に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。**遺物** なし。

備考 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区SK53(第303図)

位置 4—5区B—8グリッド(2面／3区調査区中央部)。 **重複関係** SK52と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** SK52によって南半分が壊されている。**覆土** 上層は黒褐色土、中層は褐色土、下層は暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈すると考えられる。規模は長軸42cm以上、短軸50cm以上、確認面からの深さ26cmを測る。**主軸方位** N—28°—W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区SK56(第303図)

位置 4—5区D—9グリッド(2面／3区調査区東部)。 **重複関係** なし。**遺存状態** 概ね良好である。**覆土** 暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸58cm、短軸48cm、確認面からの深さ15cmを測る。**主軸方位** N—53°—W **壁面** 外傾して立ち上がり、南壁の一部が段状を呈する。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区SK57(第304図)

位置 4—5区D—9グリッド(2面／3区調査区東部)。 **重複関係** SK58と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 概ね良好である。**覆土** 黒褐色土と暗褐色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸68cm、短軸53cm、確認面からの深さ24cmを測る。

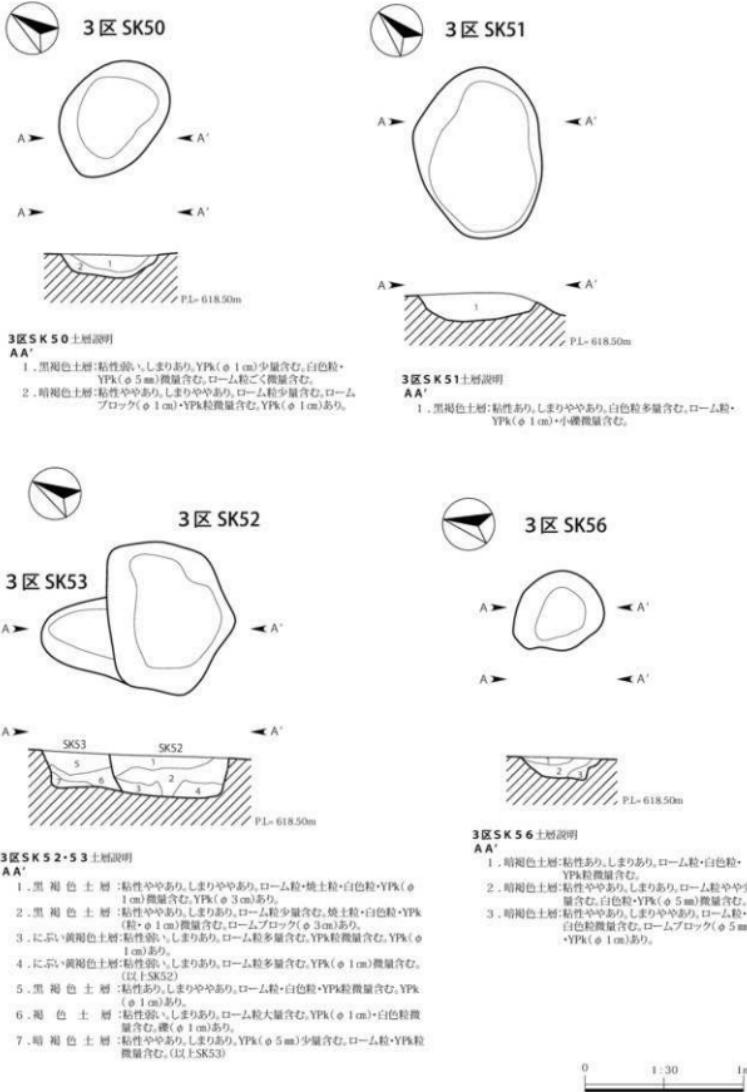
主軸方位 N—67°—W **壁面** 外傾して立ち上がり、西壁は段状を呈する。**底面** 東側が一段低くなる。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区SK58(第304図)

位置 4—5区D—9グリッド(2面／3区調査区東部)。 **重複関係** SK57と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** SK57によって南半分が壊されており、**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。

平面形と規模 平面形は円形を呈すると考えられる。規模は長軸30cm以上、短軸51cm以上、確認面からの深さ19cmを測る。**主軸方位** N—0° **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。

備考 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。



第303図 3区SK50~53・56実測図(1/30)

3区 SK59（第304図）

位置 4—5区D—9グリッド（2面／3区調査区東部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 概ね良好である。

覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸91cm、短軸69cm、確認面からの深さ32cmを測る。**主軸方位** N—90°**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 中央に向かって傾斜する。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区 SK60（第304図）

位置 4—5区D—9グリッド（2面／3区調査区東部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 概ね良好である。

覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸78cm、短軸48cm、確認面からの深さ21cmを測る。**主軸方位** N—77°—E**壁面** 北壁は大きく外傾し、その他の壁は外傾して立ち上がる。**底面** 中央に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区 SK62（第304図）

位置 4—5区D—8グリッド（2面／3区調査区東部）。**重複関係** SK83と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 概ね良好である。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸90cm、短軸72cm、確認面からの深さ37cmを測る。**主軸方位** N—5°—E

壁面 北壁は大きく外傾し、中位に段を有する。その他の壁は外傾して立ち上がる。**底面** 南側に寄っており、概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区 SK63（第305図／PL 120）

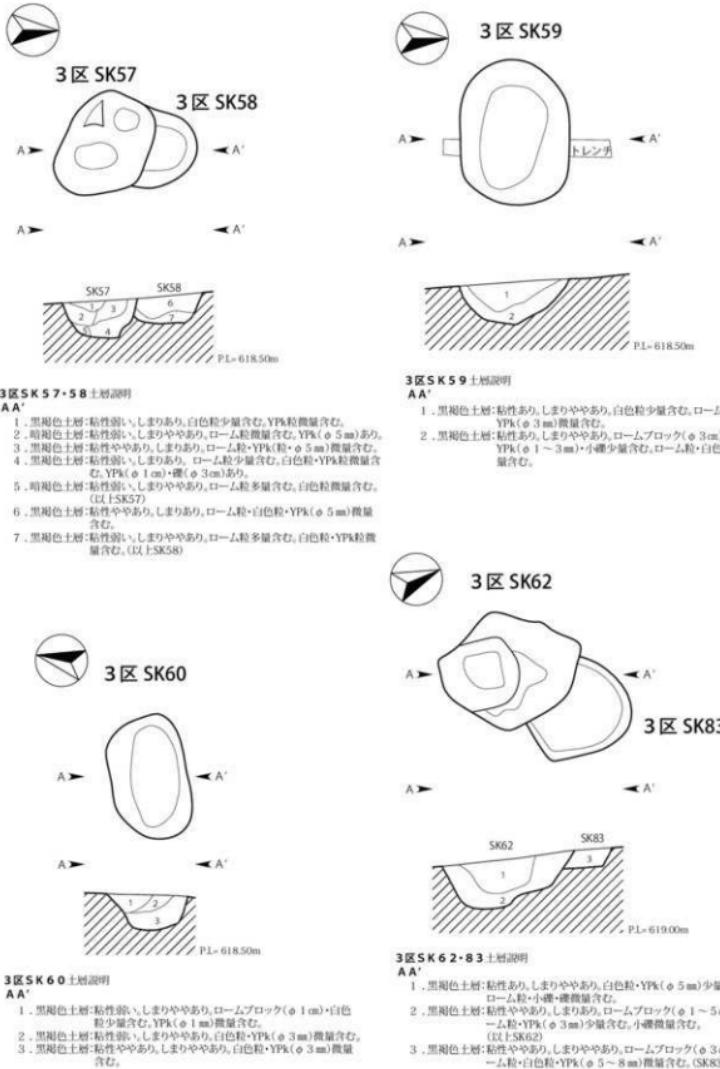
位置 4—5区D—E—7・8グリッド（2面／3区調査区東部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 概ね良好である。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸164cm、短軸63cm、確認面からの深さ60cmを測る。**主軸方位** N—82°—W**壁面** 東・西壁は大きく外傾し、南・北壁は外傾して立ち上がる。**底面** 中央に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態の特徴から陥り穴の可能性が考えられる。帰属時期は、2面で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区 SK65（第305図）

位置 4—5区D—9グリッド（2面／3区調査区東部）。**重複関係** P 183と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 概ね良好である。**覆土** 黒褐色土が基調で、最下層の一部に暗褐色土が堆積する。複雑な堆積を示すが自然堆積と考えられる。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸119cm、短軸95cm、確認面からの深さ38cmを測る。**主軸方位** N—60°—E**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 南側に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区 SK66（第305図）

位置 4—5区E—7グリッド（2面／3区調査区東部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 北側は調査区



0 1:30 1m

第304図 3区SK57~60・62・83実測図(1/30)

外にあるが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は大半が調査区外にあるため不明である。規模は長軸 106cm 以上、短軸 48cm 以上、確認面からの深さ 20cm を測る。

主軸方位 不明。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2 面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3 区 SK69（第 305 図）

位置 4—5 区 C—8 グリッド（2 面／3 区調査区中央部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸 100cm、短軸 47cm、確認面からの深さ 31cm を測る。 **主軸方位** N—73°—W **壁面** 東・西壁は外傾して立ち上がる。南・北壁は、下位は大きく外傾し、中位からほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 中央部が一段低く、長軸両端がテラス状を呈する。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2 面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3 区 SK70（第 306 図）

位置 4—5 区 E—9 グリッド（2 面／3 区調査区東部）。 **重複関係** SK86 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸 87cm、短軸 71cm、確認面からの深さ 18cm を測る。 **主軸方位** N—32°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 東側に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2 面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3 区 SK72（第 306 図）

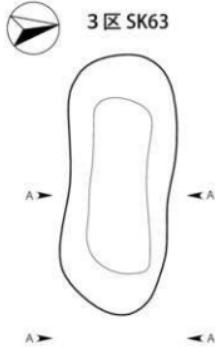
位置 4—5 区 F—9 グリッド（2 面／3 区調査区東部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 109cm、短軸 107cm、確認面からの深さ 11cm を測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2 面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3 区 SK76（第 306 図／PL 120）

位置 4—5 区 F—8 グリッド（2 面／3 区調査区東端）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 概ね良好である。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸方形を呈する。規模は長軸 63cm、短軸 51cm、確認面からの深さ 25cm を測る。 **主軸方位** N—90° **壁面** 東壁が外傾して立ち上がり、その他の壁はほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2 面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3 区 SK78（第 306 図）

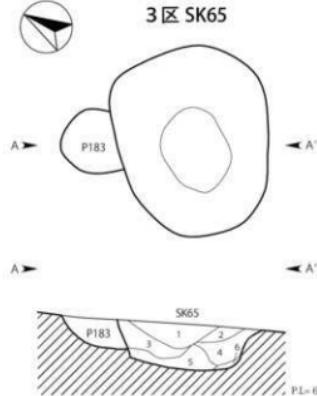
位置 4—5 区 G—8・9 グリッド（2 面／3 区調査区東端）。 **重複関係** SD05 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** SD05 によって西端部が壊されている。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は黑色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸 177cm、短軸 129cm 以上、確認面からの深さ 25cm を測る。 **主軸方位** N—49°—E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。



3区SK63上層説明

AA'

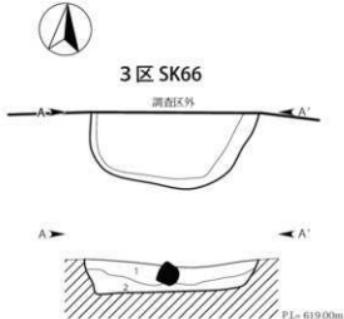
1. 黒褐色土層: 粘性あり。しまりややあり。ローム粒多量含む。YPk(φ 3~5mm)微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性あり。しまりややあり。ローム粒・白色粒・YPk(φ 1mm)微量含む。
3. 黒褐色土層: 粘性あり。しまり弱い。ロームブロック(φ 5~8cm)多量含む。ローム粒・YPk(φ 1mm)微量含む。



3区SK65上層説明

AA'

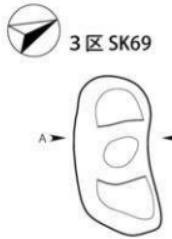
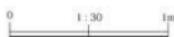
1. 黒褐色土層: 粘性あり。しまりややあり。ロームブロック(φ 1~7mm)多量含む。ローム粒少量含む。白色粒・YPk(φ 2mm)微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性あり。しまりややあり。ローム粒少量含む。ロームブロック(φ 1cm)・白色粒・YPk(φ 2mm)微量含む。
3. 黒褐色土層: 粘性あり。しまりややあり。ロームブロック(φ 5mm)・白色粒・ローム粒微量含む。
4. 黑褐色土層: 粘性あり。しまりややあり。ロームブロック(φ 1~3cm)・ローム粒・白色粒微量含む。
5. 黑褐色土層: 粘性あり。しまりややあり。ローム粒多量含む。ロームブロック(φ 1cm)微量含む。
6. 黑褐色土層: 粘性あり。しまり弱い。ロームブロック(φ 2cm)・ローム粒多量含む。



3区SK66上層説明

AA'

1. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。白色粒少量含む。ローム粒・YPk(φ 2mm~1cm)微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりややあり。白色粒少量含む。ローム粒・YPk(φ 2~5mm)微量含む。

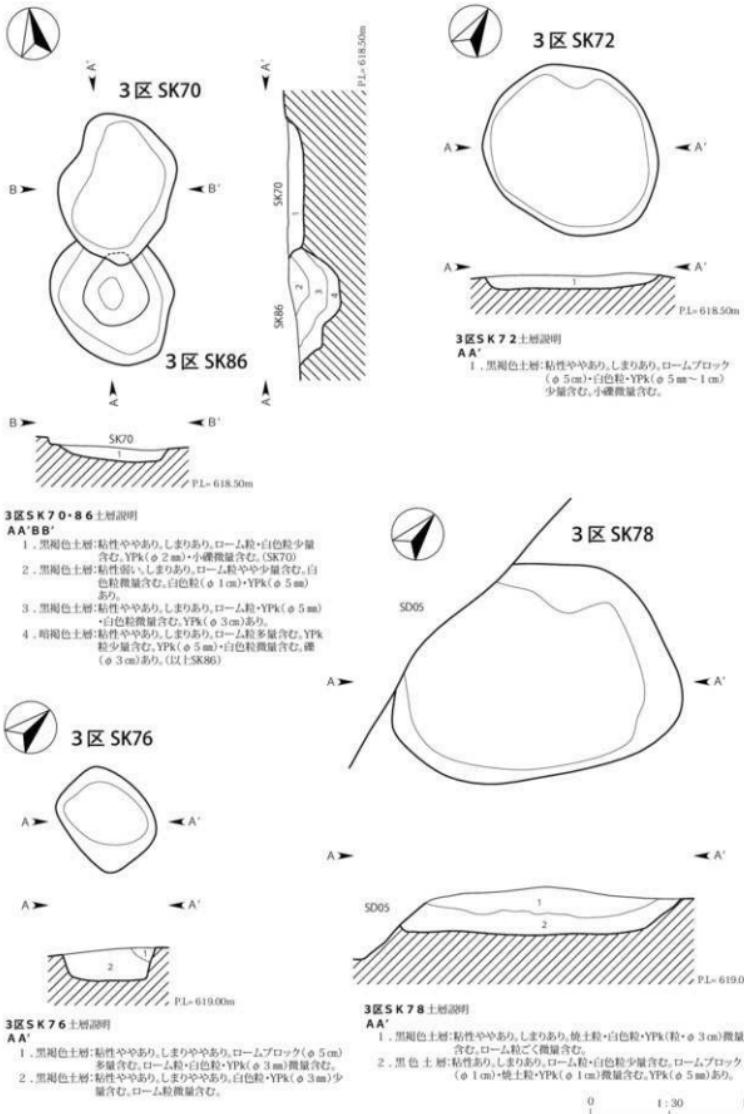


3区SK69上層説明

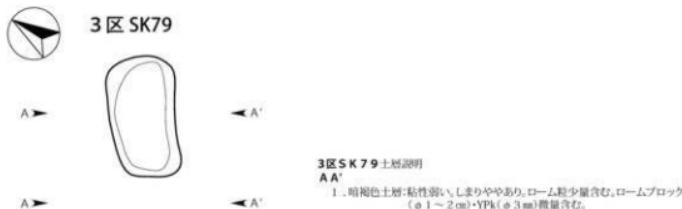
AA'

1. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。白色粒微量含む。YPk(φ 1mm)あり。
2. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。ローム粒・YPk粒微量含む。YPk(φ 1cm)・礫(φ 1cm)あり。
3. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまり弱い。ローム粒やや多量含む。ロームブロック(φ 1cm)・YPk(粒・φ 1cm)微量含む。

第305図 3区SK63・65・66・69実測図(1/30)



第306図 3区SK70-72-76-78-86実測図(1/30)



第307図 3区SK79実測図(1/30)



第308図 繩文時代土坑出土遺物実測図(1/4)

帰属時期は、2面で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区 SK79 (第307図)

位置 4—5区E—8 グリッド (2面／3区調査区東部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 上位はカクランによって壊されている。 **覆土** 暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は卵円長方形を呈する。規模は長軸 75cm、短軸 42cm、確認面からの深さ 32cm を測る。 **主軸方位** N—56°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区 SK83 (第304図)

位置 4—5区D—8 グリッド (2面／3区調査区東部)。 **重複関係** SK62 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** SK62 によって南西部が壊されている。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈すると考えられる。規模は長軸 67cm 以上、短軸 60cm 以上、確認面からの深さ 12cm を測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

3区 SK86 (第306図)

位置 4—5区E—9 グリッド (2面／3区調査区東部)。 **重複関係** SK70 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** SK70 によって北東部が壊されている。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が堆積してい

る。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 86cm 以上、短軸 70cm、確認面からの深さ 26cm を測る。**主軸方位** N-18°-W **壁面** 東・南壁は大きく外傾し中位に段を有する。西壁は外傾して立ち上がり、北壁も同様と考えられる。**底面** 中央部が一段低く、周囲にテラスを有する。

遺物 なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、2 面目で確認された遺構であることから縄文時代中期後葉～後期前半と考えられる。

(3) ピット (第 294 図)

3 区調査区は、1 面目の遺構確認面から 2 面目の確認面であるローム漸移層の間で縄文時代後期の土器片が出土し、2 面の遺構確認面からは縄文時代中期後葉の土器が出土している。このことから、3 区 2 面目で確認されたピットは縄文時代中期後葉～後期前半に帰属すると考えられる。3 区 2 面で確認されたピットの平面形や規模などの諸属性は第 39 表に記載した。

第 39 表 林中原 I 遺跡 XI 3 区調査区 2 面目ピット観察表

遺構名	位置	平面形	規模 (cm)			覆土	備考	遺構名	位置	平面形	規模 (cm)			覆土	備考
			長軸長	短軸長	深さ						長軸長	短軸長	深さ		
P137	4-4 区 P-8	円形	37	33	26	C		P172	4-5 区 B-C-9	梢円形	<50>	35	21	B	
P138	4-4 区 P-8	円形	40	38	13	B		P173	4-5 区 C-9	円形	48	49	21	C	
P139	4-4 区 Q-8	円形	37	32	23	B		P174	4-5 区 B-9	円形	35	<20>	10	B	
P140	4-4 区 Q-8	梢円形	62	49	27	B		P175	4-4 区 S-9	円形	34	32	16	B	
P141	4-4 区 Q-7	円形	38	32	20	B		P176	4-5 区 C-9	梢円形	32	26	30	B	
P142	4-4 区 P-10	円形	37	33	21	B		P177	4-5 区 C-8	梢円形	45	36	16	B	
P143	4-4 区 P-10	円形	41	37	17	B		P178	4-5 区 D-B-9	円形	40	36	15	B	
P144	4-4 区 Q-9	梢円形	41	31	35	B		P179	4-5 区 D-8	梢円形	45	39	28	A	
P145	4-4 区 Q-8・9	梢円形	31	23	30	B		P180	4-5 区 D-8	梢円形	52	46	32	B	
P146	4-4 区 Q-9	梢円形	58	45	24	B		P181	4-5 区 D-B-9	円形	32	32	15	A	
P147	4-4 区 R-9	円形	49	49	16	B		P182	4-5 区 C-8	梢円形	46	40	30	A	
P148	4-4 区 Q-R-8	円形	49	44	11	B		P183	4-5 区 D-9	円形	<36>	30	24	B	
P149	4-4 区 Q-8	梢円形	40	32	16	B		P184	4-5 区 E-8	梢円形	48	37	26	B	
P150	4-4 区 Q-8	梢円形	50	42	16	B		P185						欠番	
P151	4-4 区 Q-8	円形	42	41	19	B		P186						欠番	
P152	4-4 区 S-6	梢円形	27	22	22	B		P187	4-5 区 C-8	梢円形	61	28	26	B	
P153	4-4 区 S-6	円形	23	21	14	B		P188	4-5 区 D-9	梢円形	<77>	55	35	B	
P154	4-4 区 S-8	梢円形	42	33	13	B		P189	4-5 区 D-9	円形	<37>	32	15	B	
P155	4-4 区 S-8	梢円形	43	21	14	C		P190	4-5 区 F-8	円形	32	29	20	B	
P156	4-4 区 S-8	円形	56	53	20	B		P191	4-4 区 E-8	梢円形	46	35	25	C	
P157	4-4 区 T-8	梢円形	49	40	28	B		P192	4-5 区 F-8	円形	31	28	24	B	
P158	4-4 区 S-9	円形	35	32	11	C		P193	4-5 区 F-8	円形	27	27	20	B	
P159	4-4 区 S-8	梢円形	37	31	10	C		P194	4-5 区 F-8	円形	53	53	12	B	
P160	4-4 区 S-9	梢円形	54	42	13	B		P195	4-5 区 G-7-8	不明	42	<17>	22	B	
P161	4-5 区 A-8	梢円形	55	43	19	B		P196	4-5 区 E-F-8	梢円形	43	33	—	B	
P162	4-4 区 T-8	円形	40	39	21	B		P197	4-5 区 E-8	円形	<33>	37	19	B	
P163	4-4 区 T-8・9	円形	52	51	25	B		P198	4-4 区 R-9	円形	36	35	16	B	
P164	4-5 区 A-9	円形	37	37	15	B		P199	4-4 区 R-9-10	梢円形	34	31	32	B	
P165	4-4 区 T-8	梢円形	35	21	25	B		P200	4-5 区 A-8	梢円形	41	31	13	B	
P166	4-5 区 A-8	梢円形	42	32	18	B		P201	4-5 区 A-9	梢円形	44	38	27	B	
P167	4-5 区 A-8・9	円形	43	41	28	B		P202	4-5 区 C-9	梢円形	44	34	35	B	
P168	4-5 区 A-B-9	梢円形	48	45	20	B		P203	4-5 区 C-8	梢円形	62	48	24	B	
P169	4-5 区 B-8	梢円形	33	26	18	B		P204	4-5 区 E-9	梢円形	45	39	17	C	
P170	4-5 区 B-7-8	梢円形	48	34	26	B		P205	4-5 区 E-8	円形	41	39	21	B	
P171	4-5 区 A-9	梢円形	31	<28>	17	B		P206	4-5 区 D-7-8	円形	30	28	29	B	

※A : 黒色土 B : 黒褐色土 C : 番褐色土 D : 褐色土 E : にごい黄褐色土

第3節 平安時代の遺構と遺物

(1) 陥し穴

1・2区SK10（第309図／PL 120）

位置 4—15区B—10グリッド（1・2区調査区中央西部北側）。**重複関係** なし。**遺存状態** 概ね良好である。**覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸140cm、短軸65cm、確認面からの深さ21cmを測る。

主軸方位 N—83°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴の底部付近と判断した。

1・2区SK18（第309図／PL 121）

位置 4—15区G—12・13グリッド（1・2区調査区中央東部南側）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土と暗褐色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は上位が楕円形、下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸171cm、短軸138cm、確認面からの深さ118cmを測る。

主軸方位 N—88°—W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、東・西壁は上位が外傾し、南・北壁は中位以上が外傾する。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

1・2区SK29（第309図／PL 121）

位置 4—15区O—11グリッド（1・2区調査区西部北側）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒色土と黒褐色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸165cm、短軸64cm、確認面からの深さ93cmを測る。**主軸方位** N—8°—W **壁面** わずかに内傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

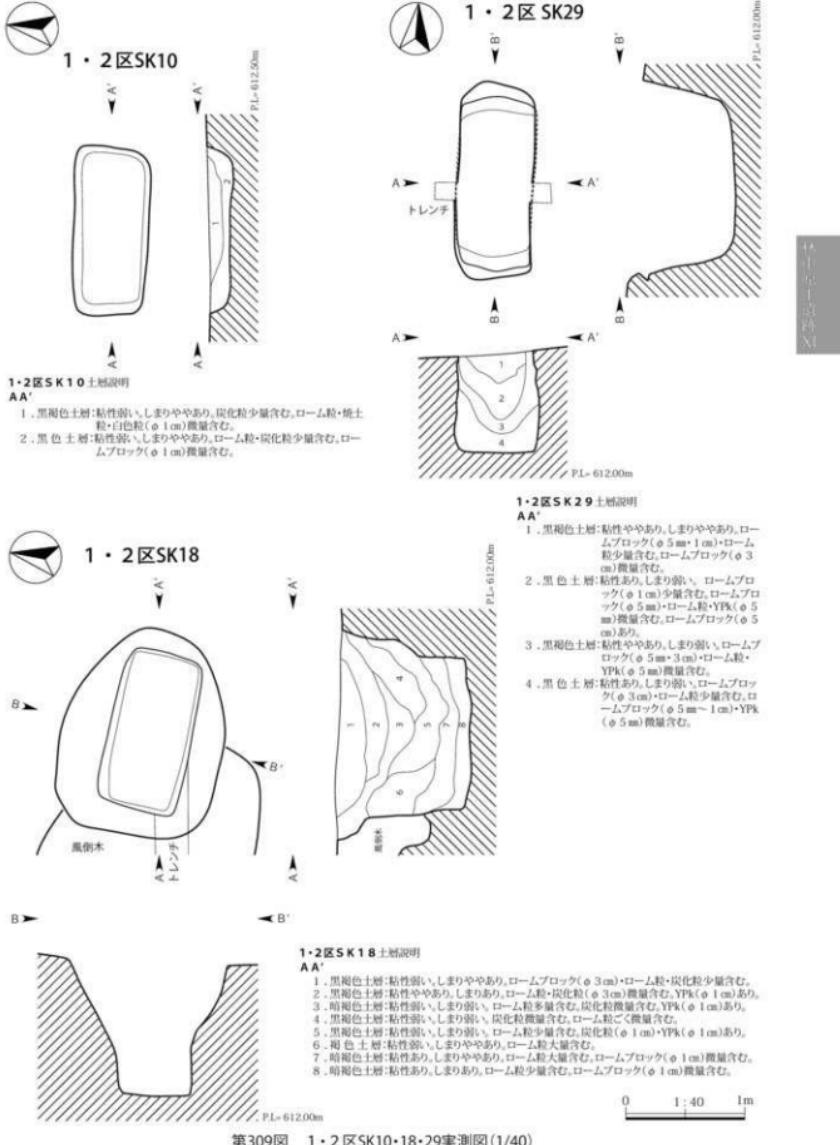
1・2区SK44（第310図）

位置 4—15区I—10グリッド（1・2区調査区中央東部北側）。**重複関係** P 435・436と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸142cm、短軸73cm、確認面からの深さ93cmを測る。**主軸方位** N—48°—W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、上位がわずかに外傾する。**底面** 中央部がわずかに高いが、概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

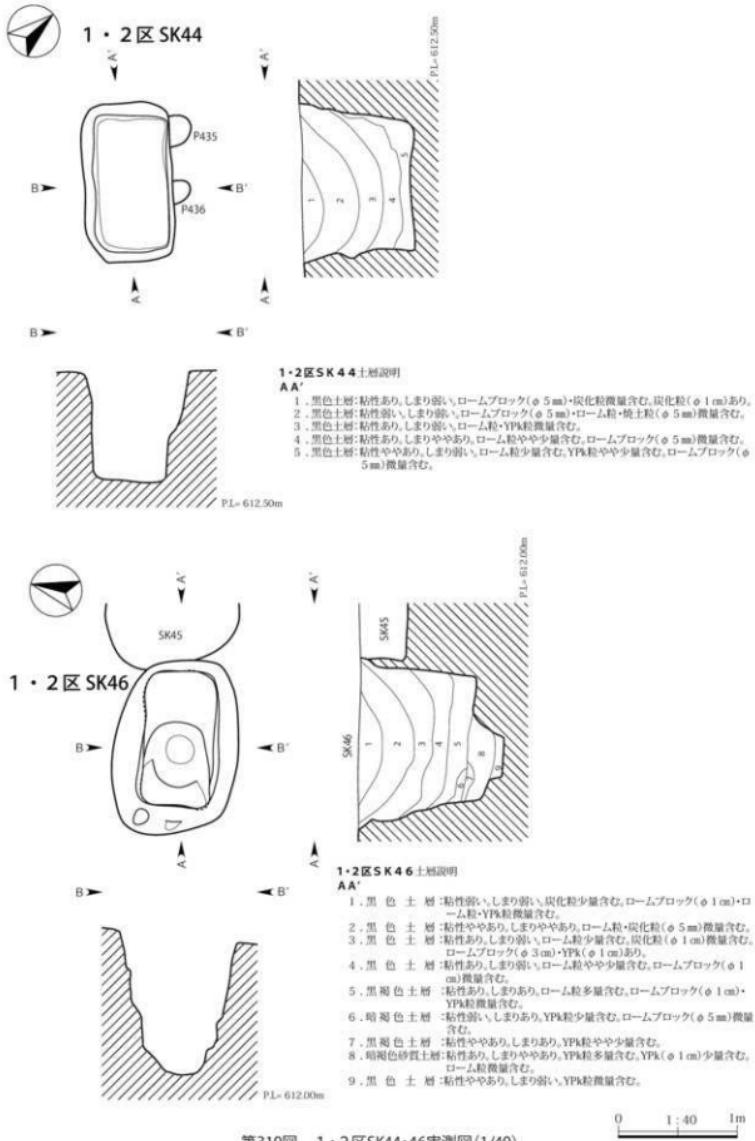
1・2区SK46（第310図／PL 119）

位置 4—15区I—12グリッド（1・2区調査区中央東部南側）。**重複関係** SK45と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 良好。**覆土** 上層は黒色土が堆積し、下層は暗褐色土と黒褐色土が互層をなす。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸150cm、短軸103cm、確認面からの深さ124cmを測る。**主軸方位** N—87°—E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、上位は外傾する。

底面 西側が一段低くなる。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

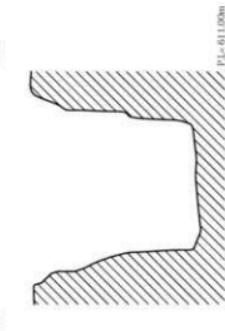
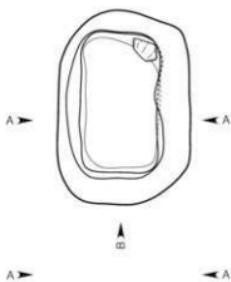


第309図 1・2区SK10・18・29実測図(1/40)



第310図 1・2区SK44・46実測図(1/40)

1・2区 SK47



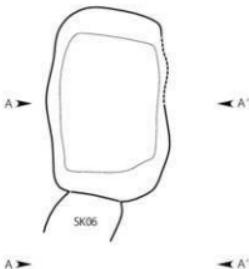
付図
第11回

1・2区SK47 土層説明

AA'

1. 黒色土層: 粘性弱い、しまりやあり、炭化粒(粒・φ 5mm)少量含む。YPk粒微量含む。ローム粒ごく微量含む。ロームブロック(φ 1cm)あり。
2. 黒色土層: 粘性ややあり、しまり弱い、炭化粒(粒・φ 1cm)少量含む。ロームブロック(φ 5mm)少量含む。YPk粒(粒・φ 5mm)微量含む。
3. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりやあり、炭化粒(粒・φ 1cm)・(土粒・YPk粒・φ 5mm)微量含む。ロームブロック(φ 5mm)・炭化粒(粒・φ 5mm)少量含む。YPk粒(粒・φ 5mm)微量含む。
4. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりやあり、ローム粒多量含む。ロームブロック(φ 5mm)少量含む。炭化粒(粒・φ 5mm)～(粒・φ 1cm)少量含む。
5. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりややあり、ローム粒多量含む。ロームブロック(φ 1cm)・炭化粒(粒・φ 5mm)微量含む。
6. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりややあり、ローム粒大量含む。
7. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまり弱い、YPk粒少量含む。ローム粒やや少量含む。炭化粒(粒・φ 1cm)微量含む。
8. に赤い黄褐色土層: 粘性弱い、しまり弱い、ローム粒・YPk粒(粒・φ 1cm)微量含む。
9. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりやあり、YPk粒少量含む。
10. 黑褐色土層: 粘性あり、しまり弱い、YPk粒多量含む。ロームブロック(φ 3cm)あり。

4区 SK03



4区SK03 土層説明

AA'

1. 黒色土層: 粘性弱い、しまりあり、ローム粒少量含む。ロームブロック(φ 1cm)・白粘粒微量含む。
2. 黑色土層: 粘性ややあり、しまりあり、ロームブロック(φ 5mm・3cm)・ローム粒少量含む。白色粒微量含む。YPk(φ 1cm)あり。
3. 黑色土層: 粘性ややあり、しまりあり、ロームブロック(φ 1cm)・ローム粒・白色粒微量含む。
4. 黑色土層: 粘性ややあり、しまりあり、ローム粒少量含む。ロームブロック(φ 1cm)やや少量含む。白色粘粒微量含む。
5. 黑色土層: 粘性弱い、しまりあり、ローム粒少量含む。ロームブロック(φ 5cm)ごく微量含む。YPk(φ 1cm)・礫(φ 10cm)あり。

0 1:40 1m

第311図 1・2区SK47、4区SK03実測図(1/40)

1・2区 SK47 (第311図／PL 121)

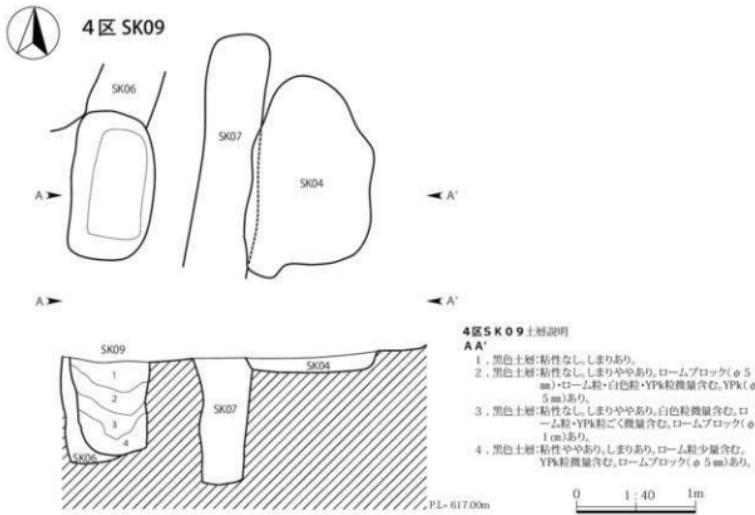
位置 4—15区H・I—14グリッド (1・2区調査区中央東部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒色土が堆積している。中層から下層は黒褐色土が基調であるが、にぶい黄褐色土が混ざる。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は、上位が梢円形、中位から下位が圓丸長方形を呈する。規模は長軸162cm、短軸128cm、確認面からの深さ139cmを測る。 **主軸方位** N—85°—W **壁面** 中位から下位はほぼ垂直に立ち上がり、上位は外傾する。 **底面** 西側に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** 織文土器片1点が出土した。図示し得るものではなく、また遺構に伴うものではないと判断した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

4区 SK03 (第311図／PL 121)

位置 4—5区N—15グリッド (4区南北調査区南部) **重複関係** SK06と重複するが、新旧関係は不明である。SK06とSK09の新旧関係を参考にすると本遺構の方が新しいと考えられる。 **遺存状態** 概ね良好である。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は圓丸長方形を呈する。規模は長軸161cm、短軸103cm、確認面からの深さ63cmを測る。 **主軸方位** N—5°—W **壁面** 東・西壁はほぼ垂直に、南・北壁は外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

4区 SK09 (第312図／PL 131)

位置 4—5区M—15・16グリッド (4区南北調査区南部) **重複関係** SK06と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は圓丸長方形



第312図 4区SK09実測図(1/40)

を呈する。規模は長軸 126cm、短軸 71cm、確認面からの深さ 91cm を測る。 **主軸方位** N—3°—W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、上位はわずかに外傾する。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜する。 **遺物** なし。**備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥穴と判断した。

第4節 中世～近世の遺構と遺物

(1) 挖立柱建物跡

1・2区 SB01 (第313・314・322図／PL 121・123・132)

位置 4—15 区 B・C—10～13 グリッド (1・2区調査区中央西部)。 **重複関係** SB02 と重複しているが、新旧関係は不明である。 **遺存状態** 良好。 **規模** 東西間口は約 5m (1間)、南北間口は約 14m (5間) である。東西柱間は北側が 4.6m、南側が 5.0m、南北柱間は東側が北から 3.1m、4.4m、2.2m、2.2m、2.0m、西側は北から 3.1m、3.7m、1.8m、2.0m、2.9m を測る。西側は 1.3m 南側にもう 1間ある。

主軸方位 東西 N—80°—W、南北 N—8°—E。 **概要** P1～P13までを柱穴とし、P7 は単独で南へ張り出している。それぞれの規模については第40表に記載する。外枠は長方形を呈するが、南側 3 本の仕切り線は斜めになっている。

その他の施設 特に明記すべき

施設は見られなかった。 **遺物検**

出状況 P11 から中世瓦質土器

器が出土した。 **遺物** 瓦質土器

の擂鉢 1 点を示した。 **備考**

本遺構は、1間×5間の側柱

の掘立柱建物跡である。SB04～

06 と南北の主軸方向が近いことから、同時期に建てられたものである可能性が考えられる。時期を特定し得る遺物はないが、周辺遺跡の調査事例から本遺構の帰属時期は中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区 SB02 (第315・322図／PL 122・132)

位置 4—15 区 B・C—10・11 (1・2区調査区中央西部北側)。 **重複関係** SB01 と重複し、新旧関係は不明である。 **遺存状態** 良好。 **規模** 東西間口は約 5.7m (2間)、南北間口は約 7.3m (2間) である。東西柱間は北側が西から 2.6m、2.5m、南側が西から推定 2.7m、3.2m、南北柱間は東側が北から 3.7m、3.6m、西側が北から 3.7m、推定 3.2m を測る。 **主軸方位** 東西 N—85°—E、南北 N—3°—W。 **概要**

P1～P7までを柱穴とする側柱の掘立柱建物跡であるが、南北隅部のみ柱穴が確認できなかった。それぞれの規模については第41表に記載する。

その他の施設 特に明記すべき

施設は見られなかった。 **遺物検**

出状況 P2 から中世磁器片が

出土した。 **遺物** 磁器 1 点を示

し得た。 **備考** 本遺構は、2

間×2間の側柱の掘立柱建物跡である。SB03・07 と南北の主軸方向が近いことから、同時期に建てられたものである可能性が考えられる。また、SD04 と東西の主軸方位が近いことから、何らかの関係があるものと考えられる。出土遺物はないが、周辺遺跡の調査事例から本遺構の帰属時期は中世～近世にかけてと考えられる。

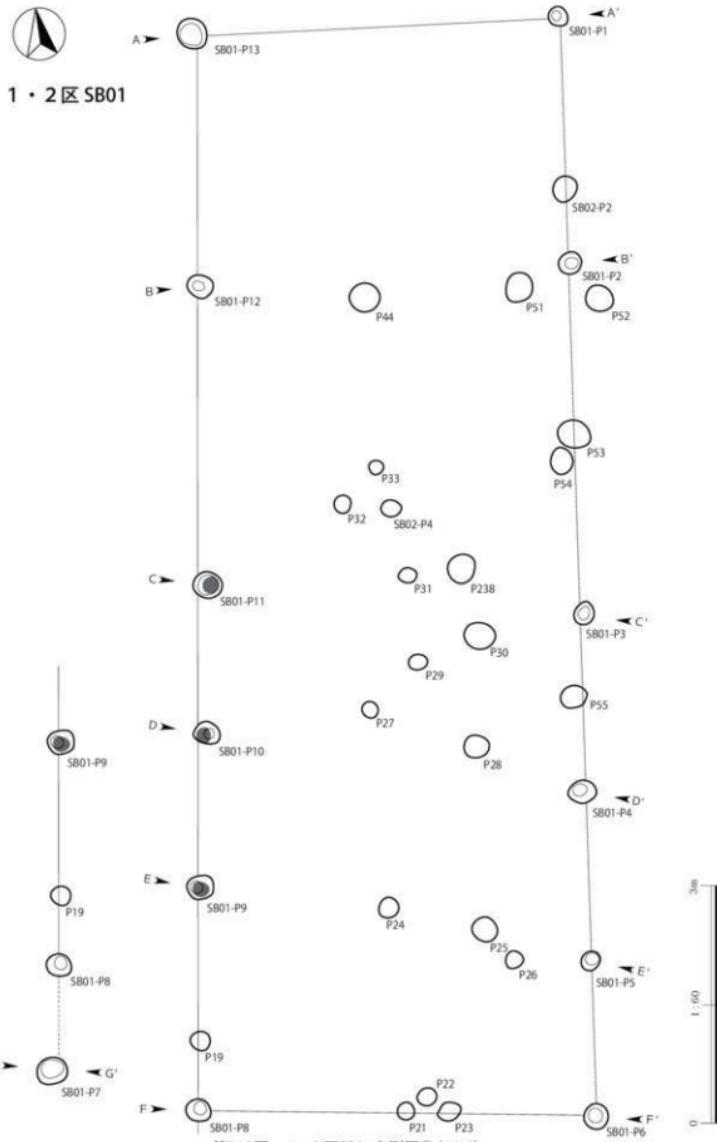
第40表 1・2区 SB01 ピット計測表

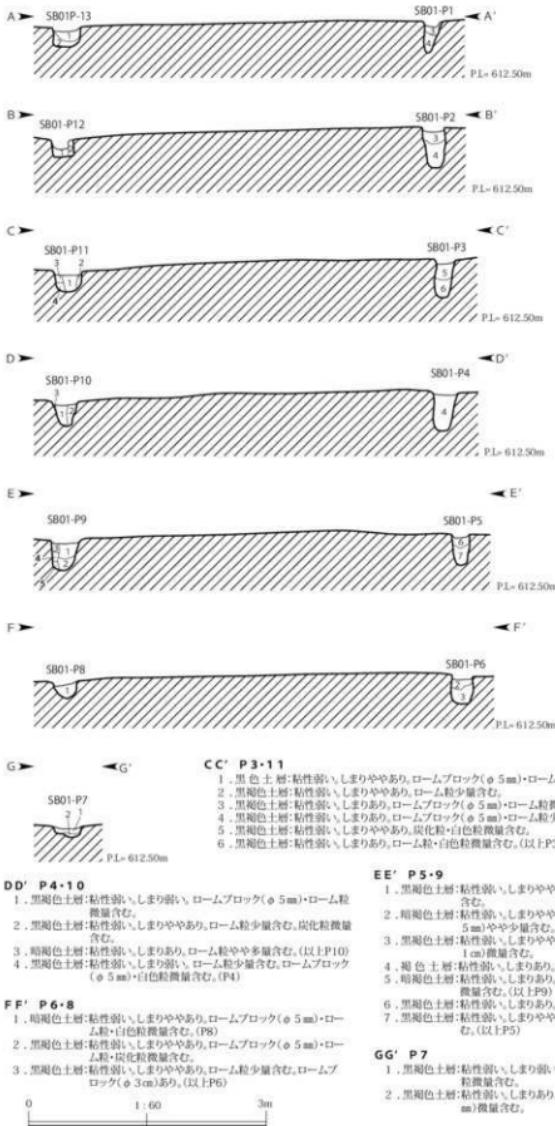
	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
長軸長 (cm)	25	30	30	36	27	32	39
短軸長 (cm)	23	27	25	30	23	31	35
深さ (cm)	44	50	49	52	43	36	14

	P8	P9	P10	P11	P12	P13
長軸長 (cm)	32	34	33	37	31	40
短軸長 (cm)	30	33	27	33	29	37
深さ (cm)	23	42	32	29	32	25

第41表 1・2区 SB02 ピット計測表

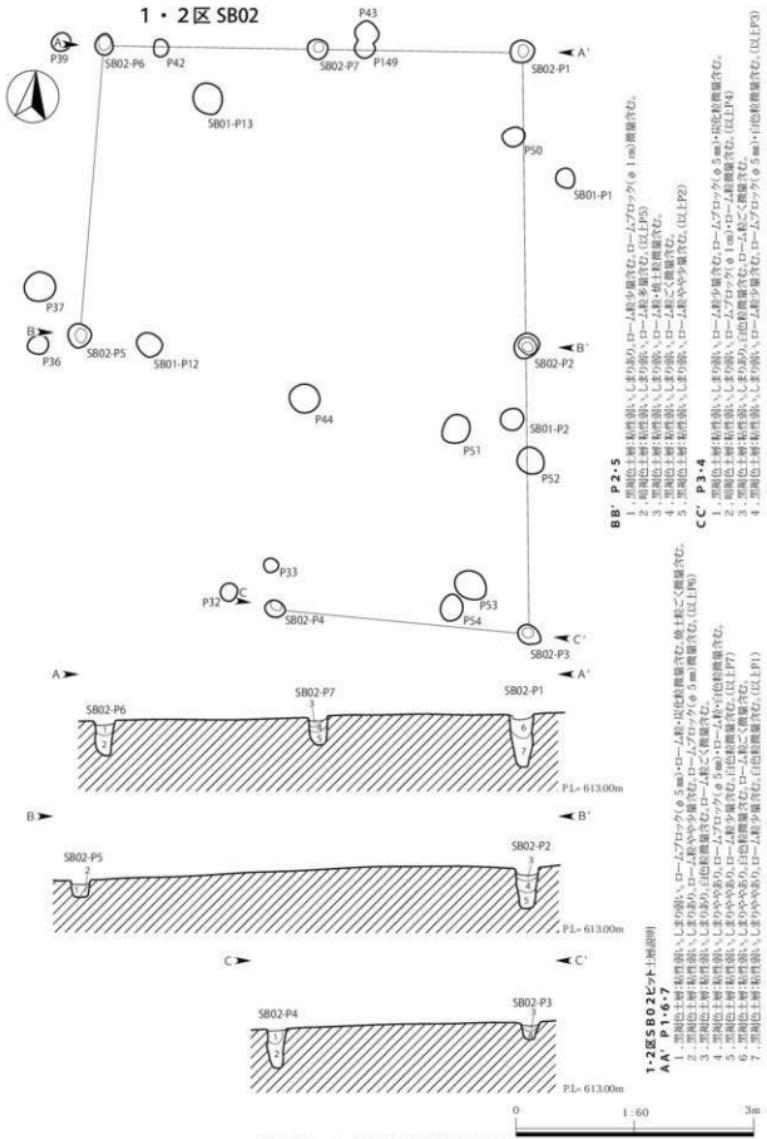
	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
長軸長 (cm)	30	33	32	25	30	28	25
短軸長 (cm)	28	30	23	21	30	22	25
深さ (cm)	68	54	25	50	24	44	37



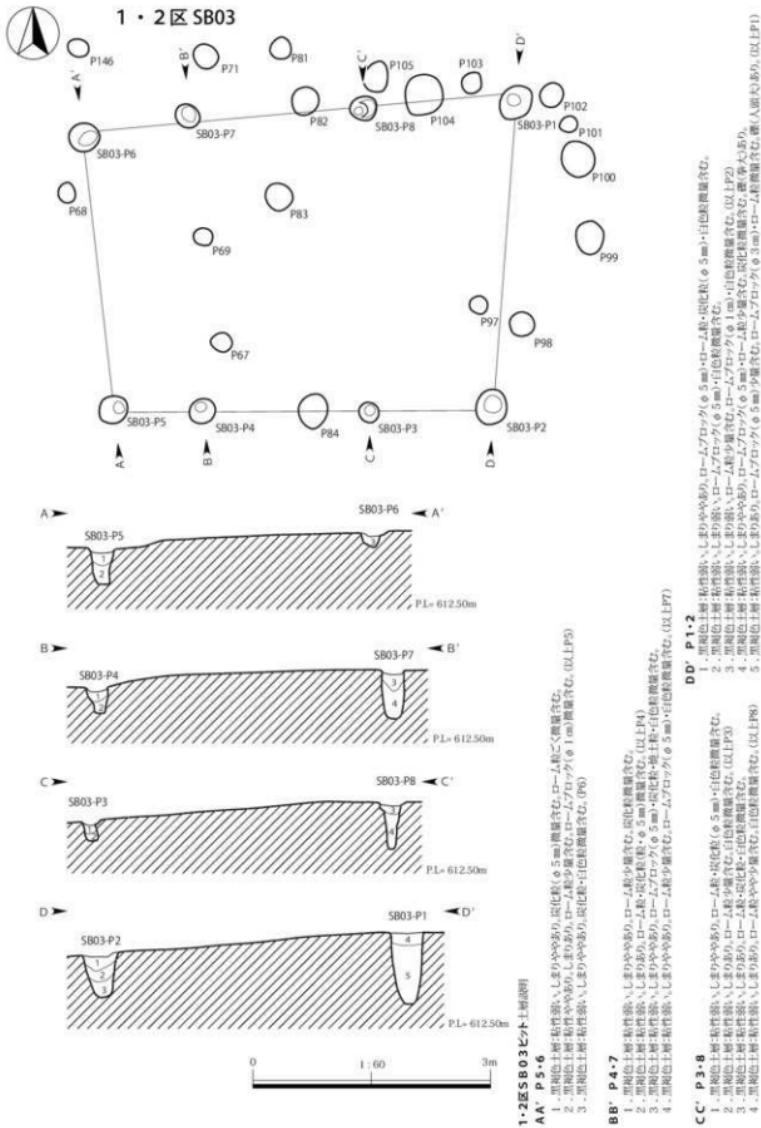


- 1・2区SB01(1)ヘッド上部剖面
- A' - P1 - 3**
1. 黒褐色土層:粘性弱い、しまりややあり、ロームブロック(φ 5mm)・ローム粒微量含む。
 2. 黒褐色土層:粘性弱い、しまりややあり、ローム粒少量含む。
 3. 黑褐色土層:粘性弱い、しまりあり、ロームブロック(φ 5mm)・ローム粒微量含む。
 4. 黑褐色土層:粘性弱い、しまりあり、ロームブロック(φ 5mm)・ローム粒少量含む。炭化物微量含む。(以上P1)
 5. 黑褐色土層:粘性弱い、しまりややあり、ローム粒・白色粒微量含む。
- B' - P1 - 2**
1. 黒褐色土層:粘性弱い、しまりややあり、ロームブロック(φ 5mm)・ローム粒微量含む。
 2. 黑褐色土層:粘性弱い、しまりややあり、ローム粒微量含む。
 3. 黑褐色土層:粘性弱い、しまりややあり、ロームブロック(φ 5mm)・ローム粒微量含む。
 4. 黑褐色土層:粘性弱い、しまりややあり、ロームブロック(φ 5mm)・ローム粒微量含む。(以上P1)
- GG' P7**
1. 黑褐色土層:粘性弱い、しまり弱い、ロームブロック(φ 5mm)・ローム粒・炭化物微量含む。
 2. 黑褐色土層:粘性弱い、しまりあり、ローム粒少量含む、ロームブロック(φ 5mm)微量含む。

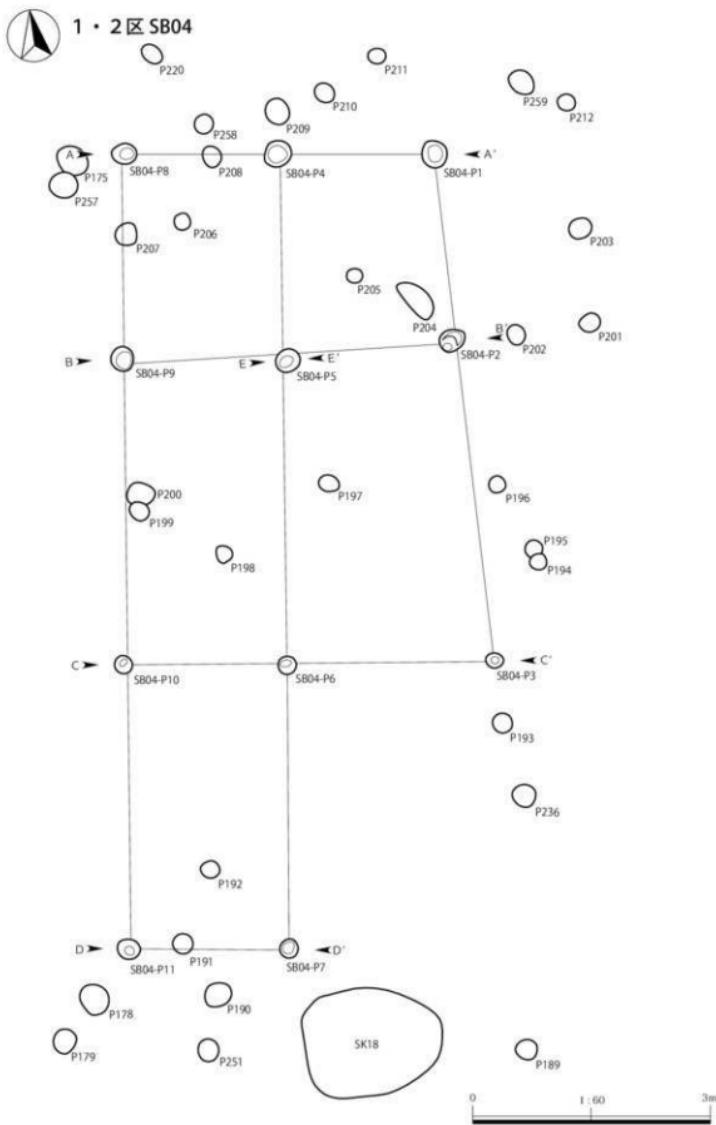
第314図 1・2区SB01実測図②(1/60)



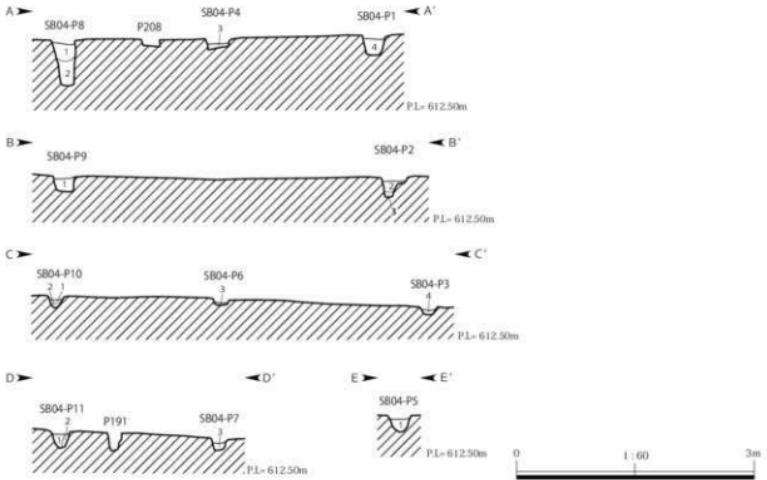
第315図 1・2区SB02実測図(1/60)



第316図 1・2区SB03実測図(1/60)



第317図 1・2区SB04実測図①(1/60)



1・2区SB04ピット土層説明

AA' P1-4+8

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまり弱い、ロームブロック(Φ 5mm)少量含む。ローム粒微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまり中やあり、ローム粒少量含む。(以上P8)
3. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ローム粒多量含む、ロームブロック(Φ 5mm)少量含む、ロームブロック(Φ 3mm)・YPk粒微量含む。(P4)
4. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ロームブロック(Φ 5mm)・ローム粒・YPk粒微量含む。(P1)

BB' P2+9

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりやあり、YPk(Φ 5mm)少量含む、ロームブロック(Φ 5mm)ごく微量含む。炭化粒(Φ 1cm)あり。(P9)
2. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ローム粒微量含む、炭化粒微量含む。
3. 褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk粒(Φ 5mm)微量含む。(上P2)

CC' P3+6+10

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりやあり、ローム粒・YPk粒微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまり弱い、YPk粒ごく微量含む。(以上P10)
3. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk粒少量含む、ローム粒・炭化粒微量含む。(P6)
4. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりやあり、ローム粒・YPk粒微量含む。(P3)

DD' P7+11

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ローム粒・YPk(Φ 5mm)微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ローム粒多量含む。(以上P11)
3. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりやあり、ローム粒少量含む、ロームブロック(Φ 5mm)微量含む。(P7)

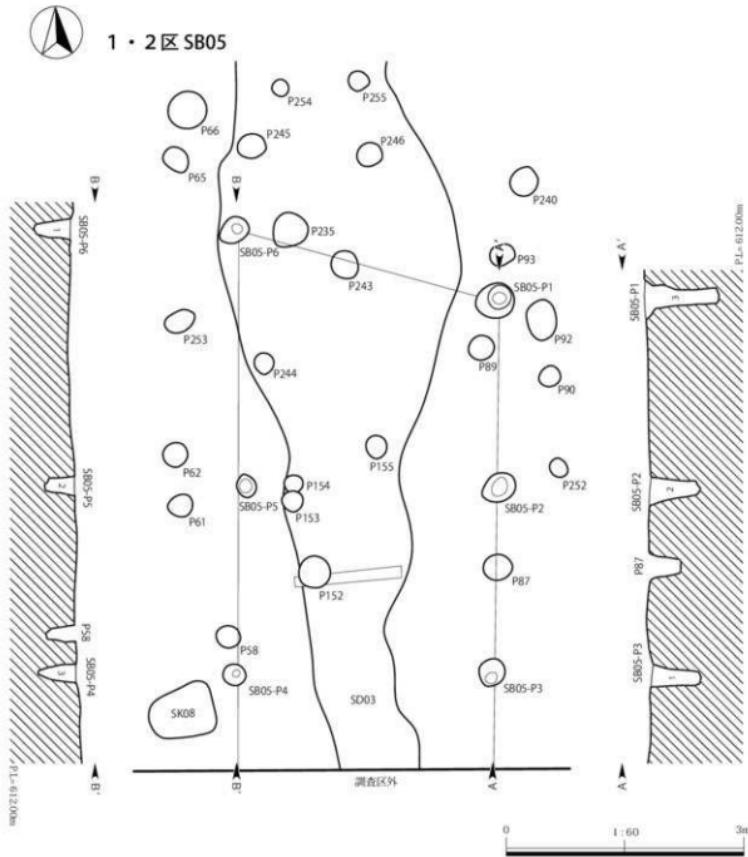
EE' P5

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまり弱い、ロームブロック少量含む、炭化粒・YPk(粒・Φ 5mm)微量含む。

第318図 1・2区SB04実測図②(1/60)

1・2区SB03(第316図/PL 122・123)

位置 4-15区D・E-11・12グリッド(1・2区調査区中央西部南側)。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**規模** 東西間口は約4.9m(3間)、南北間口は約3.6m(1間)である。東西柱間は北側が西から1.3m、2.1m、1.4m、南側が西から1.0m、2.1m、1.5m、南北柱間は東側が4.1m、西側が3.5mを測る。**主軸方位** 東西N-83°-E、南北N-7°-W。**概要** P1～P8までを柱穴とする側柱の掘立柱建物跡である。それぞれの規模については第42表に記載する。**その他の施設** 特に明記すべき施設は見られなかった。**遺物検出状況** なし。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、3間×1間の側柱の掘立柱建物跡である。SB02・07と南北の主軸方向が近いことから、同時期に建てられたものである可能性が考えられる。また、SD04と東西の主軸方向が近いことから、何らかの関係があるものと考えられる。出土遺物はないが、周辺遺跡の調査事例から本遺構の帰属時期は中世～近世にかけてと考えられる。



1-2区SB05ピット土別説明

AA' P1-2-3

1. 黒褐色土層: 粘性弱い・しまりややあり、ロームブロック(φ 5mm)・ローム粒微量含む。(P3)
2. 黒褐色土層: 粘性弱い・しまり弱い、ローム粒微量含む。(P5)
3. 黒褐色土層: 粘性弱い・しまりややあり、ローム粒少量含む、炭化粒微量含む。(P1)

BB' P4-5-6

1. 黒褐色土層: 粘性弱い・ややあり、しまりややあり、ロームブロック(φ 5mm)・ローム粒少量化含む、焼土粒微量含む。(P6)
2. 黒褐色土層: 粘性弱い・しまり弱い、ローム粒微量含む。(P5)
3. 黒褐色土層: 粘性弱い・しまりややあり、ローム粒少量含む、炭化粒微量含む。(P4)

第319図 1-2区SB05実測図(1/60)

第42表 1・2区SB03 ピット計測表

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8
長軸長(cm)	32	45	26	34	39	40	32	33
短軸長(cm)	28	37	26	31	35	37	28	30
深さ(cm)	94	58	32	40	46	26	61	108

1・2区SB04(第317・318図/PL 123)

位置 4-15区F・G-10~12グリッド(1・2区調査区中央東部)。重複関係なし。遺存状態 良好。

規模 東西間口は約4.3m(2間)、南北間口は約6.4m(2間)で、西側は1間南へ張り出す。東西柱間は北側が西から1.9m、2.0m、中央が西から2.0m、2.1m、南側が2.0m、2.6m、南北柱間は東側が北から2.3m、4.1m、中央が北から2.6m、3.8m、西側が北から2.6m、3.8mを測る。張り出し部は東西柱間が2.0m、南北柱間は3.6mである。主軸方位 東西N-81°-W、南北N-8°-E。概要 P 1~P 11までを柱穴とする純粧の掘立柱建物跡である。それぞれの規模については第43表に記載する。

第43表 1・2区SB04 ピット計測表

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P 10	P 11
長軸長(cm)	33	35	23	35	32	23	24	31	32	23	30
短軸長(cm)	35	28	18	33	28	23	23	27	28	22	25
深さ(cm)	28	30	11	15	19	10	17	61	21	23	23

その他の施設 特に明記すべき施設は見当たらなかった。遺物検出状況なし。遺物なし。備考

本遺構は、2間×2間の純粧の掘立柱建物跡で、西側は南へ1間延びている。SB01・05・06と南北の主軸方向が近いことから、同時期に建てられたものである可能性が考えられる。出土遺物はないが、周辺遺跡の調査事例から本遺構の帰属時期は中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区SB05(第319図/PL 124)

位置 4-15区D・E-13・14グリッド(1・2区調査区中央西部南壁際)。重複関係SD03と重複しているが、新旧関係は不明である。遺存状態 南側が調査区外にあるが、概ね良好である。規模 東西間口は約3.2m(1間)、南北間口は5.8m以上(3間以上)である。東西柱間は北から3.3m、3.2m、3.2m、南北柱間は東側が北から2.4m、2.4m、1.1m以上、西側が北から3.2m、2.4m、1.7m以上を測る。主軸方位 東西N-87°-W、南北N-4°-E。概要 P 1~P 6までを柱穴とする側柱の掘立柱建物跡である。それぞれの規模については第44表に記載する。南側が調査区外にあるため全体像は不明である。

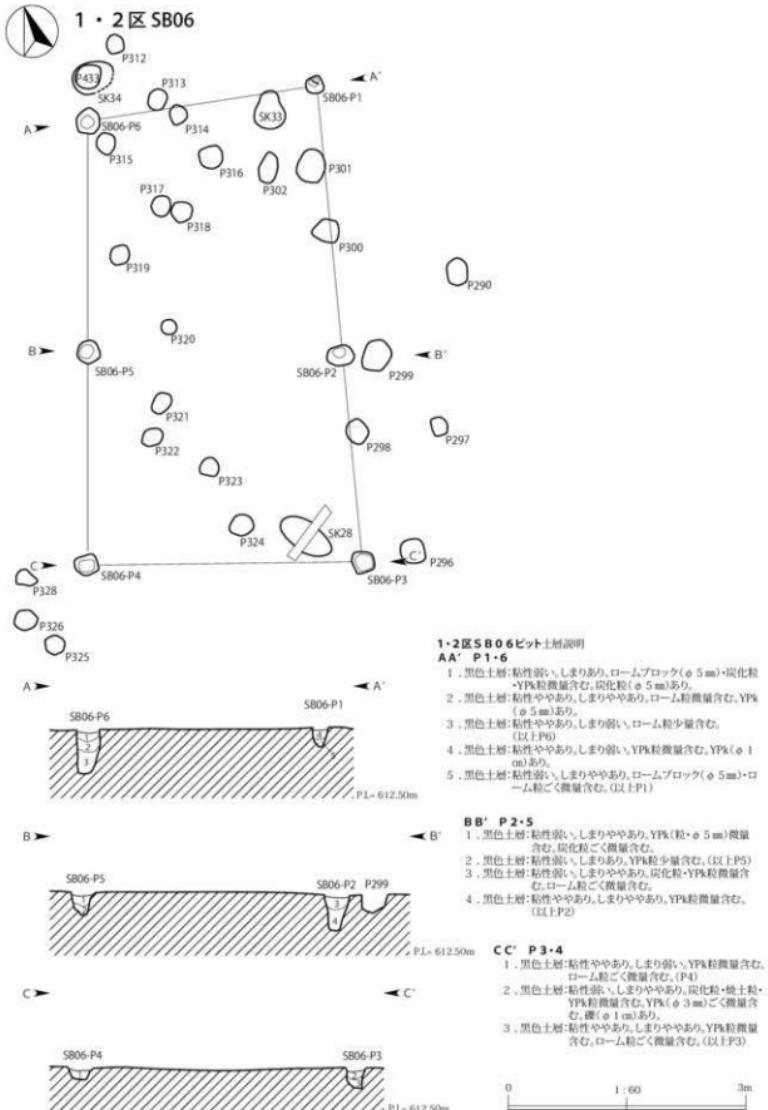
その他の施設 特に明記すべき施設は見当たらなかった。遺物検出状況SD03

からは出土しているが、本遺構に伴うものであったかは不明である。遺物なし。備考 本遺構は、1間×3間以上の側柱

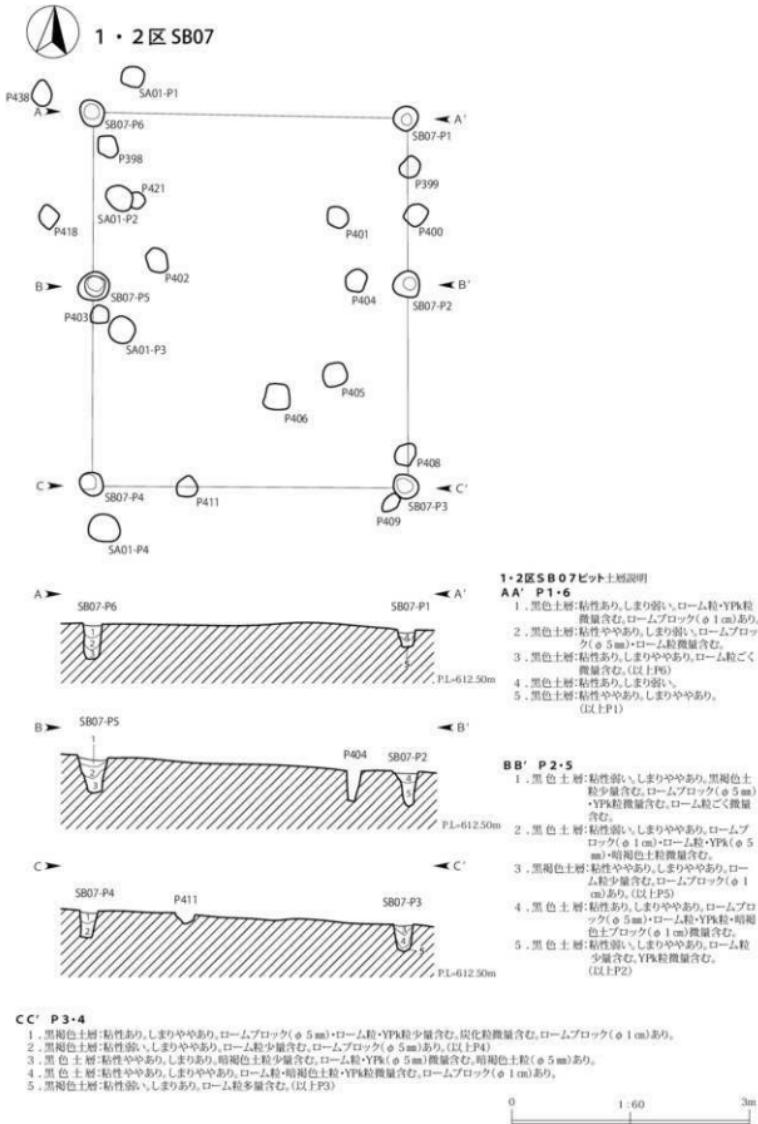
の掘立柱建物跡である。SB01・04・06と南北の主軸方向が近いことから、同時期に建てられたものである可能性が考えられる。同じ位置にあるSD03との新旧や関係性は不明である。出土遺物はないが、周辺遺跡の調査事例から本遺構の帰属時期は中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区SB06(第320図/PL 124)

位置 4-15区P・Q-11・12グリッド(1・2区調査区東部)。重複関係SK28・33と重複しているが、新旧関係は不明である。遺存状態 良好。規模 東西間口は約3.2m(1間)、南北間口は約5.8m(2間)である。東西柱間は北から2.9m、3.2m、3.5m、南北柱間は東側が北から3.4m、2.6m、西側が北から2.9m、2.7mを測る。主軸方位 東西N-72°-W、南北N-18°-E。概要 P 1~P 6を柱穴とする側柱の掘立



第320図 1・2区SB06実測図(1/60)



第321図 1・2区SB07実測図(1/60)

1・2区SB01-P11



1・2区SB02-P2



0 1:3 10cm

第322図 中世～近世掘立柱建物跡出土遺物実測図(1/3)

柱建物跡である。それぞれの規模については第45表に記載する。

その他の施設 特に明記すべき施設は

見当たらなかった。 遺物検出状況 P

2から中近世内耳銅の破片と思われるものが出土した。 遺物 内耳銅破片と思われる土器片が出土したが、図示し得なかつた。

備考 本遺構は、1間×2間の側柱の掘立柱建物跡である。SB01・04・05と南北の主軸方向が近いことから、同時期に建てられたものである可能性が考えられる。時期を特定し得る遺物はないが、周辺遺跡の調査成果から本遺構の帰属時期は中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区SB07 (第321図/PL 125)

位置 4-15区I・J-10・11グリッド(1・2区調査区中央東部北側)。 **重複関係** SA01と重複しているが、新旧関係は不明である。 **遺存状態** 良好。 **規模** 東西間口は約4m(1間)、南北間口は約5m(2間)である。東西柱間は北から4.0m、3.9m、南北柱間は東側が北から2.1m、2.6m、西側が北から2.1m、2.6mを測る。 **主軸方位** 東西N-87°-E、南北N-4°-W。 **概要** P1～P6を柱穴とする側柱の掘立柱建物跡である。それぞれの規模については第46表に記載する。

その他の施設 特に明記すべき施設は

見当たらなかった。 遺物検出状況 なし。

備考 本遺構は、1間×2間の側柱の掘立柱建物跡である。SB02・03と南北の主軸方向が近いことから、同時期に建てられたものである可能性が考えられる。出土遺物はないが、周辺遺跡の調査成果から本遺構の帰属時期は中世～近世にかけてと考えられる。

(2) 柱列

1・2区SA01 (第323図/PL 125)

位置 4-15区I-10・11グリッド(1・2区調査区中央東部北側)。 **重複関係** SB07と重複しているが、新旧関係は不明である。 **遺存状態** 良好。 **規模** 5.7mの間にピット4基が存在する。それぞれの規模については第47表に記載する。 **主軸方位** N-0°。

概要 周囲には本遺構と並びを共にするようなピットは見られなかった。 **その他の施設** 特に明記すべき施設は見当たらなかった。 **遺物検出状況** なし。 **遺物** なし。

備考 1例のみであったが、規則的に並んでいることから、柱列と判断した。出土遺物はないが、周辺遺跡の調査成果から本遺構の帰属時期は中世～近世にかけてと考えられる。

第45表 1・2区SB06 ピット計測表

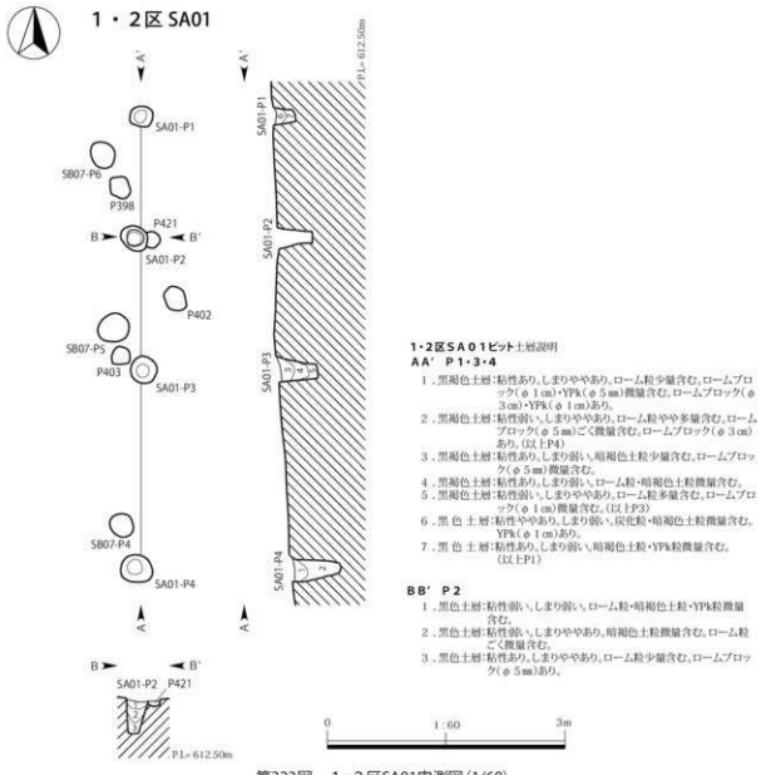
	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6
長軸長(cm)	23	33	32	32	30	33
短軸長(cm)	22	25	31	30	30	29
深さ(cm)	36	49	30	22	30	57

第46表 1・2区SB07 ピット計測表

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6
長軸長(cm)	30	35	34	30	40	35
短軸長(cm)	30	35	30	28	37	30
深さ(cm)	23	45	36	36	50	46

第47表 1・2区SA01 ピット計測表

	P 1	P 2	P 3	P 4
長軸長(cm)	30	35	35	40
短軸長(cm)	28	30	32	36
深さ(cm)	33	46	52	64



第323図 1・2区SA01実測図(1/60)

(3) 土坑

1・2区 SK01 (第324・340図／P L 125・132)

位置 4-14区M-12・13グリッド (1・2区調査区西端部)。重複関係 なし。遺存状態 良好。

覆土 黒褐色土が基準で、自然堆積を示す。平面形と規模 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸140cm、

短軸88cm、確認面からの深さ30cmを測る。主軸方位 N-53°-E 壁面 外傾して立ち上がる。底面

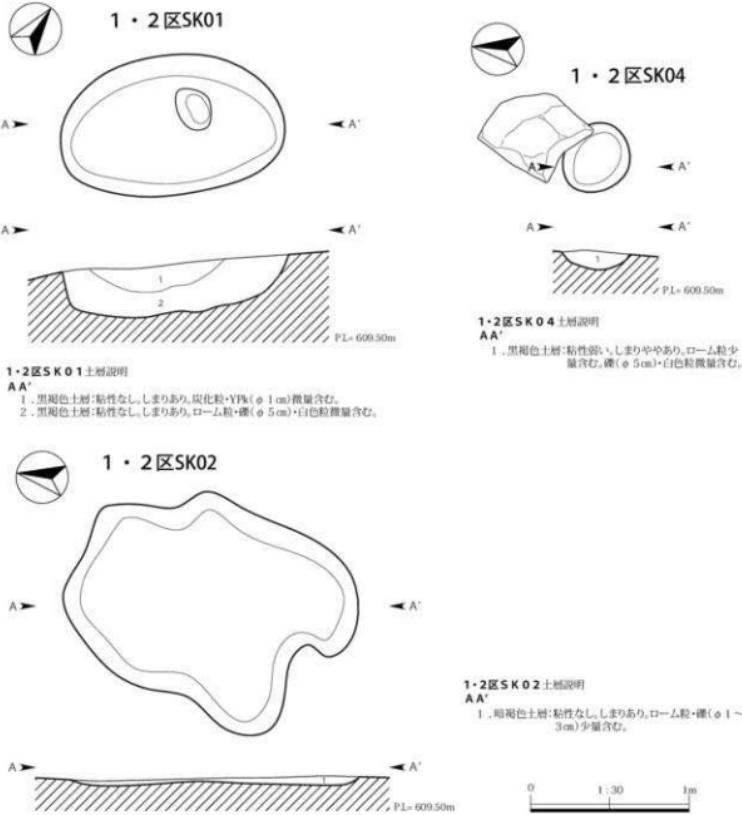
南西側へ緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。遺物 中世陶磁器片が出土し、常滑焼大甕と考えられる土器1点を図示した。備考 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、

出土遺物から中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区 SK02 (第324・340図／P L 125・132)

位置 4-14区M-11・12グリッド (1・2区調査区西端部)。重複関係 なし。遺存状態 上部が削平され、底面付近のみ現存する。覆土 暗褐色土が基準で、自然堆積を示す。平面形と規模 平面形は、

不整形を呈する。規模は長軸185cm、短軸145cm、確認面からの深さ4cmを測る。主軸方位 N-10°-W



第324図 1・2区SK01・02・04実測図(1/30)

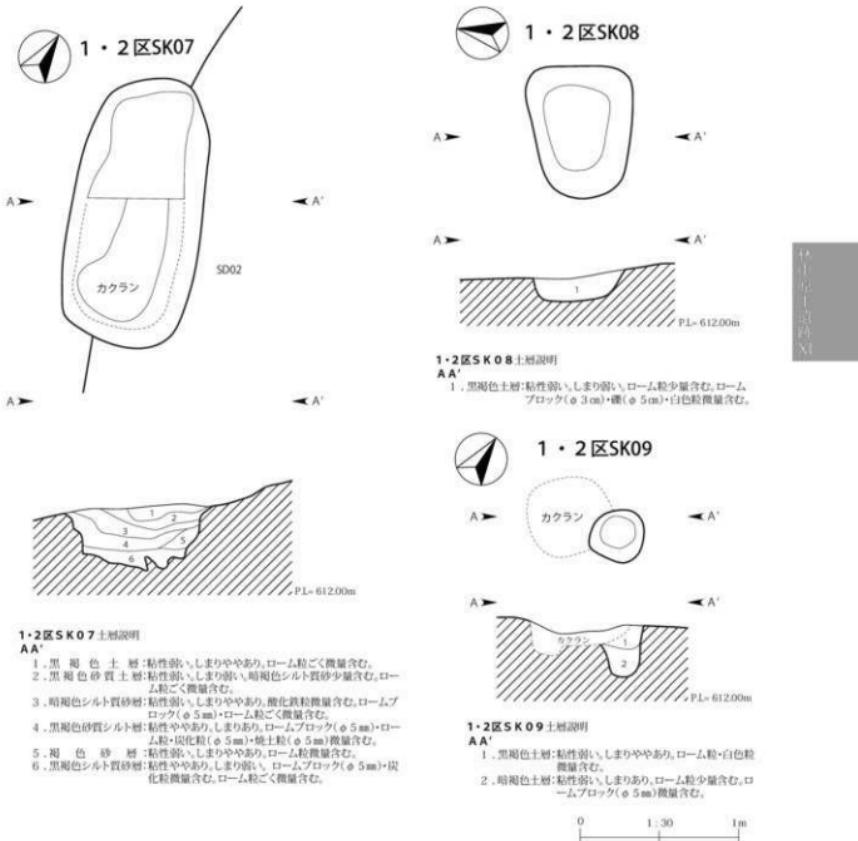
壁面 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 南北両端がわずかに低いが、概ね平坦である。 **遺物** 煙管雁首1点を図示し得た。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から中世～近世と考えられる。

1・2区SK04 (第324図)

位置 4-14区M-13・14グリッド(1・2区調査区西端部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 黒褐色土が基準で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸45cm、短軸35cm以上、確認面からの深さ12cmを測る。 **主軸方位** N-54°-W **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。

底面 中央に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周囲の土坑と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。



第325図 1・2区SK07～09実測図(1/30)

1・2区 SK07 (第325・340図／P L 126)

位置 4-15 区A-11 グリッド (1・2区調査区中央西部)。重複関係 SD02と重複し、本遺構の方が古い。遺存状態 良好。覆土 上層は黒褐色土・砂質土、下層は黒褐色が基調の砂質シルトが堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。平面形と規模 平面形は卵丸長方形を呈する。規模は長軸 170cm、短軸 80cm、確認面からの深さ 41cmを測る。主軸方位 N-30°-W 壁面 外傾して立ち上がる。底面 中央に向かって傾斜し、小さな凸凹がある。遺物 中近世陶器片が出土し、瀬戸美濃焼 1点を図示し得た。

備考 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。縁属時期は、出土遺物から中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区 SK08 (第325図)

位置 4-15区D-14グリッド (1・2区調査区中央西部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は卵円形を呈する。規模は長軸83cm、短軸63cm、確認面からの深さ25cmを測る。 **主軸方位** N-18°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面**

概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区 SK09 (第325図)

位置 4-15区C・D-14グリッド (1・2区調査区中央西部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態**

カクランに一部壊されているが、概ね良好である。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸34cm、短軸33cm、確認面からの深さ34cmを測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜している。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区 SK11 (第326図/PL 126)

位置 4-15区A-9グリッド (1・2区調査区中央西部北側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 黒色土と黒褐色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸125cm、短軸83cm、確認面からの深さ93cmを測る。 **主軸方位** N-2°-E **壁面** 東・西・南壁は外傾して立ち上がる。北壁は内傾する。 **底面** 北側に寄っているが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区 SK12 (第326図)

位置 4-15区A-9グリッド (1・2区調査区中央西部北側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 北半分が調査区外にあるが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸84cm、短軸35cm以上、確認面からの深さ42cmを測る。 **主軸方位** N-75°-E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって傾斜している。 **遺物** なし。 **備考**

本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区 SK13 (第326図)

位置 4-15区D-10グリッド (1・2区調査区中央部西侧)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

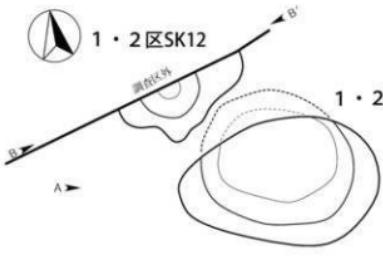
覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸72cm、短軸67cm、確認面からの深さ17cmを測る。 **主軸方位** N-23°-E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。

底面 北側に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区 SK14 (第326図)

位置 4-15区E-9・10グリッド (1・2区調査区中央西部北側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態**

良好。 **覆土** 黑色土と黒褐色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整



1・2区SK11

1・2区SK11 土壌説明

AA'

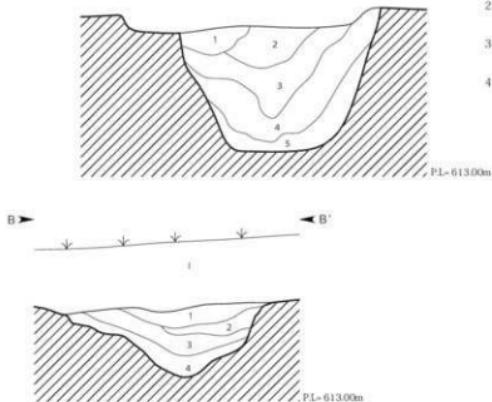
1. 黒褐色土層:粘性弱い、しまりややあり、ローム粒大量含む。白色粒微量含む、YPk(φ 1 cm)あり。
2. 黒色土層:粘性ややあり、しまりあり、炭化粒微量含む。ロームブロック(φ 1 cm)あり。
3. 黒色土層:粘性ややあり、しまりあり、ローム粒・純土粒・YPk(φ 5 mm)微量含む。
4. 黒褐色土層:粘性ややあり、しまりあり、ローム粒・YPk(φ 5 mm)少量含む。炭化粒・純土粒微量含む。
5. 黒褐色土層:粘性弱い、しまりあり、ローム粒・純土粒・ムブロック(φ 3 cm)・YPk粒微量含む。

AA'

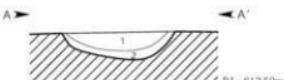
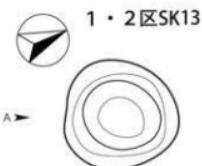
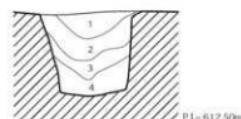
1・2区SK12 土壌説明

BB'

1. 黒褐色土層:粘性弱い、しまりあり。白色粒微量含む。(表土)
1. 黒褐色土層:粘性弱い、しまりあり、ローム粒・YPk(φ 5 mm)微量含む。
2. 黑褐色土層:粘性弱い、しまりあり、ローム粒微量含む。YPk(φ 5 mm・1 cm)微量含む。ロームブロック(φ 1 cm)あり。
3. 黑褐色土層:粘性弱い、しまりあり、炭化粒(φ 5 mm)少量含む。ローム粒・炭化粒(φ 3 cm)・YPk(φ 1 cm)微量含む。
4. 黑褐色土層:粘性弱い、しまりあり、ローム粒多量含む。炭化粒(φ 1 cm)・YPk(φ 1 cm)少量含む。ロームブロック(φ 1 cm)微量含む。



1・2区SK14



1・2区SK13 土壌説明

AA'

1. 黒色土層:粘性弱い、しまりややあり。炭化粒(φ 1 cm)少量含む。YPk(φ 5 mm)微量含む。
2. 黒色土層:粘性やや弱い、しまりややあり、ロームブロック(φ 1 cm)・炭化粒(φ 5 mm～1 cm)・純土粒・YPk粒微量含む。
3. 黒褐色土層:粘性弱い、しまりややあり、ローム粒微量含む。
4. 黒褐色土層:粘性ややあり、しまりややあり、ローム粒少量含む。ロームブロック(φ 1 cm)・YPk(粒・φ 5 mm)微量含む。

第326図 1・2区SK11～14実測図(1/30)



形を呈する。規模は長軸 77cm、短軸 70cm、確認面からの深さ 43cm、最深 116cm を測る。 **主軸方位** N—15°—W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 南北両端が深くなる。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区 SK15 (第 327 図／PL 126)

位置 4—15 区 F—9・10 グリッド (1・2 区調査区中央東部北側)。 **重複関係** P 230 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** P 230 によって一部壊されているが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 63cm、短軸 48cm 以上、確認面からの深さ 14cm を測る。 **主軸方位** N—14°—W **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜している。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区 SK16 (第 327 図)

位置 4—15 区 F—10 グリッド (1・2 区調査区中央東部北側)。 **重複関係** SK17 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土と暗褐色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 110cm、短軸 105cm、確認面からの深さ 149cm を測る。 **主軸方位** N—65°—W **壁面** 下位はほぼ垂直に、上位は外傾して立ち上がる。 **底面** 東西方向に細長く、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は非常に深い穴であるが、その性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区 SK17 (第 327 図)

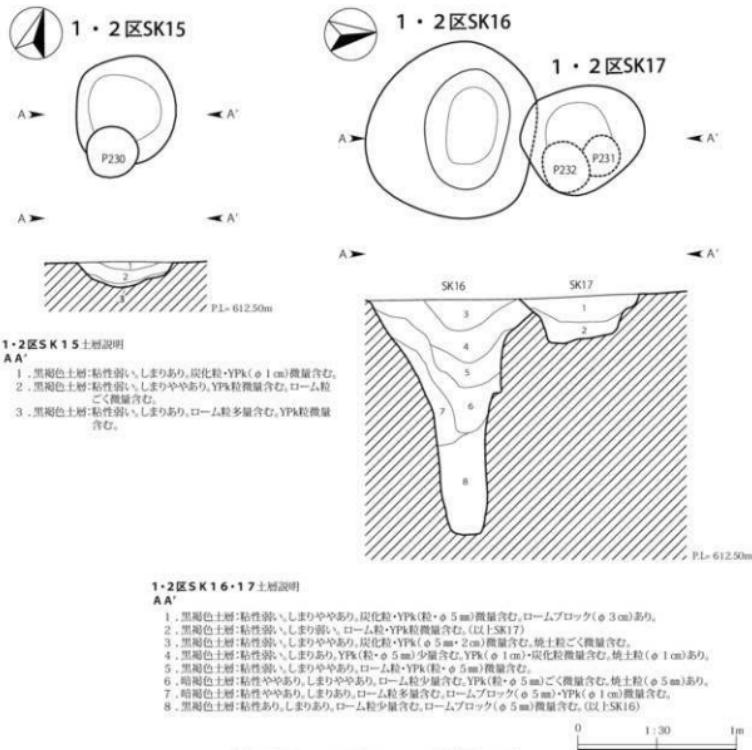
位置 4—15 区 F—10 グリッド (1・2 区調査区中央東部北側)。 **重複関係** SK16、P 231・232 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 一部を壊されているが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 73cm 以上、短軸 65cm、確認面からの深さ 29cm を測る。 **主軸方位** N—17°—W **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区 SK19 (第 328 図／PL 126)

位置 4—15 区 G—13・14 グリッド (1・2 区調査区中央東部南壁際)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は人頭大礫を含む黒褐色土、下層は暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 195cm、短軸 180cm、確認面からの深さ 63cm を測る。 **主軸方位** N—15°—W **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜している。 **遺物** 土器片が出土したが、図示し得るものはなかった。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、時期を特定し得る遺物は出土していないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区 SK20 (第 328 図)

位置 4—15 区 G—9 グリッド (1・2 区調査区中央東部北側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 110cm、短軸 98cm、確認面からの深さ 15cm を測る。 **主軸方位** N—60°—E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜し、中央南寄りが一段低くなる。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形



第327図 1・2区SK15～17実測図(1/30)

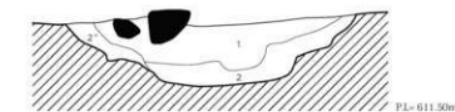
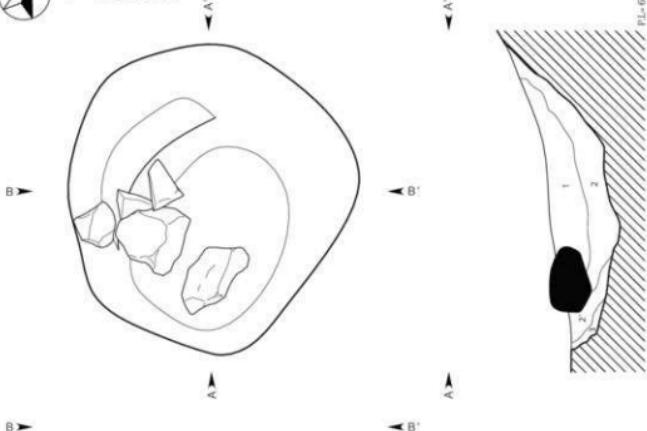
態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区SK21(第329図/P L 126)

位置 4-15区G-9・10グリッド(1・2区調査区中央東部北側)。**重複関係** P 226と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** 概ね良好である。**覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸252cm、短軸55cm、確認面からの深さ22cmを測る。**主軸方位** N-90°。**壁面** 南・北壁はほぼ垂直に、東・西壁は外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、平面形が細長いが浅い土坑であるため陥入穴ではないと考えられることから、性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。



1・2区SK19



1・2区SK19 土層説明

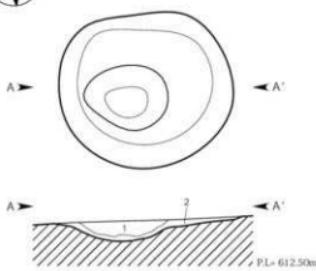
AA'BB'

1. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ロームブロック(φ 1cm)・ローム粒・炭化粒・YPk(φ 5mm)微量含む。礫(拳大)・入丸大・φ 60cm)含む。
2. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ロームブロック(φ 1cm)・炭化粒・φ 5mm)含む。
- 2'. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。炭化粒微量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりややあり。ローム粒多量含む。ロームブロック(φ 1cm)・YPk(φ 5mm)微量含む。

3. 暗褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。ローム粒多量含む。



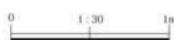
1・2区SK20



1・2区SK20 土層説明

AA'

1. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。YPk(φ 1cm)少量含む。炭化粒・YPk粒・暗褐色土粒微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。炭化粒・YPk(粒・φ 5mm)微量含む。



第328図 1・2区SK19・20実測図(1/30)

1・2区 SK22(第329図/PL 126)

位置 4-15区G-9・10グリッド(1・2区調査区中央東部北側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 上層は黒色土、下層は黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸140cm、短軸74cm、確認面からの深さ57cmを測る。 **主軸方位** N-2°-E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、上位が外傾する。 **底面** 南側に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物がないため性格・帰属時期は不明であるが、SK21と平行し、ピットが同位置にある状況から一連の遺構と考え中世～近世に帰属すると判断した。しかし、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥穴である可能性も高いと考えられる。

1・2区 SK23(第330・340図/PL 126・132)

位置 4-15区C・D-14グリッド(1区調査区中央西部南壁際)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 南半分が調査区外にあるが、概ね良好である。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈すると考えられる。規模は長軸152cm、短軸61cm以上、確認面からの深さ38cmを測る。 **主軸方位** N-89°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** 中近世陶磁器片が出土し、常滑焼甕1点を図示し得た。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区 SK25(第330図)

位置 4-15区P・Q-13グリッド(1・2区調査区東部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 上層は黒色土、下層は黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸124cm、短軸97cm、確認面からの深さ70cmを測る。 **主軸方位** N-82°-W **壁面** 外傾して立ち上がり、中位に平坦面を有する。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 中近世陶磁器片1点が出土したが、図示し得なかった。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、時期を特定し得る遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区 SK27(第330図/PL 126)

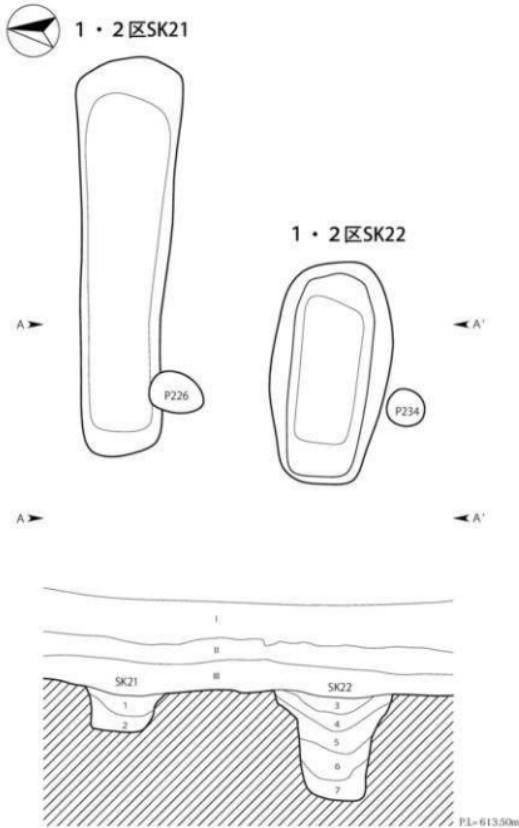
位置 4-15区O-11・12グリッド(1・2区調査区東部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 黒褐色土が基準で、上層に黒色土、下層に暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸78cm、短軸69cm、確認面からの深さ48cmを測る。 **主軸方位** N-51°-W **壁面** 下位は大きく外傾し、上位はほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区 SK28(第330図)

位置 4-15区P-12グリッド(1・2区調査区東部南側)。 **重複関係** SB06の建屋内に入るが、新旧関係は不明である。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基準で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸が72cm、短軸36cm、確認面からの深さ33cmを測る。 **主軸方位** N-39°-W **壁面** 北東壁は外傾して立ち上がり、その他はほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。

遺物 なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。



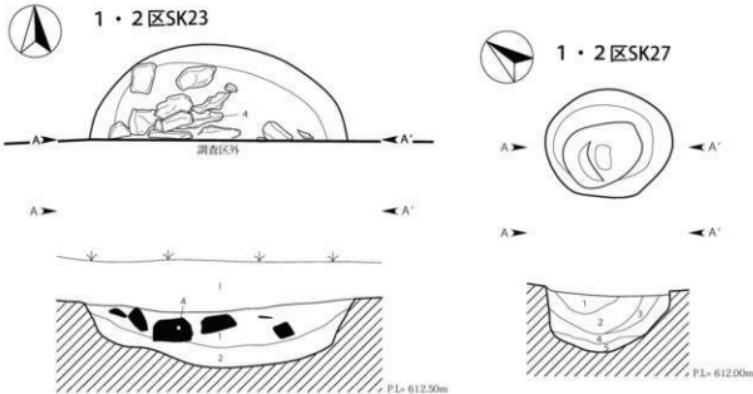
1・2区SK21・22 土層説明

AA'

1. 黒褐色土層: 黏性弱い、しまりあり、YPh(φ 5 mm)微量含む。
2. 黒褐色土層: 黏性なし、しまりややあり、ローム粒・YPh微量含む。ロームブロック(φ 1 cm)あり。
3. 黒褐色土層: 黏性弱い、しまりあり、YPh粒やや少含む。ローム粒・YPh(φ 5 mm)微量含む。(以上基本上部)
1. 黒褐色土層: 黏性弱い、しまりあり、YPh微量含む。ロームブロック(φ 1 cm)・YPh(φ 5 mm)あり。
2. 黒色土層: 黏性弱い、しまりあり、ローム粒や少含む。前褐色土粒微量含む。(以上SK21)
3. 黒色土層: 黏性やや弱い、しまりややあり、白色粒微量含む。
4. 黒色土層: 黏性やや弱い、しまりややあり、白色粒微量含む。ローム粒ごく微量含む。
5. 黑色土層: 黏性弱い、しまりやや弱い、ローム粒・白色粒微量含む。
6. 黑色土層: 黏性弱い、しまり弱い、ロームブロック(φ 5 mm)・ローム粒・白色粒微量含む。ロームブロック(φ 1 cm)あり。
7. 黑褐色土層: 黏性ややあり、しまりややあり、ローム粒少含む。ロームブロック(φ 1 cm)微量含む。YPh(φ 5 mm)あり。(以上SK22)

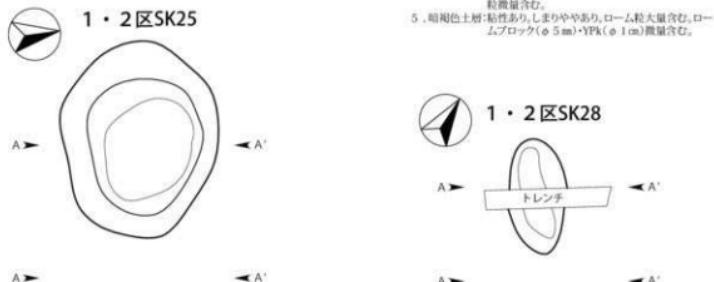
0 1:30 1m

第329図 1・2区SK21・22実測図(1/30)



1・2区SK23 土層説明
AA'

1. 黒褐色土層: 粘性あり、しまりやあり、白色粒少量含む。ロームブロック(φ 5mm)微量含む。
1. 黒褐色土層: 粘性あり、しまりやない、礫(人頭大)多量含む。ローム粒・礫(拳大)・YPK粒微量含む。
2. 單褐色土層: 粘性あり、しまりやあり、ローム粒少量含む。ロームブロック(φ 5mm・1cm)微量含む。

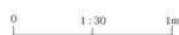


1・2区SK25 土層説明
AA'

1. 黒色土層: 粘性あり、しまりややあり、YPK(粒・φ 1cm)微量含む。ローム粒ごく微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性ややあり、しまりあり。YPK(φ 2cm)少量含む。YPK(φ 5mm)微量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性あり、しまりややあり、ローム粒・YPK(φ 5mm・1cm)微量含む。
4. 黑褐色土層: 粘性あり、しまりややあり、ローム粒多量含む。YPK(φ 5mm・1cm)微量含む。

1・2区SK28 土層説明
AA'

1. 黒色土層: 粘性あり、しまりややあり。ロームブロック(φ 5mm)・炭化物・YPK(φ 1cm)微量含む。ローム粒ごく微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性ややあり、しまりややあり。ローム粒少量含む。



第330図 1・2区SK23・25・27・28実測図(1/30)

1・2区 SK31(第331・340図／PL 132)

位置 4-15区N-12グリッド(1・2区調査区東部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 上層は黒色土、下層は黒褐色土・にぶい黄褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸150cm、短軸110cm、確認面からの深さ35cmを測る。 **主軸方位** N-14°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜している。 **遺物**

中世焼締陶器1点を図示し得た。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区 SK32(第331図)

位置 4-15区P-10グリッド(1・2区調査区西部北側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 黒色土が基調であるが、中層に黒褐色土・褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸87cm、短軸80cm、確認面からの深さ50cmを測る。 **主軸方位** N-4°-W **壁面** 下位は大きく外傾し、上位はほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 南西側に緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区 SK33(第331図)

位置 4-15区P・Q-11グリッド(1・2区調査区東部北側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整形円形を呈する。規模は長軸49cm、短軸40cm、確認面からの深さ40cmを測る。 **主軸方位** N-13°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区 SK34(第331図)

位置 4-15区P-11グリッド(1・2区調査区東部北側)。 **重複関係** P 433と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸54cm、短軸40cm、確認面からの深さ18cmを測る。 **主軸方位** N-83°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区 SK40(第332図／PL 127)

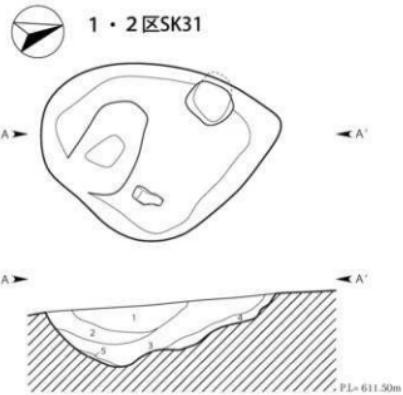
位置 4-15区K-10-11グリッド(1・2区調査区中央東部北側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸185cm、短軸89cm、確認面からの深さ63cmを測る。 **主軸方位** N-3°-W **壁面** 西壁は外傾し、その他は大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜している。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、平面形が細長く深い土坑であるため陥穴の可能性も考えられるが、掘り方がしっかりしていないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区 SK41(第332図)

位置 4-15区M・N-8グリッド(1・2区調査区東部北側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

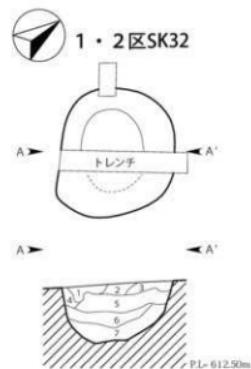
覆土 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸159cm、



1・2区SK31 土層説明

AA'

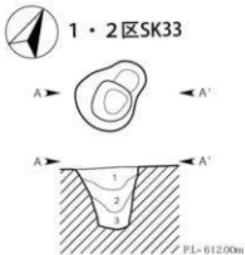
1. 黒色土層：粘性弱い、しまり弱い、ローム粒・YPk粒微量含む。ロームブロック($\phi 1\text{cm}$)あり。
2. 黒色土層：粘性やあり、しまりややあり、ローム粒少量含む。YPk粒微量含む。
3. 黒色土層：粘性ややあり、しまり弱い、ローム粒やや少量含む。ロームブロック($\phi 5\text{mm}$)・YPk($\phi 1\text{cm}$)微量含む。YPk($\phi 3\text{cm}$)あり。
4. 黑褐色土層：粘性あり、しまりややあり、ローム粒少量含む。
5. ぶい黄褐色土層：粘性あり、しまり弱い、ローム粒多量含む。ロームブロック($\phi 5\text{mm}$)・YPk($\phi 5\text{mm}$)微量含む。YPk($\phi 5\text{mm}$)微量含む。



1・2区SK32 土層説明

AA'

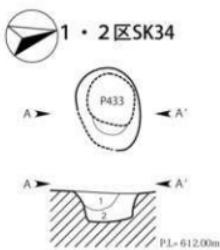
1. 黒色土層：粘性弱い、しまりややあり、ローム粒少量含む。ロームブロック($\phi 1\text{cm}$)・YPk粒微量含む。
2. 黒色土層：粘性ややあり、しまりややあり、ローム粒多量含む。YPk粒微量含む。
3. 黒褐色土層：粘性ややあり、しまり弱い、ローム粒少量含む。YPk($\phi 5\text{mm}$)微量含む。
4. 黑色土層：粘性ややあり、しまり弱い、ローム粒ごく微量含む。
5. 褐色土層：粘性弱い、しまり弱い、ローム粒大量含む。YPk($\phi 5\text{mm} \sim 1\text{cm}$)微量含む。
6. 黑色土層：粘性弱い、しまりややあり、ロームブロック($\phi 5\text{mm}$)・ローム粒・YPk粒微量含む。
7. 黑色土層：粘性ややあり、しまりややあり、YPk($\phi 5\text{mm}$)微量含む。ローム粒ごく微量含む。



1・2区SK33 土層説明

AA'

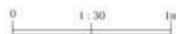
1. 黒色土層：粘性ややあり、しまりややあり、ロームブロック($\phi 5\text{mm}$)・ローム粒・炭化物・YPk粒微量含む。
2. 黒色土層：粘性あり、しまり弱い、ローム粒やや少量含む。YPk($\phi 5\text{mm}$)微量含む。
3. 黒色土層：粘性あり、しまりややあり、ローム粒少量含む。ロームブロック($\phi 1\text{cm}$)微量含む。



1・2区SK34 土層説明

AA'

1. 黒色土層：粘性弱い、しまりややあり、ロームブロック($\phi 3\text{mm}$)・炭化物微量含む。ローム粒ごく微量含む。
2. 黑色土層：粘性ややあり、しまり弱い、ロームブロック($\phi 1\text{cm}$)・ローム粒・YPk粒微量含む。



第331図 1・2区SK31～34実測図(1/30)

短軸 117cm、確認面からの深さ 33cmを測る。 **主軸方位** N—51°—E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。
底面 中央に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

1・2区 SK42 (第332図)

位置 4—15区 I—8・9グリッド (1・2区調査区中央東部北側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。
覆土 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は橢円長方形を呈する。規模は長軸 153cm、短軸 69cm、確認面からの深さ 18cmを測る。 **主軸方位** N—7°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。
底面 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

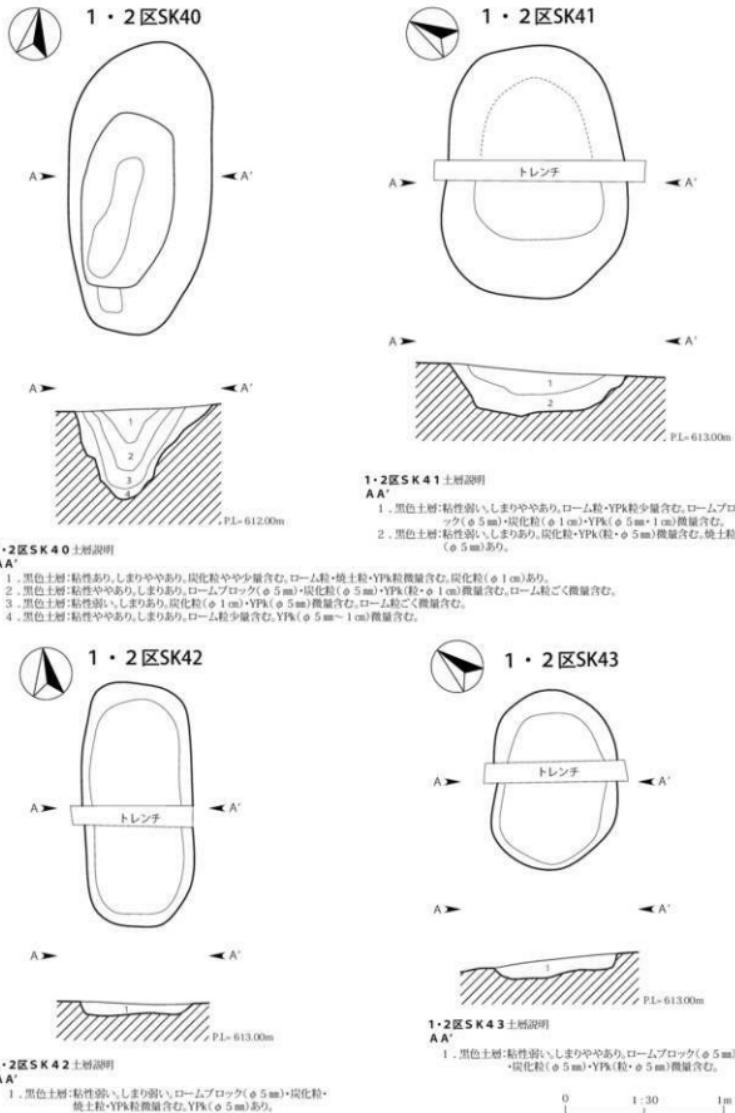
1・2区 SK43 (第332図／PL 127)

位置 4—15区 I—8・9グリッド (1・2区調査区中央東部北側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。
覆土 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸 112cm、短軸 75cm、確認面からの深さ 18cmを測る。 **主軸方位** N—56°—E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。
底面 中央に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

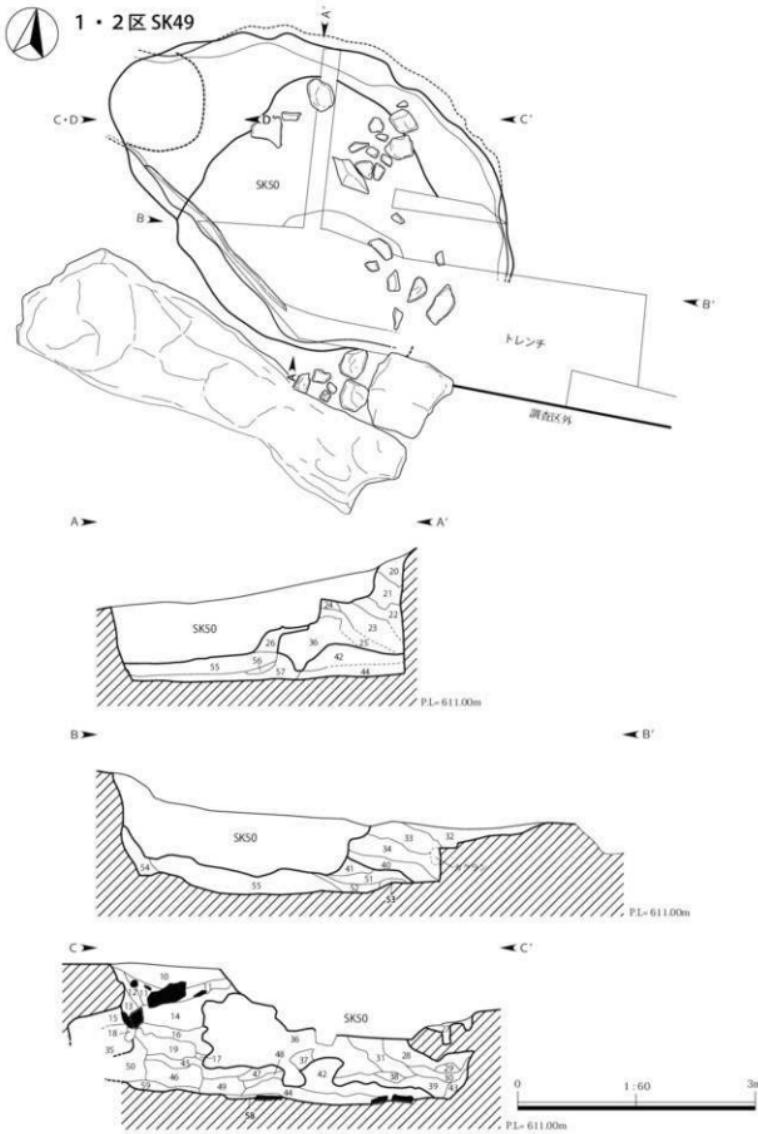
1・2区 SK49 (第333・334・340・341図／PL 127・132・133)

位置 4—15区 I・J—13・14グリッド (1・2区調査区中央東部南壁際)。 **重複関係** SK50と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** トレンチによって南側を欠損する。 **覆土** 東側約2/3は下層に灰黄褐色・黄褐色土、上層に黒色・黒褐色土が堆積する。西端は下層が黄褐色砂・土と黒色・黒褐色砂質シルトが互層をなし、上層は黒褐色土と黒色土が互層をなす。堆積状況は東側の天井崩落の前後に自然堆積したものと考えられる。

平面形と規模 平面形は不整楕円形を呈すると考えられる。規模は長軸 454cm以上、短軸 265cm、確認面からの深さ 123cmを測る。 **主軸方位** N—67°—W **壁面** 東・西壁は下位が上端よりも外側に位置している。外傾して立ち上がり中位で大きく内傾し、上位は再び外傾して立ち上がる。南壁は外傾し、北壁はほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 繩文土器、中近世陶磁器・瓦質土器、石製品、鉄製品のほか多量の礫が出土し、繩文土器1点、常滑焼1点、石製鉢1点、石臼1点、磨石2点、棒状鉄製品1点を図示し得た。繩文土器は遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。石製品を含む多量の礫は埋没過程で投げ込まれたものと考えられる。 **備考** 本遺構は、東側約2/3の天井が崩落したような堆積状況を示していること、西端が竪坑状の堆積状況を示していることから、西部に竪坑を持ち、東及び西側へ広がる地下式坑の可能性が高いと考えられる。帰属時期は、出土遺物から中世～近世にかけてと考えられる。



第332図 1・2区SK40~43実測図(1/30)



第333図 1・2区SK49実測図(1/60)

1・2区SK49土層説明

A'A'B'C'

1. ~ 9. SK50覆土 層 : 貧性弱い。しまりやあり。ロームブロック(φ 1cm)・ローム粒・炭化物(φ 1cm)・礫(φ 1cm)微量含む。自然石(φ 60cm)あり。
 10. 黒色土 層 : 貧性弱い。しまり弱い。礫(拳大)少量含む。ローム粒微量含む。
 11. 黒色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。ローム粒少量含む。
 12. 黒色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。ローム粒微量含む。
 13. 黑褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。ローム粒(φ 5cm塊状)やや多量含む。ロームブロック(φ 1cm)少量含む。
 14. 黑褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。礫少々、Ypk(φ 1cm)少量含む。ロームブロック(φ 1cm~3cm)・ローム粒・礫(人頭大・φ 60cm)微量含む。
 15. 黑褐色砂質土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)少量含む。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 1cm)微量含む。
 16. 黑褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)少量含む。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 1cm)微量含む。
 17. 黑褐色シルト質土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。ローム粒やや少量含む。ロームブロック(φ 1cm)微量含む。
 18. 黑褐色シルト質土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)少量含む。
 19. 黑褐色シルト質土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。ロームブロック(φ 10cm)多量含む。ローム粒微量含む。
 20. 黑褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 10cm)微量含む。
 21. 黑褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 10cm)微量含む。
 22. 黑褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 10cm)微量含む。
 23. 黑褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。
 24. 黑褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。
 25. 黑褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。
 26. 黑褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。
 27. 黑褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。
 28. 黑褐色シルト質土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 10cm)微量含む。
 29. 明黄褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。
 30. 黑褐色シルト質土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 10cm)微量含む。
 31. 黑褐色シルト質土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 10cm)微量含む。
 32. 黑褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 10cm)微量含む。
 33. 黑褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。
 34. 黑褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。
 35. 黄褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。
 36. 黄褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。
 37. 喀斯特化砂質シルト質土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 10cm)微量含む。
 38. 黑褐色砂質シルト質土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 10cm)微量含む。
 39. 变黄褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 10cm)微量含む。
 40. 黑褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 10cm)微量含む。
- (36~40) 土層未判別箇所
41. 黑褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。
 42. 黑褐色シルト質土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 10cm)微量含む。
 43. 黑褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。
 44. 黑褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。
 45. 黑褐色砂質シルト質土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 10cm)微量含む。
 46. 黑褐色砂質シルト質土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 10cm)微量含む。
 47. 喀斯特化砂質シルト質土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。
 48. 明黄褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。
 49. 黑褐色砂質シルト質土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 10cm)微量含む。
 50. 黑褐色砂質シルト質土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 10cm)微量含む。
 51. 喀斯特化土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 10cm)微量含む。
 52. 黑褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。
 53. ぶい黄褐色砂質土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。
 54. 黑褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 10cm)微量含む。
 55. 黑褐色砂質シルト質土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。
 56. ぶい黄褐色砂質シルト質土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。
 57. 黑褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。
 58. 变黄褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。
 59. 黑褐色土 层 : 貧性弱い。しまり弱い。Ypk(φ 1cm)・Ypk(粒・φ 5cm)微量含む。

1・2区SK50 (第335図)

位置 4-15区I・J-13・14グリッド (1・2区調査区中央東部南壁際)。 **重複関係** SK49と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** トレングによって南側を欠損する。 **覆土** 黒色土と黒褐色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈すると考えられる。規模は長軸 368cm 以上、短軸 317cm 以上で、確認面からの深さ 73cm を測る。 **主軸方位** N-4°-W **壁面** 東・西壁は外傾して、南壁はほぼ垂直に立ち上がる。北壁は下位が外傾し、中位にテラスを2段有し、上位はほぼ垂直に立ち上がる。

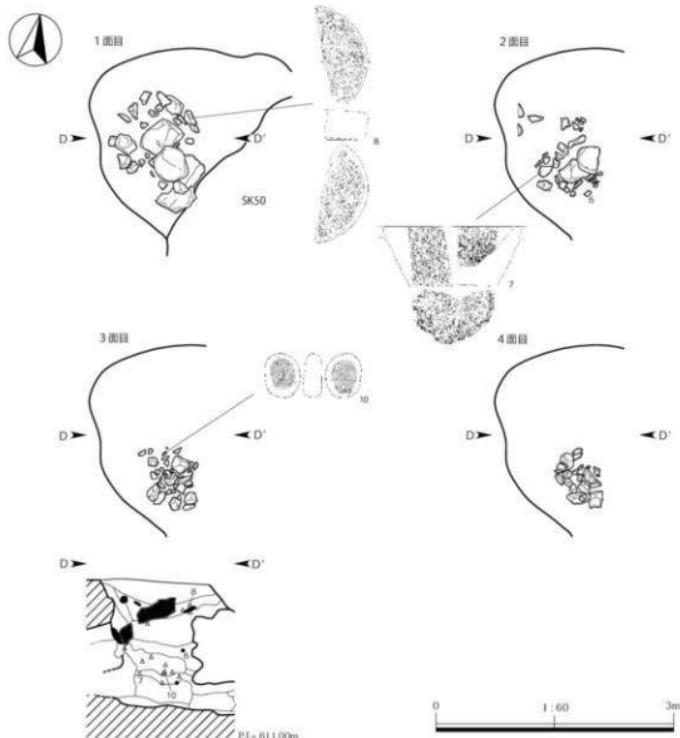
底面 南東方向に緩やかに傾斜しており、凸凹が見られる。 **遺物** 繩文土器片、中近世瓦質土器片が出土した。繩文土器1点を図示したが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。

備考 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、遺構の切り合い関係から近世以前と考えられる。

3区SK02 (第336図)

位置 4-4区S-7・8グリッド (3区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黑褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 95cm、短軸 76cm、確認面からの深さ 29cm を測る。 **主軸方位** N-17°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央が窪む。

遺物 繩文土器片、中近世瓦質土器片が出土したが、図示し得なかった。また、繩文土器は遺構に伴うもの



第334図 1・2区SK49遺物出土状況図(1/60)

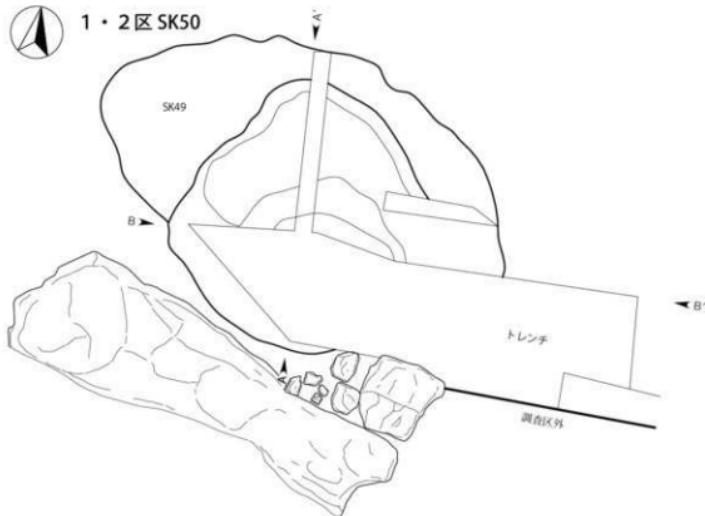
ではないと判断した。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、時期を特定し得る遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

3区 SK03（第336図）

位置 4—4区S—8グリッド（3区調査区西部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸69cm、短軸51cm、確認面からの深さ22cmを測る。 **主軸方位** N—23°—W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 若干凸凹するも、概ね平坦である。 **遺物** 繩文土器片が出土したが、図示し得なかった。また、遺構に伴うものではないと判断した。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、時期を特定し得る遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

3区 SK05（第336図）

位置 4—4区P—9グリッド（3区調査区西端）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黑褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸122cm、短軸84cm、



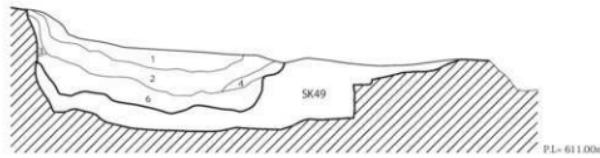
A▶

◀ A'

B'◀

B▶

◀ B'

**1・2区SK50 土壌説明****A'A'B'B'**

1. 黒色土層：粘性弱く、しまりややあり。炭化粒（φ 1 cm）・YPk（φ 5 mm）微量含む。ローム粒ごく微量含む。
2. 黒色土層：粘性弱く、しまりややあり。ローム粒・炭化粒（φ 5 mm）・YPk（φ 5 mm）微量含む。ロームブロック（φ 1 cm）ごく微量含む。純土粒（φ 5 mm）あり。
3. 黒褐色土層：粘性ややあり。しまり弱く、ローム粒やや多く含む。YPk（φ 1 cm）あり。
4. 黒色土層：粘性弱く、しまりややあり。ローム粒微量含む。純土粒ごく微量含む。ロームブロック（φ 1 cm）あり。
5. 黒色土層：粘性弱く、しまりややあり。ローム粒やや少量化合。炭化粒微量含む。YPk（φ 5 mm）あり。
6. 黒色土層：粘性弱く、しまり弱く。ローム粒少量含む。ロームブロック（φ 5 mm～1 cm・φ 3 cm）・YPk（φ 1 cm）・炭化粒（φ 1 cm）微量含む。ロームブロック（φ 5 mm）・YPk（φ 3 cm）あり。
7. 黑褐色土層：粘性弱く、しまり弱く。ローム粒多量含む。ロームブロック（φ 5 mm）あり。
8. 黑褐色土層：粘性あり。しまり弱く。ローム粒多量含む。ロームブロック（φ 3 cm）少量化合。
9. 黑色土層：粘性あり。しまり弱く。YPk（φ 5 mm）やや多量含む。ローム粒ごく微量含む。



第335図 1・2区SK50実測図(1/60)

確認面からの深さ 13cmを測る。 **主軸方位** N—3°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。**遺物** 繩文土器片が出土したが、図示し得なかった。また、遺構に伴うものではないと判断した。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、時期を特定し得る遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

3区 SK06（第336図）

位置 4—4区Q—8・9グリッド（3区調査区西端）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 96cm、短軸 54cm、確認面からの深さ 19cmを測る。**主軸方位** N—29°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 壁際がわずかに窪むが、概ね平坦である。**遺物** 繩文土器片、中近世瓦質土器片が出土したが、図示し得なかった。また、繩文土器は遺構に伴うものではないと判断した。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、時期を特定し得る遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

3区 SK08（第336図／PL 127）

位置 4—4区Q—9グリッド（3区調査区西部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 82cm、短軸 54cm、確認面からの深さ 33cmを測る。**主軸方位** N—76°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 中央が一段低くなり、長軸両端部がテラス状になる。**遺物** 繩文土器片が出土したが、図示し得なかった。また、遺構に伴うものではないと判断した。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、時期を特定し得る遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

3区 SK09（第336図）

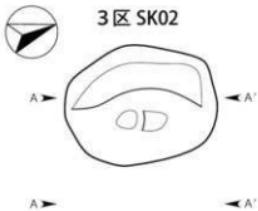
位置 4—4区R—9グリッド（3区調査区西部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黑褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 71cm、短軸 44cm、確認面からの深さ 13cmを測る。**主軸方位** N—54°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 壁際に小さな窪みが巡り、中央がわずかに盛り上がる。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

3区 SK10（第337図）

位置 4—4区R—9グリッド（3区調査区西部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黑色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 81cm、短軸 76cm、確認面からの深さ 14cmを測る。**主軸方位** N—66°—W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 南壁際がわずかに窪むが、概ね平坦である。**遺物** 繩文土器片、中近世瓦質土器片が出土したが、図示し得なかった。また、繩文土器は遺構に伴うものではないと判断した。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、時期を特定し得る遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

3区 SK11（第337図／PL 128）

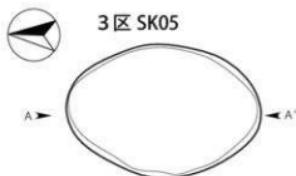
位置 4—4区R—8グリッド（3区調査区西部）。**重複関係** SK12と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** 南側がSK12によってわずかに壊されている。**覆土** 黑褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 61cm、短軸 60cm、確認面からの深さ 19cmを測る。**主軸方位** 不明。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 中近世瓦質土器片が出土したが、図示し得なかった。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、時期



3区SK02 土層説明

AA'

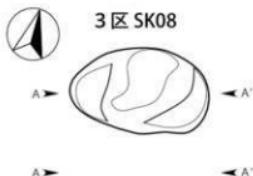
1. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。ローム粒微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。白色粒少量含む。ローム粒微量含む。



3区SK05 土層説明

AA'

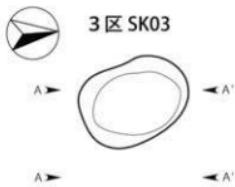
1. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。白色粒少量含む。Ypk(Φ 2 mm)微量含む。



3区SK08 土層説明

AA'

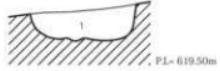
1. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。Ypk(Φ 1 ~ 3 mm)少量含む。白色粒微量含む。



3区SK03 土層説明

AA'

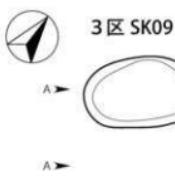
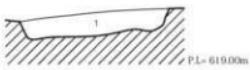
1. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。ローム粒少量含む。



3区SK06 土層説明

AA'

1. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。白色粒少量含む。Ypk(Φ 1 mm)微量含む。



3区SK09 土層説明

AA'

1. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。白色粒-Ypk(Φ 1 mm)微量含む。



第336図 3区SK02・03・05・06・08・09実測図(1/30)

を特定し得る遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

3区 SK12（第337図／PL 128）

位置 4—4区R—8・9グリッド（3区調査区西部）。**重複関係** SK11と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸91cm、短軸69cm、確認面からの深さ15cmを測る。**主軸方位** N—16°—W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 繩文土器片、中近世瓦質土器片が出土したが、図示し得なかった。また、繩文土器は遺構に伴うものではないと判断した。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、時期を特定し得る遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

3区 SK13（第337図）

位置 4—4区S—8グリッド（3区調査区西部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸72cm、短軸62cm、確認面からの深さ14cmを測る。**主軸方位** N—84°—E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。**底面** 西側に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

3区 SK15（第337図／PL 128）

位置 4—4区S—9グリッド（3区調査区西部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸112cm、短軸72cm、確認面からの深さ27cmを測る。**主軸方位** N—48°—E **壁面** 東・西・南壁はほぼ垂直に、北壁は外傾して立ち上がる。**底面** 西・北側に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。**遺物** 繩文土器片、中近世瓦質土器片が出土したが、図示し得なかった。また、繩文土器は遺構に伴うものではないと判断した。

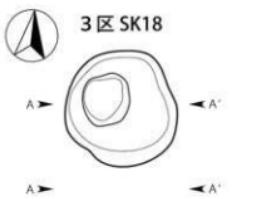
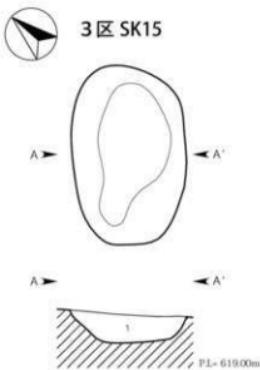
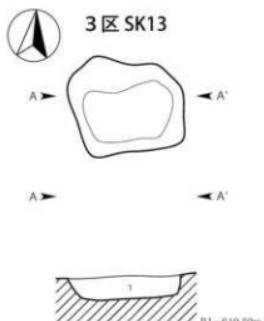
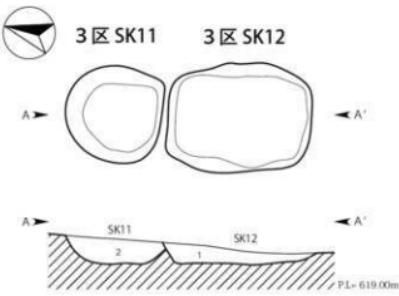
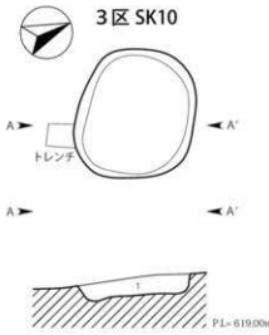
備考 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、時期を特定し得る遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

3区 SK18（第337図／PL 128）

位置 4—4区S—9グリッド（3区調査区西部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸73cm、短軸70cm、確認面からの深さ14cmを測る。**主軸方位** 不明。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 西側に小さな窪みがあるが、概ね平坦である。**遺物** 繩文土器片が出土したが、図示し得なかった。また、遺構に伴うものではないと判断した。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、時期を特定し得る遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

3区 SK19（第338図）

位置 4—4区S—9グリッド（3区調査区西部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸88cm、短軸79cm、確認面からの深さ12cmを測る。**主軸方位** N—51°—W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 中央に向かって非常に緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。**遺物** 繩文土器片が出土したが、図示し得なかった。また、遺構に伴うものではないと判断した。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、時期を特定し得る遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。



第337図 3区SK10~13・15・18実測図 (1/30)



3区 SK20（第338図／PL 128）

位置 4—4区S—9グリッド（3区調査区西部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸103cm、短軸61cm、確認面からの深さ31cmを測る。**主軸方位** N—64°—W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 中央が一段低く、長軸両端部がテラス状になる。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

3区 SK21（第338図）

位置 4—4区T—8グリッド（3区調査区中央部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸62cm、短軸56cm、確認面からの深さ31cmを測る。**主軸方位** N—80°—W **壁面** 北東壁はほぼ垂直に、その他の壁は外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 繩文土器片が出土したが、図示し得なかった。また、遺構に伴うものではないと判断した。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、時期を特定し得る遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

3区 SK22（第338図）

位置 4—4区T—8グリッド（3区調査区中央部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黑褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸64cm、短軸64cm、確認面からの深さ25cmを測る。**主軸方位** 不明。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 中央に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。**遺物** 繩文土器片が出土したが、図示し得なかった。また、遺構に伴うものではないと判断した。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、時期を特定し得る遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

3区 SK24（第338図）

位置 4—4区T—8グリッド（3区調査区中央部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黑褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸63cm、短軸62cm、確認面からの深さ21cmを測る。**主軸方位** 不明。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 繩文土器片が出土したが、図示し得なかった。また、遺構に伴うものではないと判断した。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、時期を特定し得る遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

4区 SK01（第339図／PL 128）

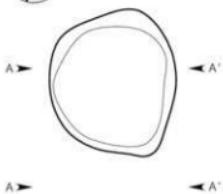
位置 4—6区E・F—18グリッド（4区東西調査区1東部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸90cm、短軸58cm、確認面からの深さ16cmを測る。**主軸方位** N—4°—W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 北側が一段低く、南側がテラス状となる。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

4区 SK02（第339図）

位置 4—6区D—18グリッド（4区東西調査区1東部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 南側は調査区外にあるが、概ね良好である。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈すると考えられる。規模は長軸90cm以上、短軸81cm、確認面からの深さ11cmを測る。**主軸方位**



3区 SK19



3区SK19 土層説明

A A'

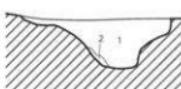
1. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。白色粒少量含む。ローム粒・Ypk(φ 1mm)微量含む。



3区 SK20



3区 SK20



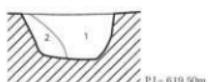
3区SK20 土層説明

A A'

1. 黒色土層: 粘性ややあり。しまり弱い。Ypk(φ 3~5mm)微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。白色粒微量含む。



3区 SK21



3区SK21 土層説明

A A'

1. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまり弱い。ローム粒・白色粒・Ypk(φ 2mm)微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。Ypk(φ 3~5mm)・白色粒微量含む。



3区 SK22



3区SK22 土層説明

A A'

1. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまり弱い。ローム粒微量含む。



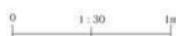
3区 SK24



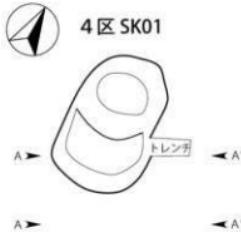
3区SK24 土層説明

A A'

1. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまり弱い。薄少量含む。ローム粒・白色粒微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまり弱い。白色粒微量含む。



第338図 3区SK19~22・24実測図(1/30)



4区SK01 土層説明
AA'

1. 黒褐色土層: 粘性あり、しまりややあり。白色粒微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性あり、しまり弱く、ローム粒微量含む。



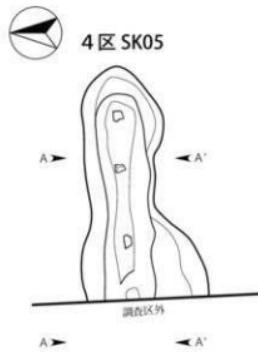
4区SK02 土層説明
AA'

1. 黒褐色土層: 粘性あり、しまりあり。ローム粒微量含む。



4区SK04 土層説明
AA'

1. 黒褐色土層: 粘性なし、しまりあり。礫(Φ 3 ~ 5 cm)多量含む。燒土粒・白色粒・礫(拳大)微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりややあり。白色粒(Φ 5 mm)・礫(Φ 3 cm)微量含む。



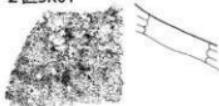
4区SK05 土層説明
AA'

1. 黒色土層: 粘性弱い、しまりややあり。白色粒や少量含む。ロームブロック(Φ 5 mm)・炭化粒微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまり弱く、ローム・白色粒微量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性ややあり、しまりややあり。ローム粒多量含む。白色粒微量含む。白色粒(Φ 5 mm)あり。



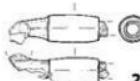
第339図 4区SK01・02・04・05実測図(1/30)

1・2区SK01



1

1・2区SK02



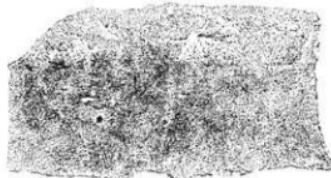
2

1・2区SK07



3

1・2区SK23



4

1・2区SK31

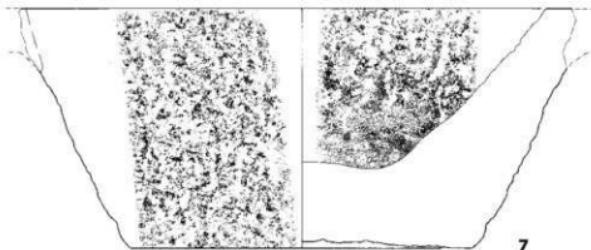


5

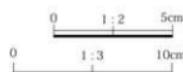
1・2区SK49



6

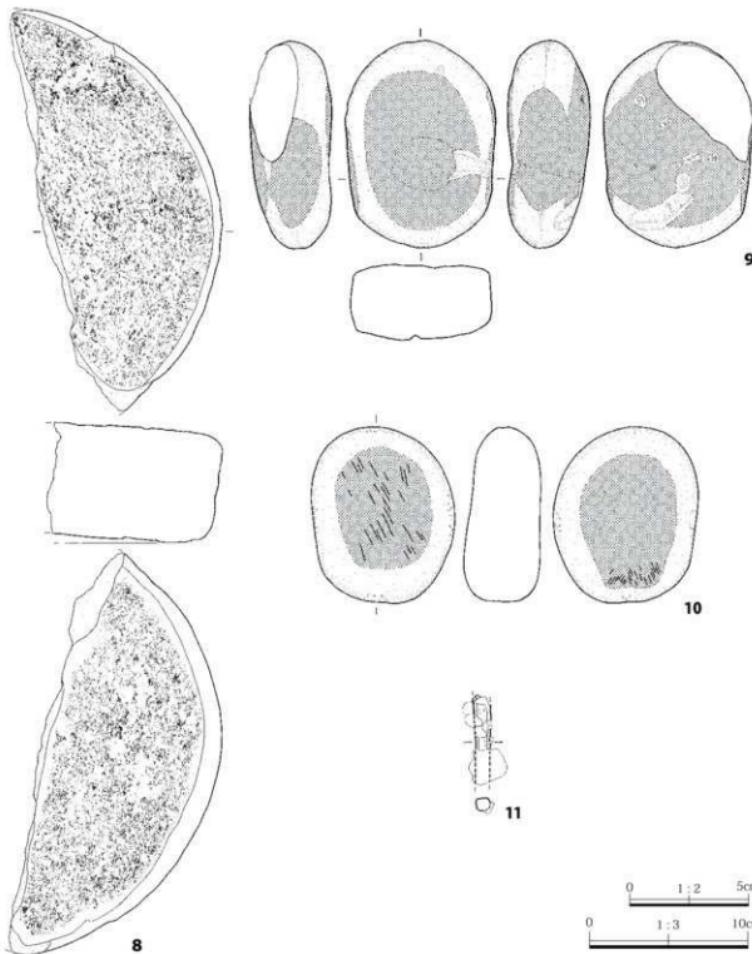


7



第340図 中世～近世土坑出土遺物実測図①(1/2・1/3)

1・2区SK49



第341図 中世～近世土坑出土遺物実測図②(1/2・1/3)

N-20°-W **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜している。 **遺物** 縄文土器片が出土したが、図示し得なかった。また、遺構に伴うものではないと判断した。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、時期を特定し得る遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

4区 SK04 (第339図／PL 128)

位置 4-5区N-15・16グリッド(4区南北調査区南部)。 **重複関係** SK07と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積の可能性がある。上層に拳大の礫を微量、直径3～5cm大の礫を多量に含む。 **平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸157cm、短軸102cm、確認面からの深さ22cmを測る。 **主軸方位** N-0° **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。

遺物 なし。 **備考** 周辺の遺構覆土には礫が含まれていないことから、本遺構の礫は人為的に集められたものと考えられる。このことから、本遺構は礫の規模が小さいがヤックラと考えられる。帰属時期は、出土遺物がないため不明であるが、近世以降の可能性が高いと考えている。

4区 SK05 (第339図／PL 128)

位置 4-5区M・N-14グリッド(4区南北調査区南部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 西側は調査区外であるが、概ね良好である。 **覆土** 上層は黒色土、下層は黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸147cm以上、短軸77cm以上、確認面からの深さ32cmを測る。 **主軸方位** N-86°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 西側に向かって階段状に低くなる。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明であるが、平面形が細長いものになり得ることから溝跡である可能性が考えられる。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

(4) 土塙墓

1・2区 SK24 (第342・343図／PL 129・133)

位置 4-15区P-13グリッド(1・2区調査区東部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は人頭大の礫を多量に含む黒褐色土、下層は暗褐色砂質シルトである。掘り方は上層がシルト質砂、下層が砂質シルトで、土色は地山に近いにぶい黄褐色土や暗褐色土が主体である。堆積状況は人為堆積と考えられる。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸133cm、短軸67cm、確認面からの深さ33cmを測る。 **主軸方位** N-3°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 掘り方から永楽通宝が出土している。6枚重ねた状態で和紙の様な物で包まれていた。 **備考** 本遺構から人骨1体が出土した。頭位を北にして顔面部を西に向けた横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと考えられる。人骨の遺存状況・部位や被葬者の人物像は第8編自然科学分析に詳しいが、40歳代の女性と推測される。人骨の遺存状況が悪いこと、永楽通宝が出土したことから、本遺構は中世の土塙墓と判断した。

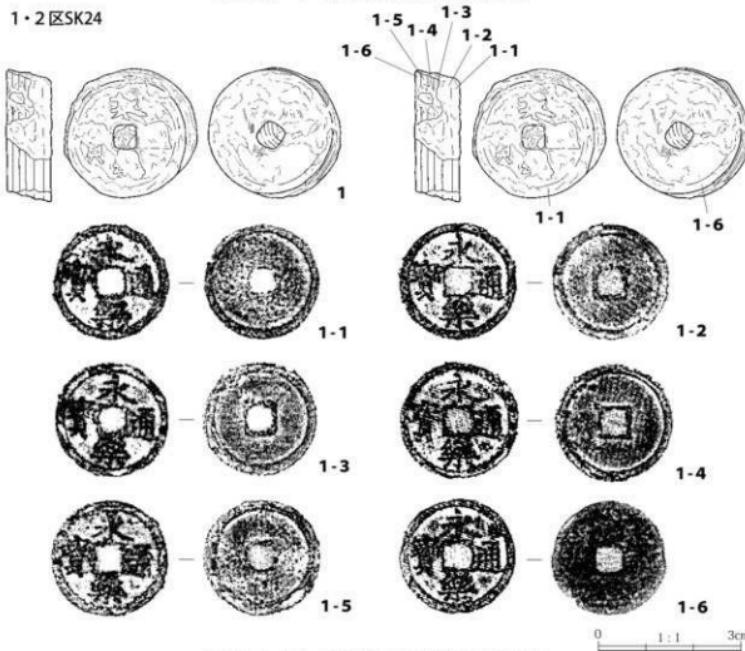
(5) 溝跡

1・2区 SD01 (第344図／PL 129)

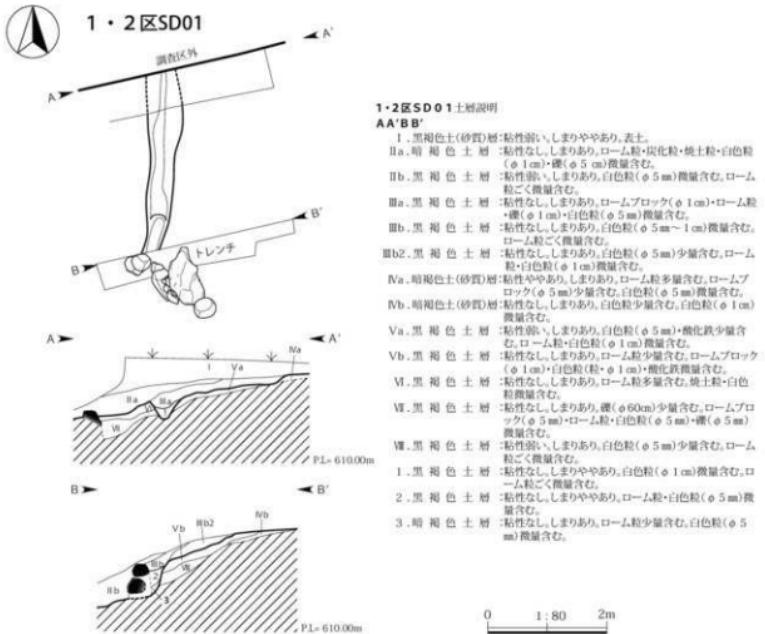
位置 4-14区M-11・12グリッド(1・2区調査区西端部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 北側が調査区外に延びているが、概ね良好である。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **規格** 長さは直線距離で3.6m確認され、幅は37cm～59cm、確認面からの深さ55cmを測る。 **主軸方位** N-4°-E **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、林城の郭と考えられる平坦部の西端に位置しており、西側・南側が崖となっている。南北方向に走る溝跡で、南に傾斜してことから郭内の雨水などを排出する溝の可能性が考えられる。帰属時期は、林城と同時期の中世と考えられる。



第342図 1・2区SK24(土壤墓)実測図(1/30)



第343図 中世～近世土壤墓出土遺物実測図(1/1)



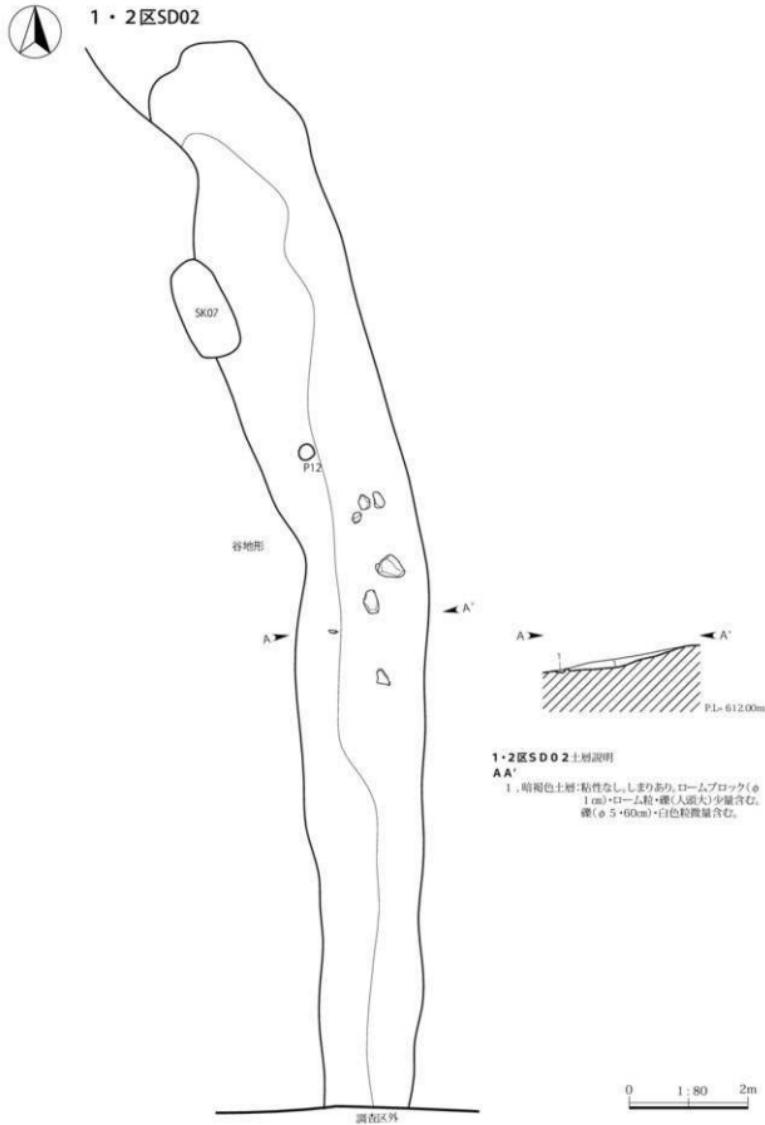
第344図 1・2区SD01実測図(1/80)

1・2区SD02 (第345・355図／P L 133)

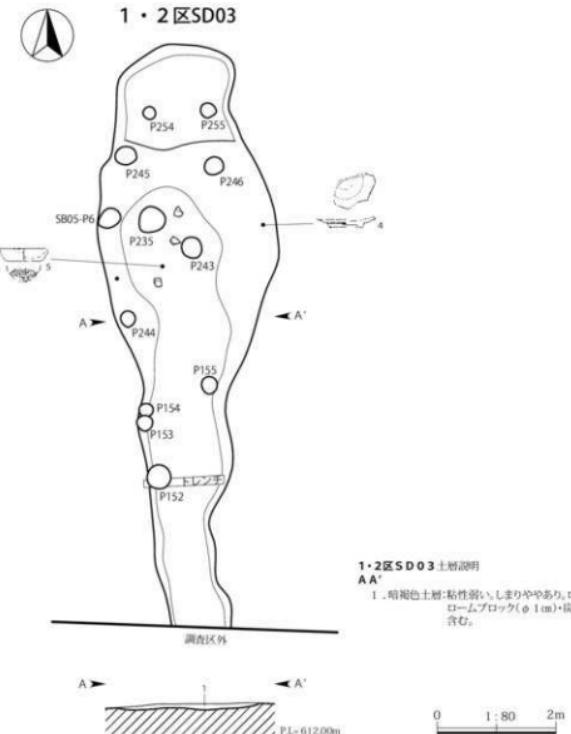
位置 4-15区A-10～B-14 グリッド (1・2区調査区中央西部)。 **重複関係** SK07、P 12と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 南側は調査区外にあるが、概ね良好である。 **覆土** 暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **規模** 長さは直線距離で 18.2 m 確認され、幅は 1.42 m～2.51 m、確認面からの深さ 37 cm を測る。 **主軸方位** N-9°-W **遺物** 中近世陶磁器片が出土し、そのうち焼締陶器 1 点、瀬戸美濃焼 1 点、陶器染付 1 点を図示した。 **備考** 本遺構は、東壁が大きく外傾すること、西壁がないこと、細かい凸凹があるものの底面が平坦であることから、溝跡として調査を行なったが道路の可能性が高いと考えられる。現代の地図の道とほぼ重なることから、帰属時期は近世以降～現代に至るまでと考えられる。

1・2区SD03 (第346・355図／P L 129・133)

位置 4-15区D-12～D-14 グリッド (1・2区調査区中央西部)。 **重複関係** SB05、P 152～156・235・243～246・250・254・255 と重複しているが、新旧関係は不明である。 **遺存状態** 南側は調査区外にあるが、概ね良好である。 **覆土** 暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **規模** 長さは直線距離で 9.9 m 確認され、幅は 89 cm～302 cm、確認面からの深さ 10 cm を測る。 **主軸方位** N-2°-W **遺物** 繩文土器片、中近世陶磁器片が出土し、そのうち白磁 1 点、カワラケ 1 点を図示した。繩文土器は遺構に伴うものではないと判断した。 **備考** 本遺構は、南北方向に走る溝跡であるが、明瞭な掘り込みは見られることから、自然流路と考えられる。帰属時期は、出土遺物から中世～近世と考えられる。



第345図 1・2区SD02実測図(1/80)



第346図 1・2区SD03実測図(1/80)

1・2区 SD04 (第347・355図)

位置 4—15区B—12~G—9グリッド(1・2区調査区中央西部)。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。

覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**規模** 長さは直線距離で23.8m、幅は25cm~77cm、確認面からの深さ12cmを測る。**主軸方位** N—84°—E **遺物** 繩文土器片、中近世陶磁器片が出土し、そのうち常滑焼1点を図示し得た。繩文土器は遺構に伴うものではないと判断した。**備考** 本遺構は、東西方向に走る溝跡である。掘り込みは浅いが、壁面などはしっかりしている。SB02・03と軸方向が同じであることから同時期である可能性が高く、何らかの区画溝の可能性が考えられる。帰属時期は、出土遺物から中世~近世と考えられる。

1・2区 SD05 (第348・355図／PL 129・133)

位置 4—15区M—12~Q—13グリッド(1・2区調査区東部南側)。**重複関係** SK25と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 東側が調査区外に延びるが、概ね良好である。**覆土** 上層は黒褐色砂質土が堆積し、下層は暗褐色・黒褐色砂質シルトと黄褐色土・砂が互層をなす。堆積状況は自然堆積を示す。**規**



1・2区SD04

国土交通省
測量部

A A'

→

←

B B'

→

←

C C'

→

←

D D'

→

←

E E'

→

←

F F'

→

←

G G'

→

←

H H'

→

←

I I'

→

←

J J'

→

←

K K'

→

←

L L'

→

←

M M'

→

←

N N'

→

←

O O'

→

←

P P'

→

←

Q Q'

→

←

R R'

→

←

S S'

→

←

T T'

→

←

U U'

→

←

V V'

→

←

W W'

→

←

X X'

→

←

Y Y'

→

←

Z Z'

→

←

AA'BB'

→

←

A A'

→

←

1a PL= 613.00m



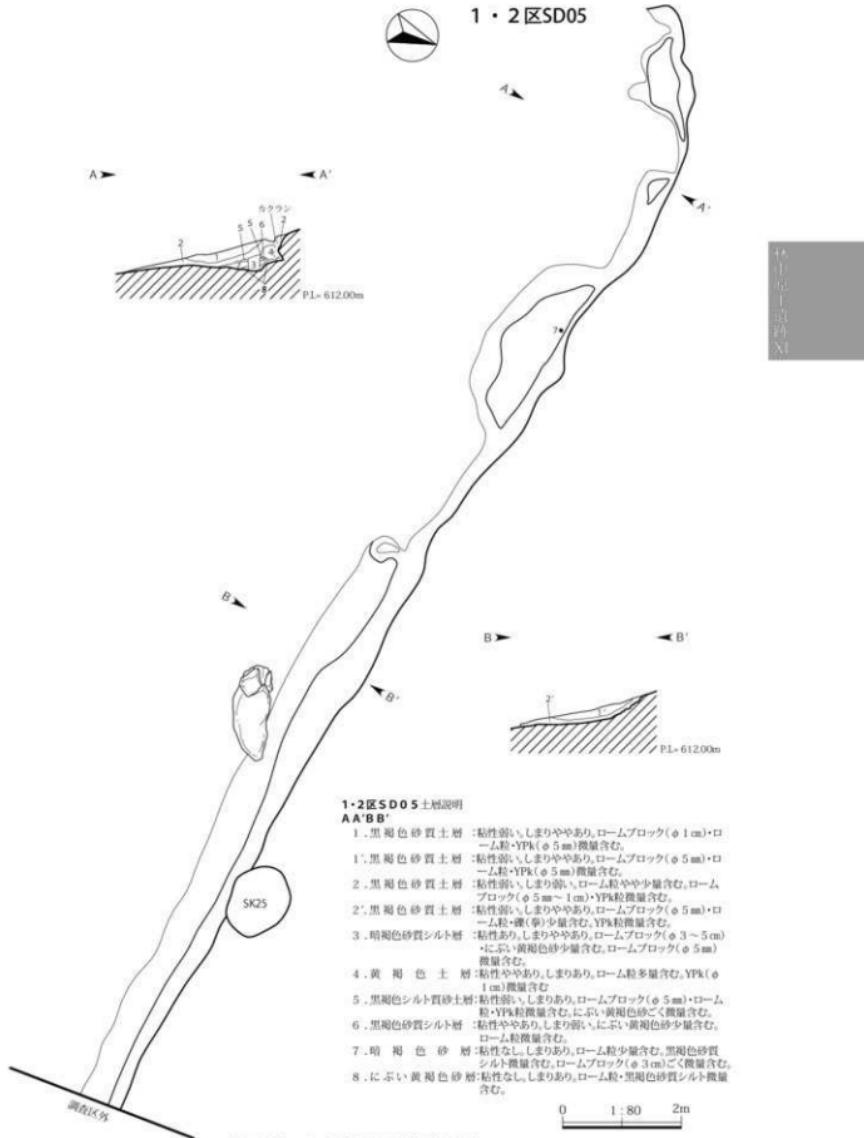
1・2区SD04 土層説明

AA'BB'

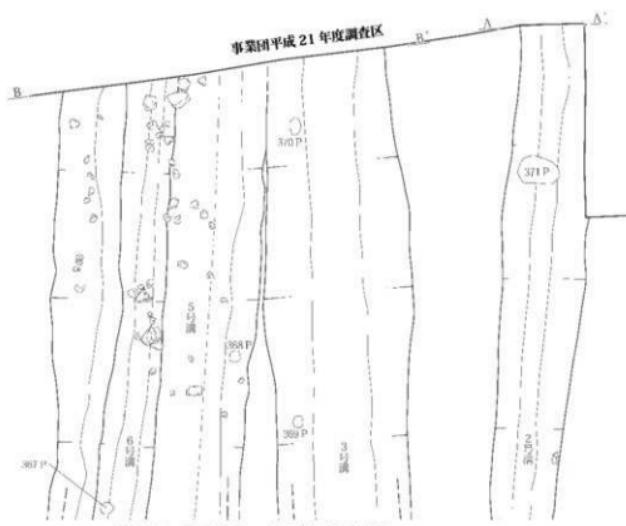
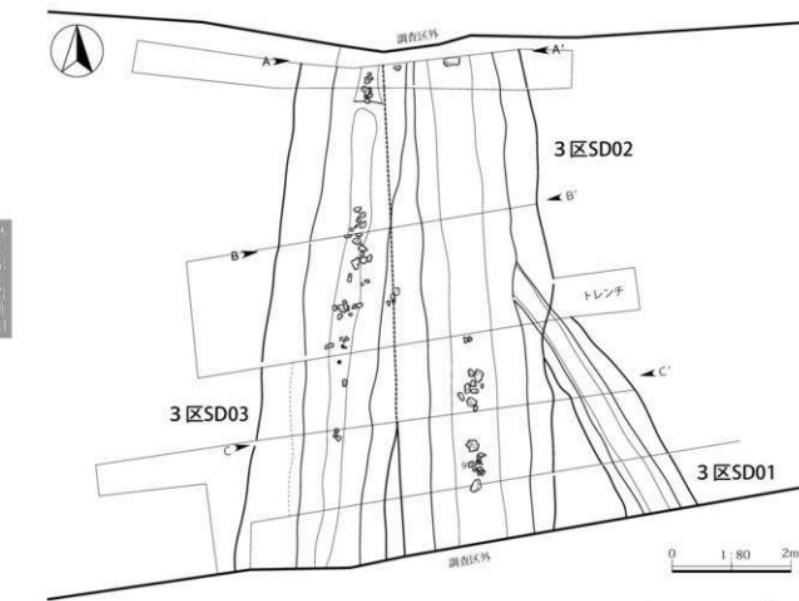
- 1a. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、炭化粒・YPk(Φ 1 cm)微量含む。
- 1b. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ロームブロック(Φ 5 mm)・ローム粒・YPk微量含む。
- 2 . 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ローム粒やや多量含む。YPk(Φ 5 mm)微量含む。
- 3 . 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ローム粒・YPk(Φ 5 mm)微量含む。

第347図 1・2区SD04実測図(1/80)

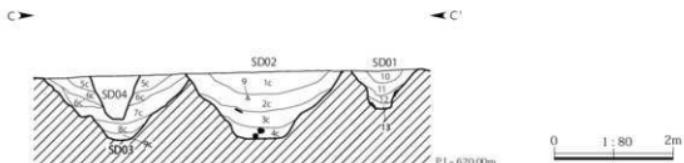
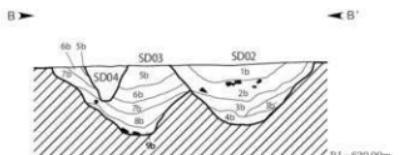
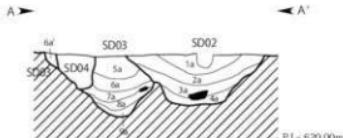
1・2区SD05



第348図 1・2区SD05実測図(1/80)



第349図 3区SD01～03実測図①(1/80)



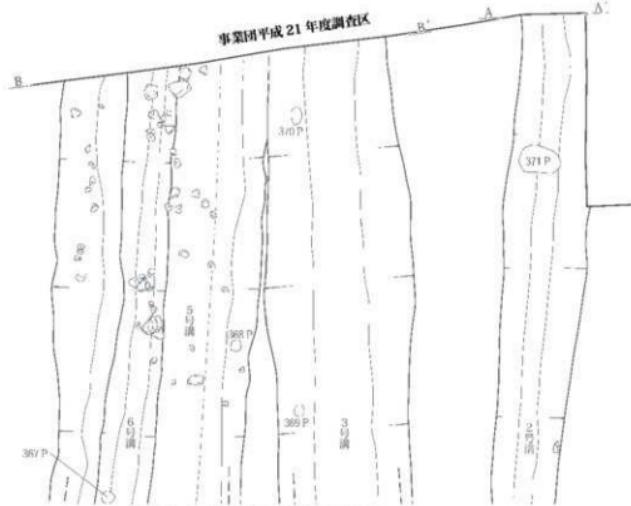
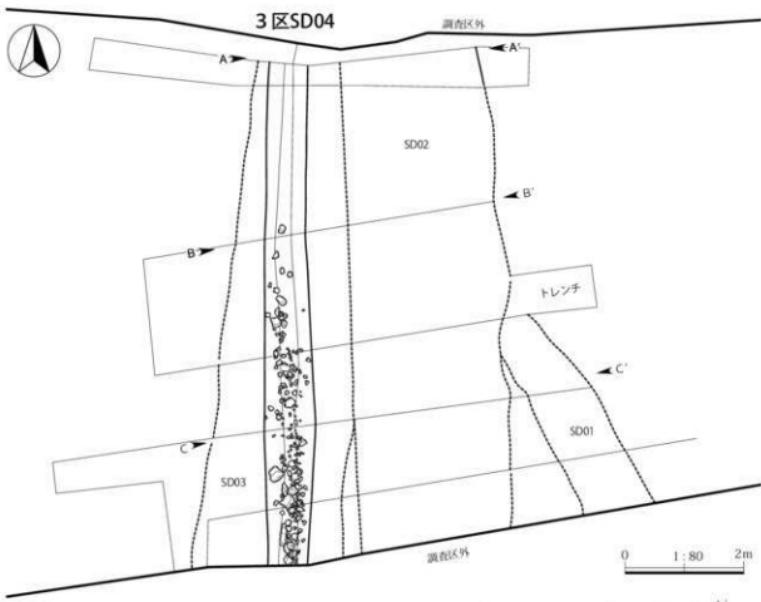
3区SD02～03土層説明

AA'BB'C'C'

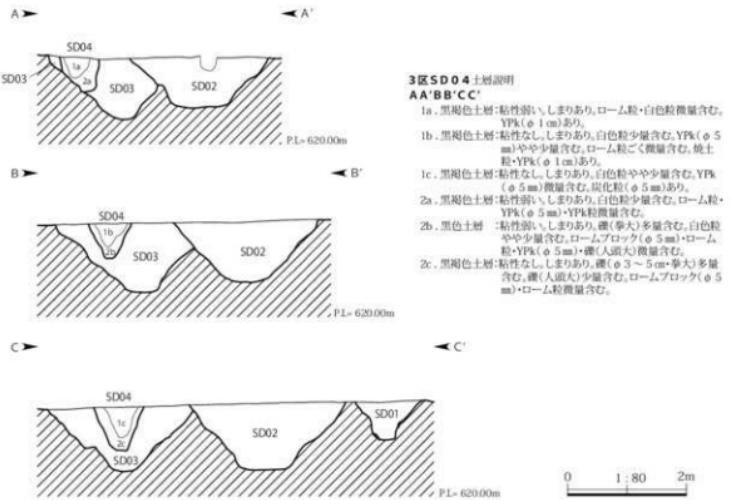
- 1a. 黒褐色土層: 粘性なし。しまりあり。白色粒少量含む。ローム粒・埴土粒・YPk(φ 5 mm)・礫(φ 3 cm)微量含む。
- 1b. 黒褐色土層: 粘性なし。しまりあり。礫(φ 1~5 cm)・YPk(φ 5 mm)微量含む。
- 1c. 黒褐色土層: 粘性なし。しまりあり。ローム粒少量含む。YPk(φ 1~5 cm)・礫(φ 5 mm)微量含む。ロームブロック(φ 5 mm)あり。
- 2a. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。YPk粒微量含む。白色粒やや少量含む。ローム粒・礫(φ 3 cm)微量含む。
- 2b. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。礫(掌大)少量含む。白色粒少量含む。YPk(φ 1 cm)・礫(φ 3 cm)微量含む。
- 2c. 黒色土層: 粘性弱い。しまりあり。YPk(φ 1 cm)・礫(φ 3 cm)微量含む。白色粒YPk(φ 1 cm)微量含む。ローム粒ごく微量含む。
- 3a. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。白色粒少量含む。YPk(φ 5 mm)やや少量含む。YPk(φ 1 cm)・礫(φ 3 cm)微量含む。ローム粒ごく微量含む。
- 3b. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。白色粒YPk(φ 5 mm)微量含む。YPk(φ 1 cm)微量含む。
- 3c. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。白色粒YPk(φ 5 mm)微量含む。YPk(φ 1 cm)微量含む。
- 3d. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。白色粒YPk(φ 5 mm)微量含む。YPk(φ 1 cm)微量含む。
- 3e. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。白色粒YPk(φ 5 mm)微量含む。白色粒ごく微量含む。埴土粒・礫(掌大)あり。
- 4a. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。白色粒ごく微量含む。埴土粒・礫(φ 50mm)あり。
- 4b. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。YPk粒微量含む。白色粒・礫(φ 5 mm)微量含む。ロームブロック(φ 1 cm)・礫(φ 50mm)あり。
- 4c. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。礫(掌大)少量含む。ローム粒微量含む。白色粒ごく微量含む。YPk(φ 5 mm)・礫(人頭大)あり。(以上SD02)
- 5a. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。白色粒YPk(φ 5 mm)微量含む。YPk(φ 5 mm)あり。
- 5b. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。白色粒YPk(φ 5 mm)微量含む。ローム粒・YPk(φ 1 cm)・暗褐色砂微量含む。埴土粒あり。
- 5c. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。白色粒YPk(φ 1 cm塊状)・暗褐色砂微量含む。YPk(φ 1 cm)あり。
- 6a. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。白色粒YPk(φ 1 cm塊状)・暗褐色砂微量含む。
- 6b. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。白色粒YPk(φ 1 cm)・暗褐色砂微量含む。埴土粒あり。
- 6c. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。白色粒YPk(φ 1 cm)・暗褐色砂微量含む。白色粒YPk(φ 1 cm)・埴土粒・白色粒・礫(φ 3 cm)微量含む。
- 7a. 黑褐色土層: 粘性なし。しまりあり。暗褐色砂状斑状地に分布す。ローム粒・埴土粒・白色粒・礫(φ 3 cm)微量含む。YPk(φ 1 cm)あり。
- 7b. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。白色粒YPk(φ 1 cm)・暗褐色砂微量含む。埴土粒・礫(φ 1 cm)あり。
- 7c. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ロームブロック(φ 1 cm)・白色粒YPk(φ 5 mm)・礫(φ 5 mm)・礫(φ 3 cm)微量含む。
- 8a. 黑色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒・白色粒やや少量含む。白色粒YPk(φ 5 mm)・暗褐色砂微量含む。ロームブロック(φ 5 mm)・YPk(φ 1 cm)・礫(φ 5 cm)あり。
- 8b. 黑色土層: 粘性なし。しまりあり。ローム粒・白色粒やや少量含む。白色粒YPk(φ 5 mm)・暗褐色砂微量含む。ロームブロック(φ 5 mm)・YPk(φ 1 cm)・礫(φ 5 cm)あり。
- 8c. 黑色土層: 粘性やあり。しまりややあり。ローム粒・埴土粒・白色粒・YPk(φ 5 mm)微量含む。YPk(φ 3 cm)あり。
- 9a. 黑色土層: 粘性弱い。しまりややあり。礫(掌大)粒に少量含む。ローム粒やや少量含む。ロームブロック(φ 5 mm)・YPk(φ 5 mm)あり。
- 9b. 黑色土層: 粘性なし。しまりやや多量含む。ローム粒や少量含む。白色粒・YPk粒・礫(人頭大)微量含む。
- 9c. 黑色土層: 粘性やあり。しまりやや多量含み底面に並ぶ。ローム粒・白色粒微量含む。(以上SD03)

第350図 3区SD01～03実測図②(1/80)

横長さは直線距離で20.5 m確認され、幅は1.10 m～1.75 m、確認面からの深さ62cmを測る。
主軸方位 N-80°W **遺物** 中近世陶磁器片が出土し、そのうち瀬戸美濃焼2点を図示した。
備考 遺構確認時は溝跡のような細長いプランが確認されたため、溝跡として掘り下げを行なったが、南壁は確認されなかつた。現代の地図にある地境線とほぼ重なることから、土地を区分した段切りの痕跡と考えられる。帰属時期は、出土遺物から近世以降と考えられる。



第351図 3区SD04実測図①(1/80)



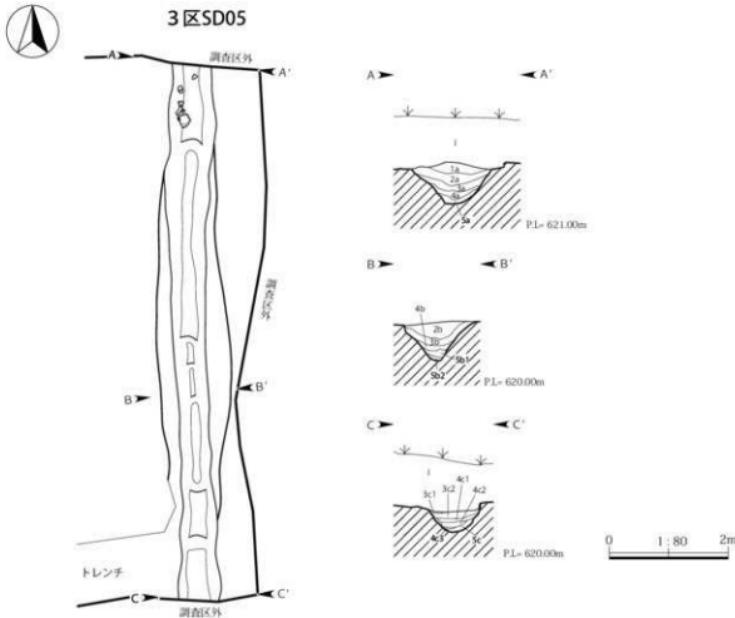
第352図 3区SD04実測図②(1/80)

3区SD01 (第349・350・355図／PL 129)

位置 4—5区A—8～B—9グリッド（3区調査区中央部）。**重複関係** SD02と重複し、本遺構の方が古い。また、SD03・04よりも古いと考えられる。**遺存状態** 北側はSD02によって壊され、南側は調査区外であるが、概ね良好である。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示すと思われる。**規模** 長さは直線距離で4.87m確認され、幅は82cm～108cm、確認面からの深さ66cm～76cmを測る。**主軸方位** N—37°—W。**遺物** なし。**備考** 3区調査区の南側は事業団によって平成21年度に発掘調査が実施されており、本遺構はその時に確認された第7区画2号溝と同一の溝跡である。北西—南東方向に走る溝跡で、断面形は薬研状を呈する。北側はSD02・03によって壊されているため不明である。南側の事業団平成21年度調査区では北—南方向に走っていることから、両調査区の境で屈曲するようである。本遺構の北側については、本遺構の底面と、SD02・03に壊されていない地山の標高がほぼ同じであったことから、3区調査区内で本遺構の続きを確認することはできなかった。このまま北西方向に延びて行き3区調査区よりも北側で確認される可能性、SD02・03の幅内で北に屈曲し延びて行った可能性、SD02・03の幅内で収束する可能性が考えられる。本遺構は、幅8mの範囲内で確認された4条の溝跡の内、東側に位置し、一番古いものである。時期を特定できる遺物が出土していないため帰属時期は不明であるが、溝跡の形態から林城周辺の中世～近世の区画溝である可能性が高いと考えられる。

3区SD02 (第349・350・355図／PL 129・130・133)

位置 4—5区A—8・9グリッド（3区調査区中央部）。**重複関係** SD01・03と重複し、本遺構の方が新しい。SD04とは重複していないが本遺構の方が古いと考えられる。**遺存状態** 南北両側は調査区外であるが、概ね良好である。**覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示すと思われる。**規模** 長さは直線距離で8.25m確認され、幅は2.32m～2.74m、確認面からの深さ87cm～108cmを測る。**主軸方位** N—4°—W。**遺物** 繩文土器片、土器片、鉄製品、五輪塔空風輪が出土し、



3区SD05地図説明

AA'B'C'

1. 黒褐色土層: 粘性なし。しまりややあり。白色粉(φ 5mm)少量含む。白色砂微量含む。YPk(φ 1mm)あり。
 1a. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。白色粉・YPk微量含む。
 2a. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。白色粉・YPk微量含む。YPk(φ 1mm)あり。
 2b. 黒褐色砂質土層: 粘性なし。しまりややあり。焼土粒微量含む。ローム粒ごく微量含む。YPk(φ 5mm)あり。
 3a. 黒褐色土層(やや砂質): 粘性なし。しまりややあり。白色粉・YPk微量含む。ローム粒ごく微量含む。
 3b. 黒色土層(やや砂質): 粘性なし。しまりあり。ローム粒・白色粉微量含む。
 3c1. 黑色土層: 粘性弱い。しまり弱い。燒土粒・YPk微量含む。
 3c2. 黑色土層: 粘性弱い。しまり弱い。燒土粒微量含む。ロームブロック(φ 1cm)・白色粉微量含む。YPk(φ 1mm)あり。
 4a. 黑色土層: 粘性弱い。しまりあり。黒褐色砂粒微量含む。ロームブロック(φ 5cm)・白色粉・YPk微量含む。
 4b. 黑色砂質土層: 粘性弱い。しまりあり。ロームブロック(φ 1cm)・ローム粒微量含む。白色粉ごく微量含む。
 4c1. 黑褐色砂質土層: 粘性なし。しまりややあり。ローム粒・白色粉微量含む。ロームブロック(φ 1cm)あり。
 4c2. 黑褐色砂質土層: 粘性なし。しまりややあり。ローム粒微量含む。
 4c3. 褐灰色土層: 粘性なし。しまりややあり。ローム粒・礫(拳大)少量含む。ロームブロック(φ 5mm)・白色粉・YPk・黒褐色砂粒微量含む。
 5a. 黑色土層: 粘性やや弱い。しまりややあり。ローム粒・礫(拳大)少量含む。ロームブロック(φ 5mm)・白色粉・YPk微量含む。
 5b1. 黑色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。ロームブロック(φ 5mm)・YPk・黒褐色砂粒微量含む。
 5b2. 黑色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒多量含む。ロームブロック(φ 5mm)微量含む。YPk(φ 5mm)あり。
 5c. 黑色土層: 粘性弱い。しまり弱い。

第353図 3区SD05実測図(1/80)

縄文土器1点、五輪塔空風輪と棒状鉄製品を図示し得た。縄文土器は遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。**備考** 3区調査区の南側は事業団によって平成21年度に発掘調査が実施されており、本遺構はその時に確認された第7区画3号溝と同一の溝跡である。北—南方向に走る溝跡で、断面形は逆台形を呈し、SD03よりも浅い。南側の事業団平成21年度調査区分を合わせると、長さは直線距離で27.8m確認された。本遺構は、幅8mの範囲内で確認された4条の溝跡の内、真中に位置するもので、2番目に新しいと考えられる。SD03とは規模が似ていることから同一目的のものを造り替えた可能性が考えられる。底面の幅が広く、重なる部分の多い北側では本遺構の方が古いSD03よりも浅いことから、本遺構を掘って生じた土でSD03が埋められた可能性も考えられる。出土遺物が少ないため時期を特定することは困難である。

るが、溝跡の規模・形態から林城周辺の中世～近世の区画溝である可能性が高いと考えられる。

3 区 SD03 (第 349・350・355 図／PL 129・130・133)

位置 4—5 区 A—8 から 4—4 区 T—9～4—5 区 A—9 グリッド (3 区調査区中央部)。 **重複関係** SD02・04 と重複し、本遺構の方が古い。また、調査区北壁の土層断面から SD01 より新しいと考えられる。

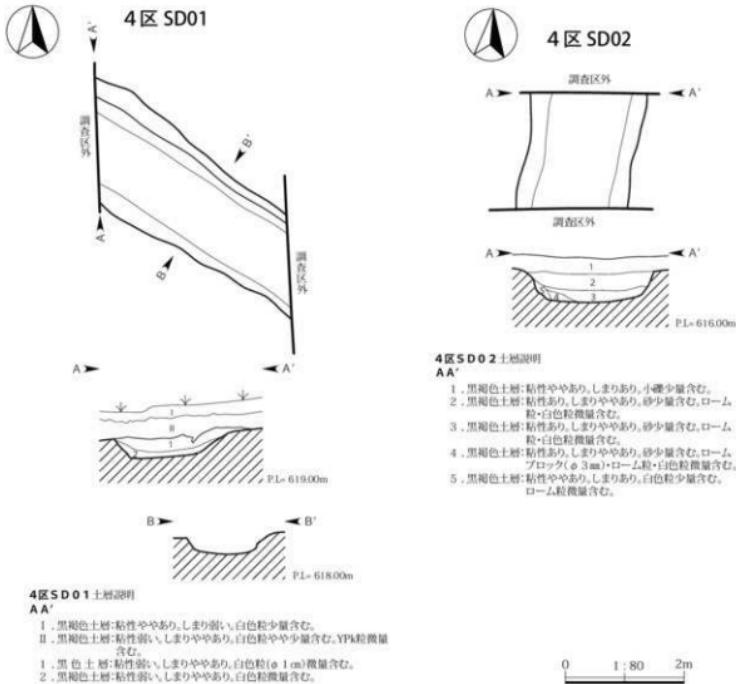
遺存状態 SD02 によって東側壁面の上部が破壊されている。南北両側は調査区外となるが、それ以外は概ね良好である。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示すと思われるが人為堆積である可能性も考えられる。 **規模** 長さは直線距離で 8.65m 確認され、幅は 1.36 m～2.84 m、確認面からの深さ 102cm～119cm を測る。 **主軸方位** N—6°—E **遺物** 繩文土器片、中世瓦質土器片、鉄製品が出土し、繩文土器 1 点、棒状鉄製品 1 点を図示した。繩文土器は遺構に伴うものではないと判断したため遺構出土遺物に掲載した。 **備考** 3 区調査区の南側は事業団によって平成 21 年度に発掘調査が実施されており、本遺構は形状・規模からその時に確認された第 7 区画 5・6 号溝と同一の溝跡と考えられる。わずかに東に振れるものは北—南方向に走る溝跡で、断面形は底面の幅が狭く逆三角形形状を呈し、SD02 よりも深い。南側の事業団平成 21 年度調査区分を合わせると、長さは直線距離で 27.1 m 確認された。本遺構は、幅 8 m の範囲内で確認された 4 条の溝跡の内、西側に位置し、2番目に古いものである。SD02 とは規模が似ていることから同一目的のものを造り替えた可能性が考えられる。本遺構よりも新しい SD02 を掘り、その上で本遺構が埋められた可能性が考えられる。出土遺物が少ないと時期を特定することは困難であるが、溝跡の規模・形態から林城周辺の中世～近世の区画溝である可能性が高いと考えられる。

3 区 SD04 (第 351・352 図／PL 130)

位置 4—5 区 A—8 から A—9 グリッド (3 区調査区中央部)。 **重複関係** SD03 と重複し、本遺構の方が新しい。SD01・02 とは重複していないが、本遺構の方が新しいと考えられる。 **遺存状態** 南北両側が調査区外であるが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、一部下層に黒色土が堆積する。堆積状況は自然堆積を示すと思われる。 **規模** 長さは直線距離で 8.47 m 確認され、幅は 63cm～84cm、確認面からの深さ 58cm～72cm を測る。 **主軸方位** N—0° **遺物** 繩文土器片が出土したが、図示し得なかった。また、遺構に伴うものではないと判断した。底面付近から少量の人頭大碟と多量の拳大・直径 3～5 cm 大の碟が出土した。 **備考** 3 区調査区の南側は事業団によって平成 21 年度に発掘調査が実施されているが、本遺構はその時に確認されていない。北—南方向に走る溝跡で、断面形は V 字状を呈する。SD03 の中に収まっており、南側は SD03 のほぼ中央・北側では SD03 の西壁際で確認され、3 区調査区よりも北側では SD03 西壁を壊しているものと想定される。底面付近から出土した碟は埋没過程で流れ込んだものと考えられる。本遺構は、幅 8 m の範囲内で確認された 4 条の溝跡の内、SD03 と重なって西側に位置するものである。SD03 の覆土を掘り込んで造られていること、SD02 を掘って SD03 が埋められた可能性が考えられることから、SD02 と本遺構が同時に掘られていた可能性は低く、本遺構が一番新しい溝跡と考えられる。時期を特定できる遺物が出土していないため帰属時期は不明であるが、溝跡の形態・遺構の切り合い関係から近世以降の区画溝である可能性が高いと考えられる。

3 区 SD05 (第 353 図／PL 130)

位置 4—5 区 G—7～G—9 グリッド (3 区調査区東端)。 **重複関係** SK78 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 南北両側は調査区外であるが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土、黒色土が基調で、南側の下層に褐灰色砂が堆積している。堆積状況は自然堆積を示すと思われる。 **規模** 長さは直線距離で 9.09m 確認され、幅は 65cm～123cm、確認面からの深さ 47cm～59cm を測る。 **主軸方位** N—1°—E **遺物** 繩文土器片が出土した。1 点を図示したが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構出土遺物に掲載した。 **備考** 北—南方向に走る溝跡で、断面形は底面の幅が狭く逆三角形形状を呈する。近現代の土地



第354図 4区SD01・02実測図(1/80)

改変を受けたため上部が削平されており、本来の溝幅はもう少し大きかったと推測される。本遺構は、3区調査区東端部で確認された北—南方向に走る溝跡である。3区調査区中央部のSD01～04が密集する場所とは、約30m離れている。時期を特定し得る遺物がないため帰属時期の特定は困難であるが、SD02・03と比較的規模が近いことから関連する溝跡の可能性があり、林城周辺の中世～近世の区画溝の1つと考えられる。

4区 SD01 (第354図/P L 130)

位置 4—5区M・N—12・13グリッド(4区南北調査区北部)。
重複関係 なし。
遺存状態 東西両側は調査区外にあるが、概ね良好である。
覆土 暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。
規模 長さは直線距離で3.85m確認され、幅は1.40m～1.78m、確認面からの深さ36cm～46cmを測る。
主軸方位 N—57°—W
遺物 土器片が出土したが、図示し得なかった。
備考 4区調査区の北側、現町道部分は事業団によって平成21年に発掘調査が実施されており、本遺構はその時に確認された53区2号溝と同一の溝跡と推定される。北西—南東方向に走る溝跡で、断面形は扁平な逆台形を呈する。事業団平成21年度調査区分を合わせると、直線距離で27.9m確認された。4区東西調査区1の本遺構の南東方向延長線上にあたる場所からは溝跡が確認されていないが、そこから約18m西側で北—南方向に走る溝跡(4区SD02)が確認された。以上のことから、本遺構の東側は東へ屈曲し続いている、南へ屈曲しSD02とつながる、途中で収束している

といった可能性が考えられる。本遺構は、事業団調査区分を含めても確認されたものが一部であることから、遺構の性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の調査地点と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

4区 SD02 (第354図)

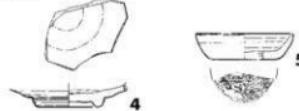
位置 4—5区R—19 グリッド (4区東西調査区1中央部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 南北両側は調査区外であるが、概ね良好である。 **覆土** 砂を少量含む黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **規模** 長さは直線距離で1.99m確認され、幅は1.74m～1.88m、確認面からの深さ27cm～31cmを測る。 **主軸**

方位 N—4°—E **遺物** なし。 **備考** 4区調査区の南側は事業団によって平成19年度に発掘調査が実施されている。その時に確認された53区1号溝は北端部が調査区内で収まるが、本遺構はその延長線上にあることから、同一の遺構の可能性が考えられる。北—南方向に走る溝跡で、断面形は扁平な逆台形を呈する。SD01と平面・断面形態が似ていることから、SD01とも同一の溝跡の可能性が考えられるが、本遺構は、ごく一部が確認された溝跡であるため性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の調査地点と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

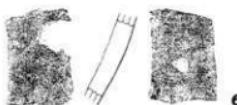
1・2区SD02



1・2区SD03



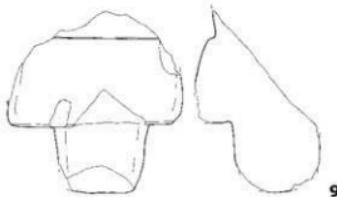
1・2区SD04



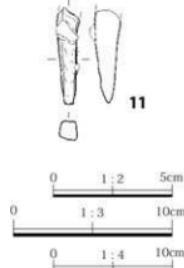
1・2区SD05



3区SD02



3区SD03



第355図 中世～近世溝跡出土遺物実測図(1/2・1/3・1/4)

(6) ピット (第356・357図／PL 130・131・133・134)

今回の発掘調査では、遺跡の性格上1・2区調査区、3区調査区1面、4区調査区で確認されたピットは中世～近世にかけてのものが多いと判断し、すべてここで取り扱うこととした。1・2区で434基、3区1面目で136基、4区で16基のピットが確認された。出土遺物のうち、中世～近世のもので特徴的なものを図示し得た。1・2区P 29・96からは円形ないし方形に煤が付着する扁平な石が出土した。煤化した柱痕のある礎石と考えられる。この他に11点出土したほか事業団調査区でも同様の遺物が確認されている。1・2区P 50からは硯、P 237からは白石、P 238からは砥石と棒状鉄製品、P 265からは碁石といった石製品・鉄製品が出土した。1・2区P 104からは内耳錐、1・2区P 321、3区P 132からは瀬戸美濃焼が出土し、P 321出土遺物は漆緞ぎが行なわれていた。全てのピットの平面形や規模などの諸属性は第48～50表に記載した。

第48表 林中原1遺跡X1・2区調査区ピット観察表

遺構名	位置	平面形			備考	遺構名	位置	平面形			備考		
		規模(cm) 長軸長	短軸長	深さ				規模(cm) 長軸長	短軸長	深さ			
P01	4-14区N-12	楕円形	48	30	21	C	P49	4-15区C-D-9	楕円形	32	27	B	
P02	4-14区N-12	楕円形	31	30	8	B	P50	4-15区C-10	楕円形	28	23	B	
P03	4-14区O-12	楕円形	41	34	17	B	P51	4-15区C-11	楕円形	37	33	B	
P04	4-14区P-12	円形	40	18	C	P52	4-15区C-11	楕円形	35	33	B		
P05	4-14区N-13	楕円形	31	27	6	B	P53	4-15区C-11	楕円形	42	35	B	
P06	4-14区N-13	楕円形	27	22	11	B	P54	4-15区C-11	楕円形	33	28	B	
P07	4-14区N-13	円形	22	20	7	B	P55	4-15区C-12	楕円形	35	26	B	
P08	4-14区N-13	楕円形	31	<15>	8	B	P56	4-15区D-14	楕円形	30	25	B	
P09	4-14区N-12	楕円形	25	23	7	B	P57						SB05-P4
P10	4-14区N-12	楕円形	28	26	15	B	P58	4-15区D-14	円形	30	28	B	
P11	4-14区N-12	円形	25	23	5	B	P59	4-15区D-13	楕円形	35	29	B	
P12	4-15区A-12	円形	27	25	27	B	P60	4-15区D-13	楕円形	25	21	B	
P13	4-15区A-10	円形	36	34	-	B	P61	4-15区D-13	円形	31	28	C	
P14	4-15区B-11	楕円形	33	28	43	B	P62	4-15区D-13	楕円形	31	30	C	
P15	4-15区A-B-11	楕円形	40	32	18	B	P63	4-15区C-13	楕円形	25	21	B	
P16	4-15区B-11	円形	30	27	32	B	P64	4-15区C-12	円形	25	23	B	
P17	4-15区B-11	楕円形	25	21	13	B	P65	4-15区D-12	楕円形	35	28	B	
P18	4-15区B-12	円形	27	27	20	B	P66	4-15区D-12	円形	50	47	B	
P19	4-15区B-12	円形	25	23	28	B	P67	4-15区D-12	楕円形	28	24	B	
P20	4-15区C-14	円形	26	26	15	B	P68	4-15区D-11	楕円形	25	21	B	
P21	4-15区B-13	円形	22	21	11	B	P69	4-15区D-11	円形	25	21	B	
P22	4-15区B-C-13	円形	25	22	21	B	P70	4-15区D-11	円形	29	29	B	
P23	4-15区C-13	楕円形	30	23	24	B	P71	4-15区D-11	楕円形	31	29	B	
P24	4-15区B-C-12	円形	27	24	26	B	P72	4-15区D-11	円形	40	37	B	
P25	4-15区C-12	楕円形	31	30	53	B	P73	4-15区C-D-10	楕円形	33	30	B	
P26	4-15区C-12	楕円形	23	20	22	C	P74	4-15区D-10	楕円形	32	30	B	
P27	4-15区C-12	円形	21	20	33	B	P75	4-15区D-10	円形	30	30	B	
P28	4-15区C-12	円形	31	28	58	B	P76	4-15区C-D-10	楕円形	31	28	B	
P29	4-15区C-12	楕円形	25	20	17	B	P77	4-15区D-10	楕円形	26	24	B	
P30	4-15区C-11-12	楕円形	39	33	20	B	P78	4-15区D-10	楕円形	49	37	B	
P31	4-15区C-11	楕円形	25	19	15	B	P79	4-15区D-11	楕円形	36	30	B	
P32	4-15区C-11	円形	23	22	31	B	P80	4-15区D-11	楕円形	55	42	B	
P33	4-15区C-11	円形	18	18	13	B	P81	4-15区D-11	円形	27	26	B	
P34	4-15区B-10-11	楕円形	28	23	29	B	P82	4-15区D-11	円形	35	34	B	
P35	4-15区B-10	円形	22	22	12	B	P83	4-15区D-11	円形	35	33	B	
P36	4-15区B-11	楕円形	27	24	11	C	P84	4-15区D-12	楕円形	38	45	B	
P37	4-15区B-10	円形	40	37	10	B	P85	4-15区D-12	楕円形	39	34	B	
P38	4-15区B-10	円形	21	21	16	B	P86						SB05-P3
P39	4-15区B-10	円形	25	22	22	B	P87	4-15区E-13	円形	35	34	C	
P40	4-15区B-9	楕円形	22	20	13	B	P88						SB05-P2
P41	4-15区B-9	円形	20	20	13	B	P89	4-15区E-13	円形	33	32	B	
P42	4-15区B-10	楕円形	22	19	40	B	P90	4-15区E-13	円形	26	25	B	
P43	4-15区C-10	不整形	30	<27>	37	B	P91						SB05-P1
P44	4-15区C-11	円形	38	37	33	B	P92	4-15区E-13	楕円形	51	36	B	
P45	4-15区C-9	円形	27	24	25	B	P93	4-15区E-13	楕円形	33	27	B	
P46	4-15区C-9	円形	23	23	14	B	P94	4-15区E-12	楕円形	44	35	B	
P47	4-15区C-9	円形	25	22	28	B	P95	4-15区E-12	楕円形	40	31	B	
P48	4-15区C-9	円形	33	32	62	B	P96	4-15区E-12	楕円形	45	35	B	

道構名	位置	平面形	規模 (cm)			覆土	備考
			長軸長	短軸長	深さ		
P97	4-15 区 E-11	円形	24	23	23	B	
P98	4-15 区 E-12	円形	31	30	27	B	
P99	4-15 区 E-11	楕円形	42	35	45	B	
P100	4-15 区 E-11	楕円形	47	42	111	B	
P101	4-15 区 E-11	楕円形	25	20	37	B	
P102	4-15 区 E-11	楕円形	47	38	91	B	
P103	4-15 区 E-11	楕円形	28	25	62	B	
P104	4-15 区 D-E-11	楕円形	53	48	40	B	
P105	4-15 区 D-11	楕円形	40	30	66	B	
P106	4-15 区 D-9	円形	36	34	9	B	
P107	4-15 区 D-9	楕円形	25	20	13	B	
P108	4-15 区 D-9	楕円形	35	25	11	B	
P109	4-15 区 E-9	円形	36	33	18	B	
P110	4-15 区 E-9	円形	34	37	17	B	
P111	4-15 区 E-9	楕円形	23	17	7	B	
P112	4-15 区 E-9	楕円形	40	35	58	B	
P113	4-15 区 E-9	楕円形	26	22	53	B	
P114	4-15 区 E-9	楕円形	25	20	38	B	
P115	4-15 区 E-9	楕円形	23	20	13	B	
P116	4-15 区 E-9	円形	20	20	11	B	
P117	4-15 区 E-9	円形	19	17	8	B	
P118	4-15 区 E-9	楕円形	37	28	15	B	
P119	4-15 区 E-9	楕円形	46	35	20	B	
P120	4-15 区 E-9	円形	23	23	27	B	
P121	4-15 区 E-10	楕円形	21	20	23	B	
P122	4-15 区 E-9	楕円形	35	28	10	B	
P123	4-15 区 E-10	楕円形	28	20	24	B	
P124	4-15 区 F-9	楕円形	32	28	72	B	
P125	4-15 区 F-9	円形	32	32	57	B	
P126	4-15 区 F-9	楕円形	23	20	30	B	
P127	4-15 区 F-9	円形	23	20	11	A	
P128	4-15 区 F-9	楕円形	20	18	12	B	
P129	4-15 区 F-9	楕円形	30	28	65	B	
P130	4-15 区 F-9	円形	20	20	10	B	
P131	4-15 区 E-11	円形	27	25	36	C	
P132	4-15 区 F-11	楕円形	21	16	27	B	
P133	4-15 区 E-11	楕円形	43	40	28	B	
P134	4-15 区 E-13	円形	29	25	16	B	
P135	4-15 区 E-12	楕円形	25	24	28	B	
P136	4-15 区 E-13	楕円形	47	38	46	C	
P137	4-15 区 E-13	楕円形	33	28	11	D	
P138	4-15 区 E-13	不整形	52	42	60	B	
P139	4-15 区 E-13	円形	21	20	23	C	
P140	4-15 区 E-13	円形	29	28	64	B	
P141	4-15 区 E-13	円形	45	45	58	B	
P142	4-15 区 E-14	楕円形	26	20	39	B	
P143	4-15 区 F-13	楕円形	39	29	39	C	
P144	4-15 区 F-13	楕円形	34	27	18	C	
P145	4-15 区 F-13	円形	37	37	20	C	
P146	4-15 区 D-11	楕円形	27	22	-	B	
P147	4-15 区 D-11	楕円形	43	35	73	B	
P148	4-15 区 E-F-9	円形	25	25	31	B	
P149	4-15 区 C-10	楕円形	26	<20*	44	B	
P150	4-15 区 D-11	楕円形	30	25	50	B	
P151	4-15 区 D-13	円形	31	28	43	B	
P152	4-15 区 D-13	円形	41	41	46	C	
P153	4-15 区 D-13	円形	27	26	40	C	
P154	4-15 区 D-13	円形	23	<20*	21	C	
P155	4-15 区 D-13	楕円形	27	29	39	C	
P156	4-15 区 D-10	円形	30	27	44	B	
P157	4-15 区 D-10	楕円形	33	28	41	B	
P158	4-15 区 D-10	楕円形	40	35	12	C	
P159	4-15 区 E-10	楕円形	38	32	17	B	
P160	4-15 区 E-10	円形	23	23	73	B	
P161	4-15 区 E-10	楕円形	25	21	49	C	
P162	4-15 区 E-10	円形	33	32	62	B	
P163	4-15 区 D-10	円形	26	28	31	B	
道構名	位置	平面形	規模 (cm)			覆土	備考
P164	4-15 区 E-10	楕円形	25	21	54	B	
P165	4-15 区 E-F-10	楕円形	33	27	12	C	
P166	4-15 区 E-11	楕円形	25	23	31	B	
P167	4-15 区 F-13	楕円形	46	38	46	B	
P168	4-15 区 F-9	楕円形	25	18	15	B	
P169	4-15 区 F-8	円形	25	23	13	B	
P170	4-15 区 F-9	楕円形	30	25	29	B	
P171	4-15 区 F-9	楕円形	32	29	66	B	
P172	4-15 区 F-9	楕円形	33	27	60	B	
P173	4-15 区 F-9	楕円形	36	30	35	B	
P174	4-15 区 F-10	楕円形	32	32	44	B	
P175	4-15 区 F-10	楕円形	42	33	11	B	
P176	4-15 区 F-10	円形	31	29	32	B	
P177	4-15 区 F-10	楕円形	35	32	24	B	
P178	4-15 区 F-12	楕円形	40	34	50	B	
P179	4-15 区 F-12	楕円形	31	28	41	B	
P180	4-15 区 F-13	円形	33	30	29	B	
P181	4-15 区 F-13	楕円形	58	43	24	D	
P182	4-15 区 F-13	楕円形	30	25	16	B	
P183	4-15 区 F-14	楕円形	35	31	36	B	
P184	4-15 区 F-14	楕円形	36	31	36	B	
P185	4-15 区 F-14	円形	32	30	36	B	
P186	4-15 区 F-14	楕円形	41	32	36	B	
P187	4-15 区 G-13	円形	28	28	24	B	
P188	4-15 区 G-13	楕円形	38	33	17	C	
P189	4-15 区 G-12+13	円形	26	26	32	B	
P190	4-15 区 F-12	楕円形	34	30	36	B	
P191	4-15 区 F-12	円形	25	25	25	B	
P192	4-15 区 F-12	円形	24	22	23	B	
P193	4-15 区 G-12	円形	24	25	19	B	
P194	4-15 区 G-11	円形	21	20	44	B	
P195	4-15 区 G-11	不整形	<20*	22	12	B	
P196	4-15 区 G-11	円形	22	22	13	C	
P197	4-15 区 G-11	楕円形	26	20	20	B	
P198	4-15 区 G-11	円形	22	20	19	B	
P199	4-15 区 F-11	楕円形	25	22	40	B	
P200	4-15 区 F-11	楕円形	33	<23*	39	B	
P201	4-15 区 H-11	楕円形	27	23	34	B	
P202	4-15 区 G-11	楕円形	27	22	30	B	
P203	4-15 区 H-10+11	円形	29	25	35	B	
P204	4-15 区 G-10+11	楕円形	57	27	18	C	
P205	4-15 区 G-10	円形	20	18	20	B	
P206	4-15 区 G-10	円形	21	20	30	B	
P207	4-15 区 F-10	楕円形	26	28	43	B	
P208	4-15 区 G-10	楕円形	26	23	32	B	
P209	4-15 区 G-10	円形	34	30	56	B	
P210	4-15 区 G-10	楕円形	27	23	28	B	
P211	4-15 区 G-10	楕円形	23	19	22	B	
P212	4-15 区 H-10	円形	22	21	12	C	
P213	4-15 区 G-H-10	楕円形	37	30	19	B	
P214	4-15 区 G-10	楕円形	33	28	18	B	
P215	4-15 区 G-H-10	円形	25	25	13	B	
P216	4-15 区 G-H-9	円形	25	23	19	B	
P217	4-15 区 G-9	楕円形	19	21	12	B	
P218	4-15 区 G-9	楕円形	25	23	29	B	
P219	4-15 区 G-9	楕円形	24	25	28	B	
P220	4-15 区 G-10	楕円形	20	30	25	B	
P221	4-15 区 G-9	楕円形	25	20	23	B	
P222	4-15 区 G-9	円形	27	25	38	B	
P223	4-15 区 G-9	楕円形	25	31	70	B	
P224	4-15 区 G-9	円形	26	26	14	B	
P225	4-15 区 G-9	円形	30	27	20	B	
P226	4-15 区 G-H-9	楕円形	35	25	34	B	
P227	4-15 区 F-9	楕円形	18	15	17	B	
P228	4-15 区 G-9	楕円形	17	15	10	C	
P229	4-15 区 G-8+9	楕円形	22	18	32	B	
P230	4-15 区 F-9	円形	33	33	52	B	

構造名	位置	平面形	規模 (cm)			覆土	備考
			長軸長	短軸長	深さ		
P231	4-15 区 F-9	不整形	<21>	25	59	B	
P232	4-15 区 F-9	円形	33	28	59	B	
P233	4-15 区 G+H-13	楕円形	47	43	21	D	
P234	4-15 区 G+H-9	円形	24	23	16	B	
P235	4-15 区 D-12+13	円形	43	46	38	B	
P236	4-15 区 G-12	円形	30	28	38	B	
P237	4-15 区 E-13	円形	31	30	54	B	
P238	4-15 区 C-11	楕円形	37	33	64	B	
P239	4-15 区 C-13	楕円形	37	30	47	C	
P240	4-15 区 E-12	円形	38	35	34	B	
P241	4-15 区 D-13	楕円形	42	37	52	C	
P242						S805-P5	
P243	4-15 区 D-13	楕円形	36	33	39	B	
P244	4-15 区 D-13	楕円形	26	24	34	B	
P245	4-15 区 D-12	円形	34	32	48	B	
P246	4-15 区 D-12	円形	32	30	49	B	
P247	4-15 区 D-11	円形	27	27	12	B	
P248	4-15 区 D-9	円形	30	28	17	B	
P249	4-15 区 D-10	楕円形	35	29	16	C	
P250						S805-P6	
P251	4-15 区 F-12	楕円形	29	25	46	B	
P252	4-15 区 E-13	楕円形	25	22	47	B	
P253	4-15 区 D-13	楕円形	40	26	62	B	
P254	4-15 区 D-12	円形	21	21	17	B	
P255	4-15 区 D-12	円形	26	26	33	B	
P256	4-15 区 E-11	円形	24	23	31	B	
P257	4-15 区 F-10	円形	35	32	64	B	
P258	4-15 区 G-10	円形	24	24	25	B	
P259	4-15 区 G+H-10	楕円形	35	28	12	B	
P260	4-15 区 G-9	円形	25	25	9	B	
P261	4-15 区 F-10	楕円形	37	33	12	B	
P262	4-15 区 G-9	楕円形	30	23	27	B	
P263	4-15 区 E-10	円形	30	30	23	B	
P264	4-15 区 E-10	楕円形	37	35	54	B	
P265	4-15 区 D-10	楕円形	40	34	75	B	
P266	4-15 区 D-10	円形	23	20	23	B	
P267	4-14 区 M-13	円形	58	55	39	C	
P268	4-14 区 M-13	楕円形	43	41	30	C	
P269	4-14 区 M-13	楕円形	34	25	31	C	
P270	4-15 区 F-10	円形	31	30	57	B	
P271	4-15 区 E-11	楕円形	36	30	80	B	
P272	4-15 区 Q-13	楕円形	25	20	17	B	
P273	4-15 区 P-13	楕円形	23	23	30	B	
P274	4-15 区 P-14	円形	25	27	9	B	
P275	4-15 区 O-13	楕円形	22	18	12	B	
P276	4-15 区 O-13	円形	27	27	19	C	
P277	4-15 区 O-13	不整形	34	28	8	B	
P278	4-15 区 Q-13	楕円形	30	23	38	B	
P279	4-15 区 Q-13	楕円形	25	19	33	B	
P280	4-15 区 N-13	不整形	24	18	52	B	
P281	4-15 区 Q-12	楕円形	32	23	20	A	
P282	4-15 区 Q-12	楕円形	26	21	21	A	
P283	4-15 区 Q-12	楕円形	38	35	32	A	
P284	4-15 区 Q-12	楕円形	31	27	41	A	
P285	4-15 区 Q-11+12	楕円形	28	25	23	A	
P286	4-15 区 Q-11	円形	30	30	21	A	
P287	4-15 区 Q-11	楕円形	48	37	36	A	
P288	4-15 区 Q-11	不整形	49	<25>	30	A	
P289	4-15 区 Q-11	楕円形	40	35	20	B	
P290	4-15 区 Q-11	楕円形	35	25	16	A	
P291	4-15 区 Q-12	楕円形	27	20	9	A	
P292	4-15 区 Q-12	楕円形	28	19	25	A	
P293	4-15 区 Q-12	楕円形	38	30	19	A	
P294	4-15 区 Q-12	円形	31	31	18	A	
P295	4-15 区 Q-12	円形	34	33	17	A	
P296	4-15 区 P-Q-12	楕円形	32	34	28	A	
P297	4-15 区 Q-12	楕円形	23	20	29	A	
構造名	位置	平面形	規模 (cm)			覆土	備考
			長軸長	短軸長	深さ		
P298	4-15 区 P-12	楕円形	27	32	29	A	
P299	4-15 区 Q-12	楕円形	42	33	21	A	
P300	4-15 区 P-11	不整形	35	31	12	A	
P301	4-15 区 Q-11	楕円形	43	36	23	A	
P302	4-15 区 P-11	楕円形	39	25	33	A	
P303	4-15 区 P-10	円形	28	27	31	A	
P304	4-15 区 P-10	楕円形	26	23	24	A	
P305	4-15 区 P-10	楕円形	24	23	24	A	
P306	4-15 区 P-10	楕円形	30	18	47	A	
P307	4-15 区 P-10	楕円形	27	23	24	A	
P308	4-15 区 P-10	楕円形	35	31	20	A	
P309	4-15 区 P-10	楕円形	36	32	67	A	
P310	4-15 区 P-10	楕円形	28	21	43	A	
P311	4-15 区 P-11	楕円形	28	24	18	A	
P312	4-15 区 P-11	楕円形	25	22	18	A	
P313	4-15 区 P-11	楕円形	27	22	42	A	
P314	4-15 区 P-11	楕円形	25	23	15	A	
P315	4-15 区 P-11	楕円形	28	25	24	A	
P316	4-15 区 P-11	円形	29	29	23	A	
P317	4-15 区 P-11	円形	27	25	28	A	
P318	4-15 区 P-11	円形	27	26	22	A	
P319	4-15 区 P-11	楕円形	28	24	24	A	
P320	4-15 区 P-11	円形	20	20	20	A	
P321	4-15 区 P-11+12	楕円形	27	22	41	A	
P322	4-15 区 P-12	楕円形	29	22	33	A	
P323	4-15 区 P-12	円形	25	25	31	A	
P324	4-15 区 P-12	円形	30	27	18	A	
P325	4-15 区 P-12	円形	26	24	28	A	
P326	4-15 区 Q-1+P-12	楕円形	30	25	10	A	
P327	4-15 区 Q-1+P-12	楕円形	23	22	25	A	
P328	4-15 区 P-12	楕円形	25	22	11	A	
P329	4-15 区 Q-12	円形	31	30	16	B	
P330	4-15 区 Q-12	楕円形	40	31	17	B	
P331	4-15 区 Q-12	円形	40	40	23	B	
P332	4-15 区 P-11	楕円形	35	31	38	A	
P333	4-15 区 P-11	円形	32	31	53	A	
P334	4-15 区 P-11	楕円形	37	28	25	A	
P335	4-15 区 Q-11	円形	34	27	32	A	
P336	4-15 区 Q-11	円形	38	37	40	A	
P337	4-15 区 Q-11	楕円形	50	43	37	A	
P338	4-15 区 Q-10	楕円形	36	23	36	A	
P339	4-15 区 Q-9+10	楕円形	34	30	34	A	
P340	4-15 区 Q-10	楕円形	43	25	30	A	
P341	4-15 区 Q-10	円形	25	20	34	A	
P342	4-15 区 N-8	楕円形	42	29	54	A	
P343	4-15 区 N-8	楕円形	35	25	32	A	
P344	4-15 区 O-10	楕円形	35	30	27	A	
P345	4-15 区 O-11	楕円形	33	29	32	A	
P346	4-15 区 Q-11+12	不整形	42	33	21	A	
P347	4-15 区 Q-12	楕円形	26	23	30	A	
P348	4-15 区 Q-12	楕円形	35	32	34	B	
P349	4-15 区 Q-12	楕円形	27	26	11	A	
P350	4-15 区 Q-12	不整形	<21>	25	34	B	
P351	4-15 区 N-O-12	円形	35	30	9	B	
P352	4-15 区 N-12	楕円形	25	23	20	A	
P353	4-15 区 N-12	楕円形	37	30	25	A	
P354	4-15 区 N-12	不整形	38	28	25	A	
P355	4-15 区 N-11	円形	27	26	18	A	
P356	4-15 区 N-11	楕円形	27	20	12	A	
P357	4-15 区 Q-11	楕円形	20	18	14	A	
P358	4-15 区 N-O-11	円形	31	24	13	A	
P359	4-15 区 O-11	楕円形	22	20	17	A	
P360	4-15 区 Q-11	楕円形	29	21	42	A	
P361	4-15 区 N-11	不整形	30	28	28	A	
P362	4-15 区 N-10	楕円形	27	22	33	A	
P363	4-15 区 Q-13	不整形	47	30	60	B	
P364	4-15 区 N-11	円形	20	18	22	A	

遺構名	位置	平面形	規模(cm)			覆土	備考
			長軸長	短軸長	深さ		
P365	4-15 区 N-11	楕円形	21	17	6	A	
P366	4-15 区 N-11	楕円形	30	25	33	A	
P367	4-15 区 M-11	楕円形	32	29	27	A	
P368	4-15 区 M-10・11	楕円形	35	23	19	A	
P369	4-15 区 N-11	楕円形	32	26	37	A	
P370	4-15 区 N-11	円形	23	22	12	A	
P371	4-15 区 N-11	楕円形	22	17	13	A	
P372	4-15 区 N-11	円形	21	20	12	A	
P373	4-15 区 M-10	円形	28	25	40	A	
P374	4-15 区 M-10	楕円形	30	20	18	A	
P375	4-15 区 M-10	不整形	32	32	23	A	
P376	4-15 区 M-10	楕円形	22	19	16	A	
P377	4-15 区 M-9・10	楕円形	35	25	23	A	
P378	4-15 区 N-9	楕円形	34	27	20	A	
P379	4-15 区 N-8	楕円形	32	26	38	A	
P380	4-15 区 N-8	楕円形	32	23	39	A	
P381	4-15 区 N-8	円形	36	35	26	A	
P382	4-15 区 M-7	楕円形	38	31	21	A	
P383	4-15 区 M-8	楕円形	31	27	28	A	
P384	4-15 区 L-10	楕円形	32	24	22	A	
P385	4-15 区 K-10	楕円形	21	17	12	A	
P386	4-15 区 N-12	楕円形	55	47	27	A	
P387	4-15 区 N-12	楕円形	43	34	19	B	
P388	4-15 区 N-8	楕円形	38	27	17	A	
P389	4-15 区 J-8	楕円形	43	34	18	A	
P390	4-15 区 J-8	円形	36	35	24	A	
P391	4-15 区 J-8	楕円形	30	23	27	A	
P392	4-15 区 J-10	楕円形	29	25	38	A	
P393	4-15 区 J-8・9	不整形	20	20	22	A	
P394	4-15 区 J-9	不整形	22	22	16	A	
P395	4-15 区 J-9	楕円形	19	18	13	A	
P396	4-15 区 J-9	楕円形	30	25	34	A	
P397	4-15 区 J-8・9	楕円形	40	33	21	A	
P398	4-15 区 I-10	不整形	28	23	64	B	
P399	4-15 区 J-10	楕円形	28	25	34	B	
P400	4-15 区 J-10	不整形	30	25	43	B	
P401	4-15 区 I-10	楕円形	29	27	53	A	
P402	4-15 区 I-10	楕円形	33	26	47	B	
P403	4-15 区 I-11	円形	22	21	43	B	

※ A：黒色土 B：黒褐色土 C：暗褐色土 D：褐色土 E：にい黄褐色土

第49表 林中原Ⅰ遺跡X1区調査区1面目ピット観察表

遺構名	位置	平面形	規模(cm)			覆土	備考
			長軸長	短軸長	深さ		
P01	4-4 区 P-7	楕円形	55	42	22	B	
P02	4-4 区 P-8	円形	31	27	11	B	
P03	4-4 区 P-8	楕円形	61	47	14	B	
P04	4-4 区 P-8	楕円形	39	34	15	B	
P05	4-4 区 P-8	円形	28	26	29	B	
P06	4-4 区 P-8	円形	39	38	52	B	
P07	4-4 区 P-8	円形	43	39	21	B	
P08	4-4 区 P-8	楕円形	53	42	15	B	
P09	4-4 区 Q-8	楕円形	37	29	18	B	
P10	4-4 区 P-7・Q-8	楕円形	41	29	9	B	
P11	4-4 区 Q-7・8	楕円形	36	30	8	B	
P12	4-4 区 Q-8	楕円形	45	37	16	B	
P13	4-4 区 Q-8	円形	30	25	8	B	
P14	4-4 区 Q-8	楕円形	44	30	12	B	
P15	4-4 区 Q-8	円形	23	<17>	3	B	
P16	4-4 区 Q-8	円形	26	26	24	B	
P17	4-4 区 Q-8	楕円形	42	29	17	B	
P18	4-4 区 Q-7・8	楕円形	33	27	12	B	
P19	4-4 区 Q-8	円形	33	33	22	B	
P20	4-4 区 Q-8	楕円形	51	43	9	B	
P21	4-4 区 Q-7	楕円形	35	24	53	B	
P22	4-4 区 Q-8	楕円形	54	43	15	B	
P23	4-4 区 Q-8	楕円形	40	32	21	B	
遺構名	位置	平面形	規模(cm)			覆土	備考
			長軸長	短軸長	深さ		
P404	4-15 区 I-10・11	楕円形	28	25	43	B	
P405	4-15 区 I-11	楕円形	34	30	50	B	
P406	4-15 区 I-11	楕円形	33	30	14	B	
P407	4-15 区 J-11	楕円形	28	15	10	B	
P408	4-15 区 J-11	楕円形	30	23	23	B	
P409	4-15 区 J-11	楕円形	26	16	44	B	
P410	4-15 区 J-11	楕円形	30	23	16	B	
P411	4-15 区 I-11	円形	27	25	13	B	
P412	4-15 区 I-11	楕円形	26	21	16	B	
P413	4-15 区 H-1-11	楕円形	25	23	17	B	
P414	4-15 区 I-12	楕円形	26	22	39	B	
P415	4-15 区 H-8	不整形	30	26	43	A	
P416	4-15 区 H-9	楕円形	35	25	17	A	
P417	4-15 区 H-10	楕円形	28	26	42	A	
P418	4-15 区 I-10	楕円形	32	25	51	B	
P419	4-15 区 H-10	楕円形	29	25	19	B	
P420	4-15 区 H-10	楕円形	22	19	41	B	
P421	4-15 区 I-10	不整形	20	<15>	11	B	
P422	4-15 区 I-10	楕円形	30	25	58	B	
P423	4-15 区 H-11	不整形	<15>	19	21	B	
P424	4-15 区 H-12	楕円形	27	24	24	B	
P425	4-15 区 H-11	不整形	31	24	26	C	
P426	4-15 区 H-12	楕円形	23	23	25	B	
P427	4-15 区 H-13	楕円形	31	35	14	B	
P428	4-15 区 H-13	楕円形	30	29	30	A	
P429	4-15 区 H-14	楕円形	37	30	14	A	
P430	4-15 区 I-14	不整形	30	32	32	A	
P431	4-15 区 H-11	楕円形	28	23	47	B	
P432	4-15 区 H-10	楕円形	33	30	71	B	
P433	4-15 区 P-11	楕円形	35	30	75	A SK4より旧欠番	
P434							
P435	4-15 区 I-10	不整形	<20>	23	59	A SK4より旧欠番	
P436	4-15 区 I-10	不整形	<15>	17	51	A SK4より旧欠番	
P437	4-15 区 I-9	不整形	30	27	18	A	
P438	4-15 区 I-10	楕円形	33	25	20	A	
P439	4-15 区 H-10	楕円形	25	20	9	B	
P440	4-15 区 H-11	楕円形	29	24	42	B	
P441	4-15 区 H-10	楕円形	28	31	32	B	

遺構名	位置	平面形	規模(cm)			覆土	備考
			長軸長	短軸長	深さ		
P47	4-4 区 Q-9	楕円形	32	27	16	B	
P48	4-4 区 Q-9	円形	37	35	10	B	
P49	4-4 区 Q-9	円形	32	29	11	B	
P50	4-4 区 Q-9	楕円形	43	32	12	B	
P51	4-4 区 Q-9	楕円形	32	25	10	B	
P52	4-4 区 Q-R-9	楕円形	53	36	13	B	
P53	4-4 区 Q-9+10	楕円形	39	31	9	B	
P54	4-4 区 Q-10	楕円形	56	43	15	B	
P55	4-4 区 Q-8	楕円形	42	33	23	B	
P56	4-4 区 Q-9	楕円形	45	33	13	B	
P57	4-4 区 R-8	円形	39	38	21	B	
P58	4-4 区 R-8	円形	38	38	8	B	
P59	4-4 区 R-9	楕円形	49	41	25	B	
P60	4-4 区 R-9	円形	38	34	9	B	
P61	4-4 区 R-9	円形	39	37	12	B	
P62	4-4 区 R-9	楕円形	52	41	11	B	
P63	4-4 区 R-9	円形	56	50	16	B	
P64	4-4 区 R-S-9	楕円形	52	37	19	B	
P65	4-4 区 R-9	円形	41	38	18	B	
P66	4-4 区 R-9	円形	48	45	14	A	
P67	4-4 区 R-9	楕円形	<32>	33	15	B	
P68	4-4 区 R-9	円形	27	25	10	B	
P69	4-4 区 S-9	楕円形	38	30	18	B	
P70	4-4 区 S-8+9	楕円形	31	23	21	B	
P71	4-4 区 S-9	円形	46	45	17	B	
P72	4-4 区 S-9	楕円形	41	29	11	B	
P73	4-4 区 S-9	円形	42	41	13	B	
P74	4-4 区 S-9	円形	44	39	23	B	
P75	4-4 区 T-8	楕円形	32	27	16	B	
P76	4-4 区 T-8	楕円形	45	36	18	B	
P77	4-4 区 T-9	楕円形	37	31	18	B	
P78	4-4 区 T-8	円形	23	23	25	B	
P79	4-4 区 T-9	楕円形	42	29	27	B	
P80	4-4 区 T-9	円形	27	24	13	B	
P81	4-4 区 T-9	円形	26	26	16	B	
P82	4-4 区 T-9	円形	31	27	13	B	
P83	4-5 区 S-8	楕円形	34	29	20	B	
P84	4-5 区 S-8	円形	61	60	14	B	
P85	4-5 区 S-8	円形	26	25	26	B	
P86	4-5 区 S-8	楕円形	26	17	8	B	
P87	4-5 区 S-8	楕円形	20	14	16	B	
P88	4-5 区 S-8	楕円形	22	20	13	B	
P89	4-5 区 S-8	楕円形	26	20	9	B	
P90	4-5 区 S-8	楕円形	23	20	9	B	
P91	4-5 区 S-8	楕円形	38	30	14	B	
P92	4-5 区 B-8	円形	32	30	11	B	
P93	4-5 区 B-8	楕円形	36	29	15	B	
P94	4-5 区 B-8	円形	33	30	9	B	
P95	4-5 区 B-8	楕円形	27	22	15	B	
P96	4-5 区 B-8	楕円形	31	26	13	B	
P97	4-5 区 B-8	円形	32	31	8	B	
P98	4-5 区 B-8	楕円形	34	30	8	B	
P99	4-5 区 B-8	楕円形	30	26	5	B	
P100	4-5 区 C-8	円形	53	49	25	B	
P101	4-5 区 C-8	円形	31	29	13	B	
P102	4-5 区 C-8	円形	32	30	13	B	
P103	4-5 区 C-8	楕円形	35	28	14	B	
P104	4-5 区 C-8	楕円形	28	23	16	B	
P105	4-5 区 B-8	円形	37	37	7	B	
P106	4-5 区 B-8	円形	29	28	11	B	
P107	4-5 区 C-8	楕円形	24	21	19	B	
P108	4-5 区 C-8	楕円形	30	20	16	B	
P109	4-5 区 C-7+8	楕円形	29	23	17	B	
P110	4-5 区 C-8	楕円形	41	28	9	B	
P111	4-5 区 C-8	楕円形	32	27	12	B	
P112	4-5 区 C-8	円形	28	23	18	B	
P113	4-5 区 C-8	円形	43	40	11	B	
P114	4-5 区 D-8	楕円形	56	42	20	B	
P115	4-5 区 D-8	円形	25	24	10	B	
P116	4-5 区 C-8	円形	37	35	21	B	
P117	4-5 区 C-8+9	円形	40	37	16	B	
P118	4-5 区 C-D-8	楕円形	33	23	22	B	
P119	4-5 区 D-8	円形	22	21	14	B	
P120	4-5 区 D-9	円形	35	32	25	B	
P121	4-5 区 C-9	楕円形	52	43	24	B	
P122	4-5 区 C-9	楕円形	68	57	92	B	
P123	4-5 区 C-9	円形	41	41	14	B	
P124	4-5 区 B-C-9	楕円形	49	42	14	B	
P125	4-5 区 C-9	楕円形	50	45	22	B	
P126	4-5 区 C-9	円形	38	35	29	B	
P127	4-5 区 C-9+10	楕円形	52	40	18	B	
P128	4-5 区 C-8	楕円形	43	34	11	B	
P129	4-4 区 T-8	円形	26	25	24	B	
P130	4-5 区 D-9	円形	28	26	29	B	
P131	4-5 区 D-9	円形	32	29	50	B	
P132	4-5 区 D-9	円形	46	44	43	B	
P133	4-5 区 D-9	楕円形	27	18	11	B	
P134	4-5 区 D-9	楕円形	29	21	41	B	
P135	4-5 区 E-9	円形	27	22	60	B	
P136	4-5 区 E-9	楕円形	25	21	34	B	

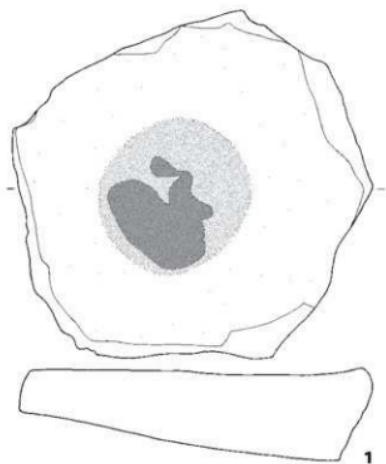
※ A：黒色土 B：黒褐色土 C：暗褐色土 D：褐色土 E：にい黄褐色土

第50表 林中原I遺跡 XI区調査区ピット観察表

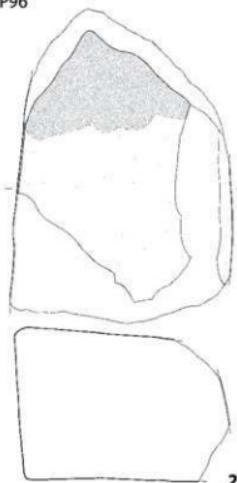
遺構名	位置	平面形	規模(cm)			覆土	備考
			長軸長	短軸長	深さ		
P01	4-6 区 G-17	円形	38	34	29	B	
P02	4-6 区 F-17+18	楕円形	25	22	29	B	
P03	4-6 区 F-17	円形	36	33	21	B	
P04	4-6 区 F-18	楕円形	46	30	14	B	
P05	4-5 区 M-11	楕円形	30	23	14	B	
P06	4-5 区 M-11+12	楕円形	58	37	17	B	
P07	4-5 区 M-12	楕円形	28	21	11	A	
P08	4-5 区 N-12	楕円形	22	16	25	A	
P09	4-5 区 N-13	円形	31	30	16	B	
P10	4-6 区 C-18	楕円形	31	26	26	B	
P11	4-6 区 C-18	楕円形	27	20	31	B	
P12	4-6 区 A-18	楕円形	47	33	42	B	
P13	4-6 区 A-18	楕円形	28	21	21	B	
P14	4-5 区 S-19	円形	42	39	31	B	
P15	4-5 区 R-S-19	円形	36	34	27	B	
P16	4-5 区 E-19	楕円形	31	24	20	B	

※ A：黒色土 B：黒褐色土 C：暗褐色土 D：褐色土 E：にい黄褐色土

1・2区P29



1・2区P96



日本考古学会
第356回

1・2区P50



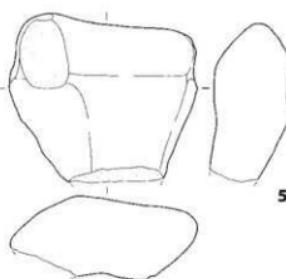
3

1・2区P104



4

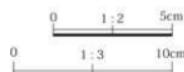
1・2区P238



5

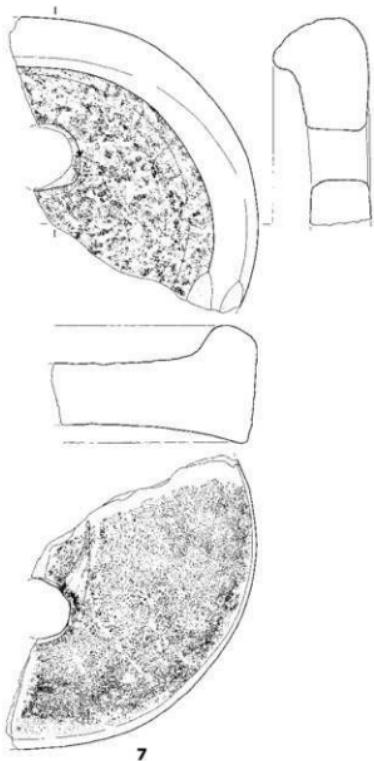


6

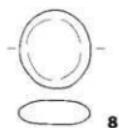


第356図 中世～近世ピット出土遺物実測図①(1/2・1/3)

1・2区P237



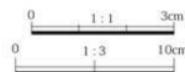
1・2区P265



1・2区P321



3区P132

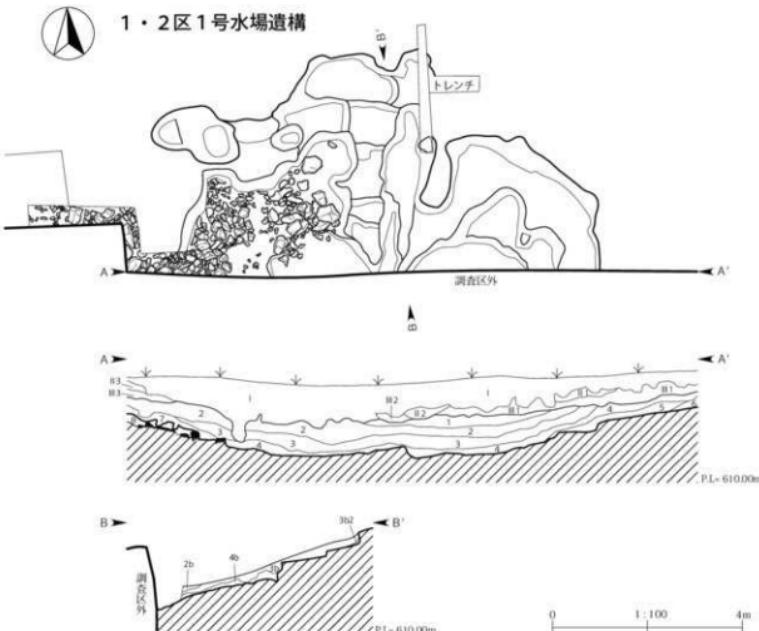


第357図 中世～近世ピット出土遺物実測図②(1/1・1/3)

(7) 水場遺構

1・2区1号水場遺構 (第358図／PL 131)

位置 4-52区K・L-13・14、J-M-14グリッド (1・2区調査区中央東部南壁際)。 **重複関係**なし。 **遺存状態** 南側は調査区外にあるが、概ね良好である。 **覆土** 黒色・黒褐色砂質シルトが基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は、入り組んでいるが大きく捉えると半円形状を呈する。南側が調査区外にあるため、全体の形は不明である。規模は東西8.9m、南北4.7m以上、確認面からの深さ81cmを測る。 **概要** 調査区南壁際に位置しており、北端部のみ確認された。覆土の掘り下げを行なっていったところ、水が浸み出すようになり遺構内に溜まるようになった。常に水が流れ出ている状態で、雨の後は水量が多くなったことから、王城山からの伏流水と考えられる。壁面は中央に向かって階段状に低くなっている。下方に移動しやすいようになっている。西半分は地山に伴う礫が検出され、石敷きのような状況になっている。一



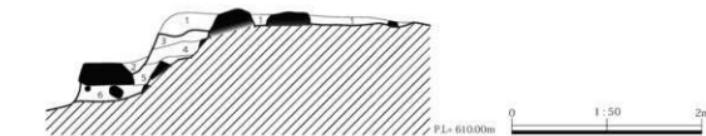
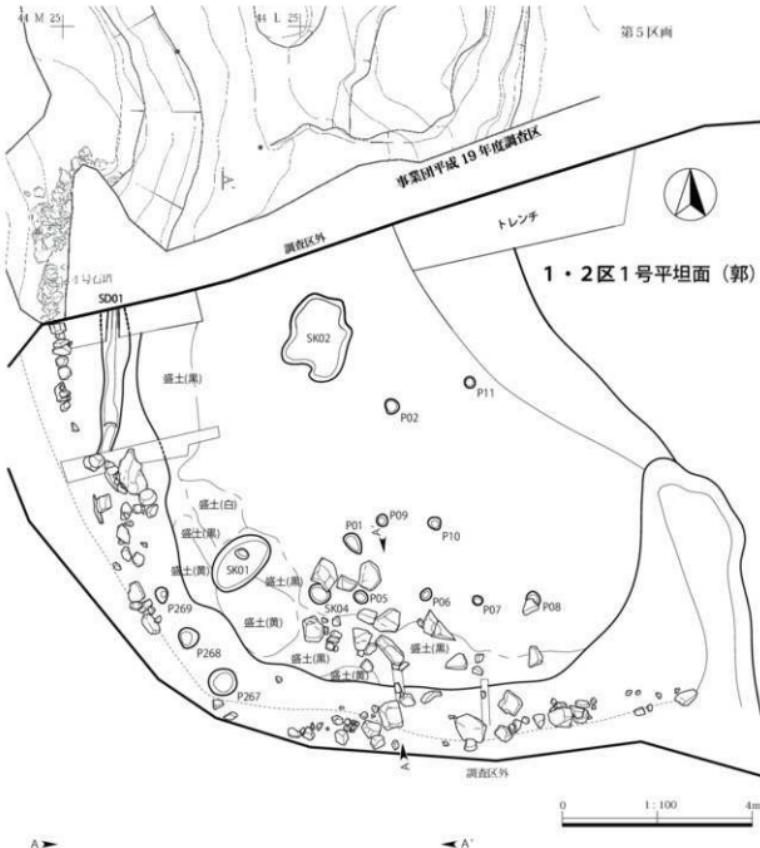
1・2区1号水場遺構土層説明

AA' B B'

1. 黒色土 層：粘性ないしより弱い、礫($\phi 1\text{cm}$)や少量含む。
- II1. 黒色土 層：粘性ないしよりややあり、礫($\phi 5\text{mm}$)・炭化粒($\phi 5\text{mm}$)微量含む。礫($\phi 1\text{cm}$)・YPk($\phi 5\text{mm}$)あり。
- II2. 黒色土 層：粘性なし～しまりややあり。
- III. 黒色土 層：粘性弱いしよりあり。礫($\phi 3\text{mm}$)微量含む。
- III1. 黒色シルト質土層：粘性弱いしよりややあり。炭化粒($\phi 5\text{mm}$)・YPk(粒・ $\phi 1\text{cm}$)微量含む。YPk($\phi 1\text{cm}$)あり。
- III2. 黑褐色シルト質土層：粘性弱いしよりややあり。YPk(粒・ $\phi 1\text{cm}$)微量含む。
- III3. 黑褐色シルト質土層：粘性弱いしよりややあり。炭化粒($\phi 3\text{mm}$)・YPk微量含む。礫($\phi 1\text{cm}$)あり。
1. 黑色砂質シルト層：粘性ありしよりあり。炭化粒($\phi 1\text{cm}$)微量含む。
2. 黑色砂質シルト層：粘性ありしより弱い。礫($\phi 5\text{mm}$ ～ 1cm)・ 5cm 微量含む。YPk($\phi 3\text{mm}$)あり。
- 2b. 黑褐色質シルト層：粘性ありしよりあり。ローム粘土にぶつ。黄褐色粘土微量含む。にぶつ。黄褐色粘土($\phi 3\text{cm}$)あり。
3. 黑色砂質シルト層：粘性ありしよりややあり。YPk粘や少量含む。YPk($\phi 1\text{cm}$)あり。
- 3b. 黑色砂質シルト層：粘性ありしよりややあり。にぶつ。黄褐色粘土(粒・ $\phi 1\text{cm}$)・ロームブロック($\phi 5\text{mm}$)・炭化粒($\phi 5\text{mm}$)・YPk($\phi 1\text{cm}$)微量含む。にぶつ。黄褐色粘土($\phi 3\text{cm}$)あり。
- 3b2. 黑色土 層：粘性弱いしよりややあり。明瞭なシルト質砂少量含む。YPkあり。
4. 黑色砂質シルト層：粘性ややありしよりあり。礫(人頭大)多量含む。にぶつ。黄褐色粘土粒($\phi 1\text{cm}$)少量含む。燒土粒($\phi 5\text{mm}$)微量含む。
- 4b. 黑色砂質シルト層：粘性弱いしよりややあり。YPk粒少量含む。ロームブロック($\phi 5\text{mm}$ ～ 1cm)にぶつ。黄褐色粘土($\phi 1\text{cm}$)微量含む。YPk($\phi 3\text{mm}$)あり。
5. 黑褐色砂質シルト層：粘性ややありしよりあり。礫(人頭大)多量含む。燒土粒($\phi 5\text{mm}$)微量含む。にぶつ。黄褐色粘土($\phi 3\text{cm}$)あり。
6. 黑褐色砂質シルト層：粘性ありしよりややあり。YPk粒少量含む。YPk($\phi 5\text{mm}$)・褐色砂質含む。燒土粒($\phi 1\text{cm}$)あり。
7. 黑色砂質シルト層：粘性弱いしより弱い。YPk($\phi 5\text{mm}$)・褐色砂質含む。ローム粒($\phi 5\text{mm}$)あり。
8. 浅色シルト質砂層：粘性ややありしよりあり。黒色土粒・礫(人頭大)少量含む。礫($\phi 60\text{cm}$)微量含む。

第358図 1・2区1号水場遺構実測図(1/100)

部で礫を並べ替えて面を整えたような箇所が見られた。常に水が流れていたと考えられること、移動しやすいように階段状に掘り込まれていることから、本遺構は水に関連する何らかの遺構であると考えられる。帰属時期は、出土遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。



1・2区1号平坦面(郭)土層説明

A-A'

- 暗褐色土層:粘性強い、しまりやや弱い、ローム粒・炭化物・焼土粒(ϕ 5 mm)・礫(ϕ 1 cm)微量含む。
- 黒褐色土層:粘性弱い、しまり弱い、表土か。
- 暗褐色土層:粘性弱い、しまりあり、ローム粒多量含む、礫(ϕ 3 cm)微量含む。
- 暗褐色土層:粘性なし、しまりやや弱い、礫(拳大)多量含む、ローム粒少量含む、焼土粒微量含む。
- 黒褐色土層:粘性ややあり、しまりあり、礫(人頭大)多量含む、ローム粒・礫(人頭大)少量含む。(3~6層 盛土)
- 黒褐色土層:粘性弱い、しまりあり、礫(拳大)多量含む、ローム粒・礫(人頭大)少量含む。(3~6層 盛土)

第359図 1・2区1号平坦面(郭)実測図(1/50・1/100)

(8) 平坦面(郭)

1・2区1号平坦面(第359図/PL 131)

位置 4-14区L~Q-11~14グリッド(1・2区調査区西端部)。 **遺存状態** 良好。 **規模** 東西23.9m、南北15.3m以上を測る。 **概要** 西側と南側は段丘崖に、東側は段丘崖へ続く谷地形に向かって緩やかに傾斜しており、南側に張り出した状況である。北側は事業団によって平成19年度に発掘調査が実施されており、第5区画とされている。平坦面の地山は応桑泥流面で、拳大の礫や砂粒が多く、直径50cm以上の大きな岩も露出している。南西隅部は、幅1~2mを盛土整地しており、平坦面を拡張している。黒褐色・暗褐色土を基調にして、場所によって黄褐色ロームや白色粘土を多く混ぜた土を使用している。盛土の裾部分には岩が並んだ状態で出土しており、盛土整地を行なった際の土留めと考えられる。本調査区では1段ないし2段のみの残存であるが、事業団調査区の4号石垣の続きと考えられる。

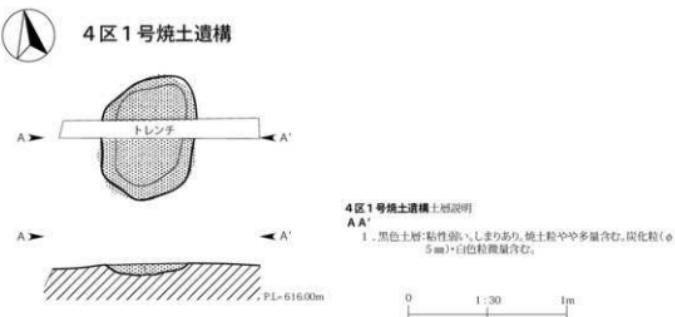
平坦面からは土坑3基、ピット12基が確認された。土坑・ピットは中世～近世にかけての時期に帰属すると考えられる。ピットはP05~08が直線上に並ぶものの、その他のピットは組まない状況であり、建物はなかったと考えられる。この平坦面は、林城の最南端に位置する郭と考えられる。性格は不明であるが、建物跡がなく、南側に張り出している状況から、崖下を見張るために使用された場所であった可能性が考えられる。帰属時期は、時期を特定し得る遺物はないが周辺の遺構と同時期の中世～近世にかけてと考えられる。

第5節 その他の遺構と遺物

(1) 焼土遺構

4区1号焼土遺構(第360図/PL 131)

位置 4-5区G-19グリッド(4区東西調査区2東部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は焼土・掘り方とともに橢円形を呈する。規模は焼土面が長軸80cm、短軸58cmを測る。掘り方が長軸79cm、短軸54cm、確認面からの深さ8cmを測る。 **主軸方位** 掘り方でN-19°-E。 **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜している。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、火を燃やした場所ではなく、ブロック状の焼土が流れ込んだものである。帰属時期は不明であるが、遺構を確認した位置が高いことから近代以降の可能性が高いと考えられる。



第360図 4区1号焼土遺構実測図(1/30)

(2) 土坑

3区 SK01 (第361図)

位置 4—4区T—8、4—5区A—8グリッド(3区調査区中央部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 黒色土の下に焼土純層が堆積する。焼土部分は5cmの厚さを有する。堆積状況は自然堆積と考えられる。

平面形と規模 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸97cm、短軸66cm、確認面からの深さ13cmを測る。

主軸方位 N—11°—E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜している。 **遺物** なし。 **備考** 遺構確認した時は焼土が見られなかったため焼土遺構ではなく土坑として調査を行なった。本遺構は、焼土部分の厚さから繰り返し火を燃やした場所と確認された。焼土が形成された土から現代のものが出土していることから、現代のごみ焼き場であったと考えられる。

4区 SK06 (第361図／PL 131)

位置 4—5区M—15・16グリッド(4区南北調査区南部)。 **重複関係** SK03・09と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 南西部が調査区外で、東壁の一部がSK09によって破壊されるが、概ね良好である。

覆土 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円長方形を呈する。規模は長軸438cm以上、短軸56cm、確認面からの深さ96cmを測る。 **主軸方位**

N—16°—E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、中位で若干括れ、上位は外傾する。 **底面** 概ね平坦である。

遺物 なし。 **備考** 本遺構は、非常に細長く深い形状をしており、同様の形態のSK07と隣接している。北日本で多く見られるT—ビットと呼ばれる土坑(陥し穴)の下部と形態が似ていることから、陥し穴の可能性が考えられる。出土遺物がないため時期の特定は困難であるが、平安時代の陥し穴と考えられる土坑に切らされていることから、帰属時期は平安時代以前と考えられる。

4区 SK07 (第362図／PL 131)

位置 4—5区N—15・16グリッド(4区南北調査区南部)。 **重複関係** SK04と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** SK04によって東壁北部が破壊されるが、概ね良好である。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円長方形を呈する。規模は長軸459cm、短軸64cm、確認面からの深さ108cmを測る。 **主軸方位** N—4°—E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、上位は外反する。中位で若干括れる箇所が見られる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。

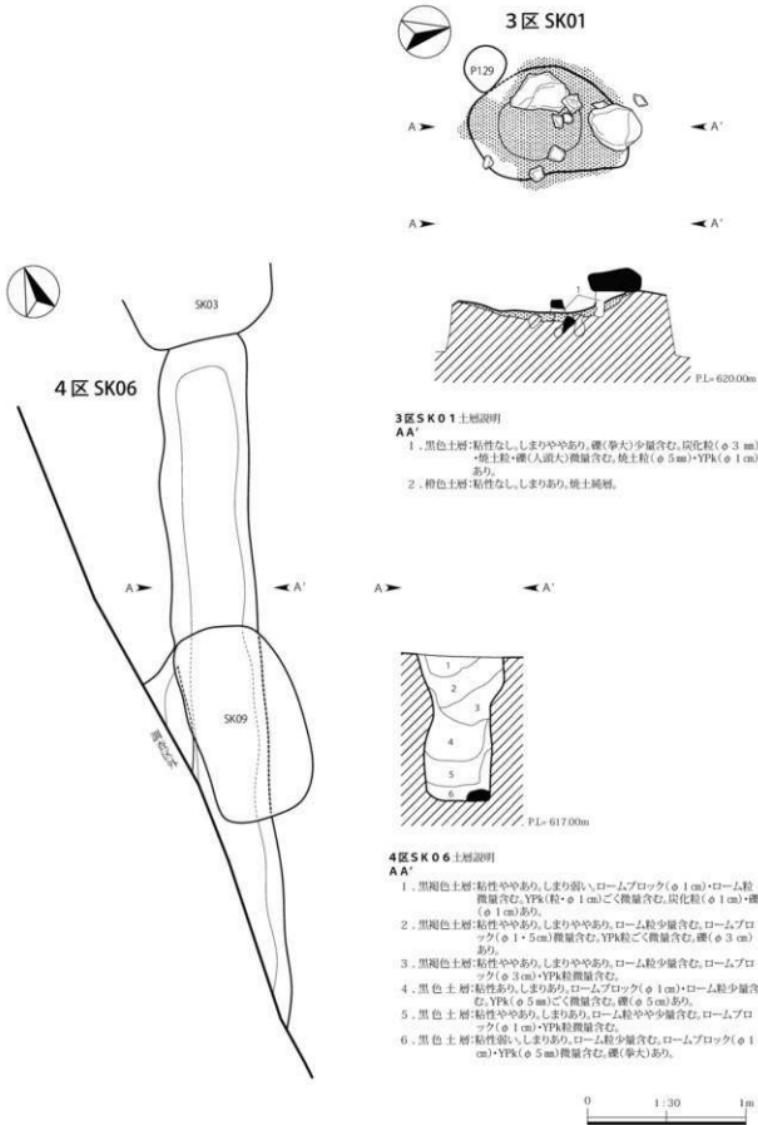
備考 本遺構は、非常に細長く深い形状をしており、同様の形態のSK06と隣接している。北日本で多く見られるT—ビットと呼ばれる土坑(陥し穴)の下部と形態が似ていることから、陥し穴の可能性が考えられる。帰属時期の特定は困難であるが、類似するSK06と同様に平安時代以前と考えられる。

4区 SK08 (第362図)

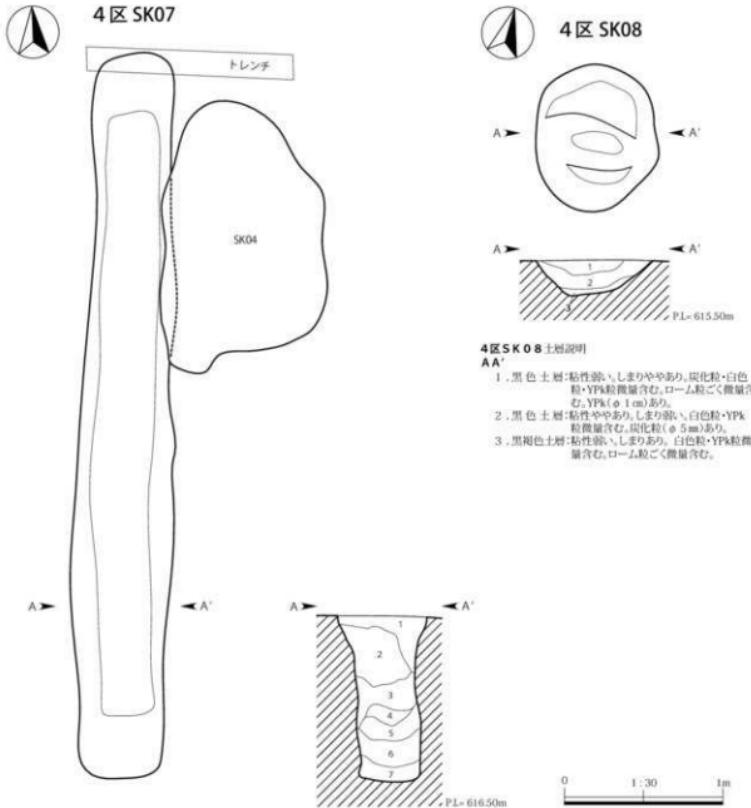
位置 4—5区Q—19グリッド(4区東西調査区1中央部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 概ね良好である。 **覆土** 上層は黒色土、下層は黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模**

平面形は梢円形を呈する。規模は長軸93cm、短軸77cm、確認面からの深さ22cmを測る。 **主軸方位** N—13°—W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 西側に向かって緩やかに傾斜している。 **遺物** なし。

備考 本遺構は、形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物がないため不明であるが、周辺の調査地点と同時期の中世～近世にかけてである可能性が高いと考えられる。



第361図 3区SK01、4区SK06実測図(1/30)



4区 SK07 土層説明

AA'

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり。ロームブロック(φ 5mm)・ローム粒微量含む。YPk粒ごく微量含む。羅(φ 5cm)あり。
2. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり。ローム粒多量含む。YPk(粒・φ 5mm)微量含む。ローム・ブロック(φ 1cm)あり。
3. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり。ローム・YPk粒微量含む。YPk(粒・φ 5mm)微量含む。羅化粧(φ 5mm)あり。
4. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり。ローム粒やや多量含む。YPk(粒・φ 5mm)微量含む。ローム・ブロック(φ 1cm)微量含む。
5. 黑褐色土層: 粘性やあり、しまりあり。ローム粒多量含む。ローム・ブロック(φ 1cm)微量含む。ローム・ブロック(φ 3cm)微量含む。羅(φ 3cm)あり。
6. 黑褐色土層: 粘性なし、しまりやや弱い。羅(φ 5mm)微量含む。ローム粒全体にごく微量含み。行上にローム・ブロック(φ 5cm)複数块あり。
7. 黑色土層: 粘性やや弱い、しまりややあり。砂粒微量含む。ローム粒全体にごく微量含み。左下にローム・ブロック(φ 5cm)複数块あり。

第362図 4区SK07-08実測測図(1/30)

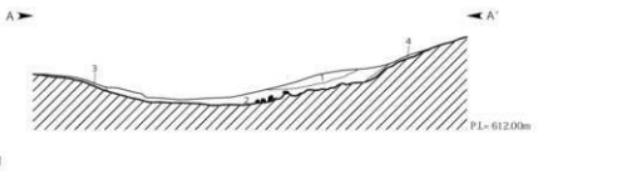
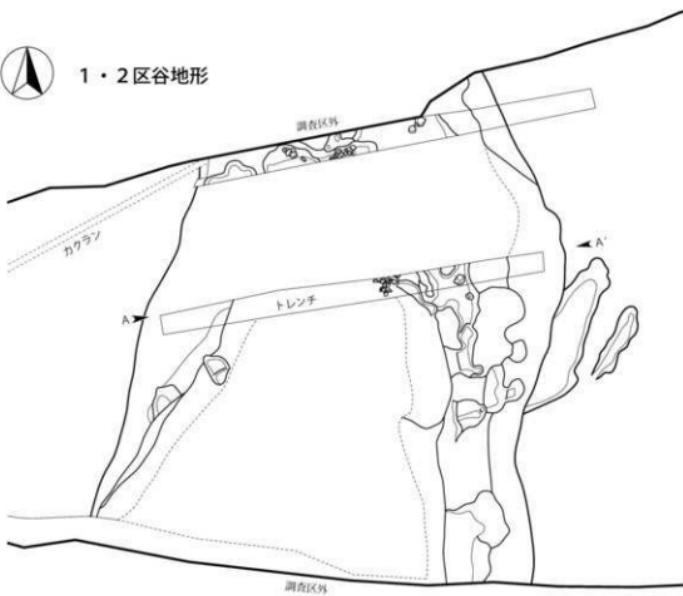
(3) 谷地形

1・2区谷地形 (第363・364図／PL 134)

位置 4-14区Q-T-10-14グリッド(1・2区調査区西部)。 **覆土** 黒褐色砂が基調で、自然堆積を示す。 **規模** 長さは21.7m以上、幅は16.4m～17.1m、確認面からの深さ52cm、底から上端までの比高差は220cm以上を測る。 **主軸方位** N-12°-E **遺物** 繩文土器片、中近世陶磁器片、近代陶器が出土し、そのうち瀬戸美濃焼4点、在地系土器1点、陶器染付1点を図示し得た。 **概要** 1・2区調査区西



1・2区谷地形



1・2区谷地形土層説明

AA'

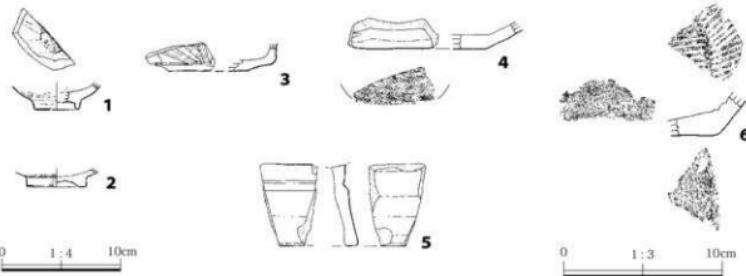
1. 黒褐色砂質シルト層：粘性ややあり。しまり弱い。灰黃褐色粘質土ブロック($\phi 3\text{ mm}$)微量含む。
2. 黒褐色砂質シルト層：粘性あり。しまり弱い。白色粒($\phi 1\sim 3\text{ cm}$)微量含む。
3. 暗褐色シルト質砂層：粘性弱い。しまりあり。にごい黄褐色砂($\phi 3\text{ cm}$)少量含む。鐵($\phi 1\text{ cm}$)微量含む。
4. 黑褐色砂質シルト層：粘性あり。しまり弱い。浅黃褐色粘質土粒少數含む。

PL= 612.00m

0 1:200 8m

第363図 1・2区谷地形実測図(1/200)

部を縦断する谷地形である。発掘調査は、およそ南半分の壁面を谷の上からアームの届く範囲まで重機で掘削し、仕上げを人力で行った。底面は、調査区幅のほぼ中央を東西方向に重機でトレンチ掘削し、仕上げを人力で行った。また、調査区北壁際を人力でトレンチ掘削を行なった。そのため、一番下までは確認できていない。壁面及び底面には、水が流れため生じたと思われる窪みが確認された。湧水や雨水が流れていたものと考えられる。覆土中から中近世陶磁器片などが出土していることから、林城が機能していた時期にも深い谷が存在し、西側の郭と東側の平坦部を区画していたと考えられる。



第364図 1・2区谷地形出土遺物実測図(1/3・1/4)

第6節 遺構外出土遺物 (第365～369図／PL 134～136)

ここでは、調査区表土および確認面出土遺物、遺構内の流れ込み遺物、試掘トレンチ出土遺物を掲載する。遺構外出土遺物は、石器のほか、縄文時代前期・中期・後期土器、中世陶磁器、中世錢貨、石製品、金属製品と長期間にわたる遺物が出土している。本遺跡は、発掘調査区が大きく3地点に分かれている。縄文土器・石器に関しては、遺跡範囲で大きく捉えても問題ないと考え、調査区で分けずに時代の古い順に掲載した。中世陶磁器以下に関しては、林城周辺地域の調査区であることから場所によって存在する遺構・区域の性格が異なることが考えられるため、調査区ごとに遺物をまとめて掲載した。

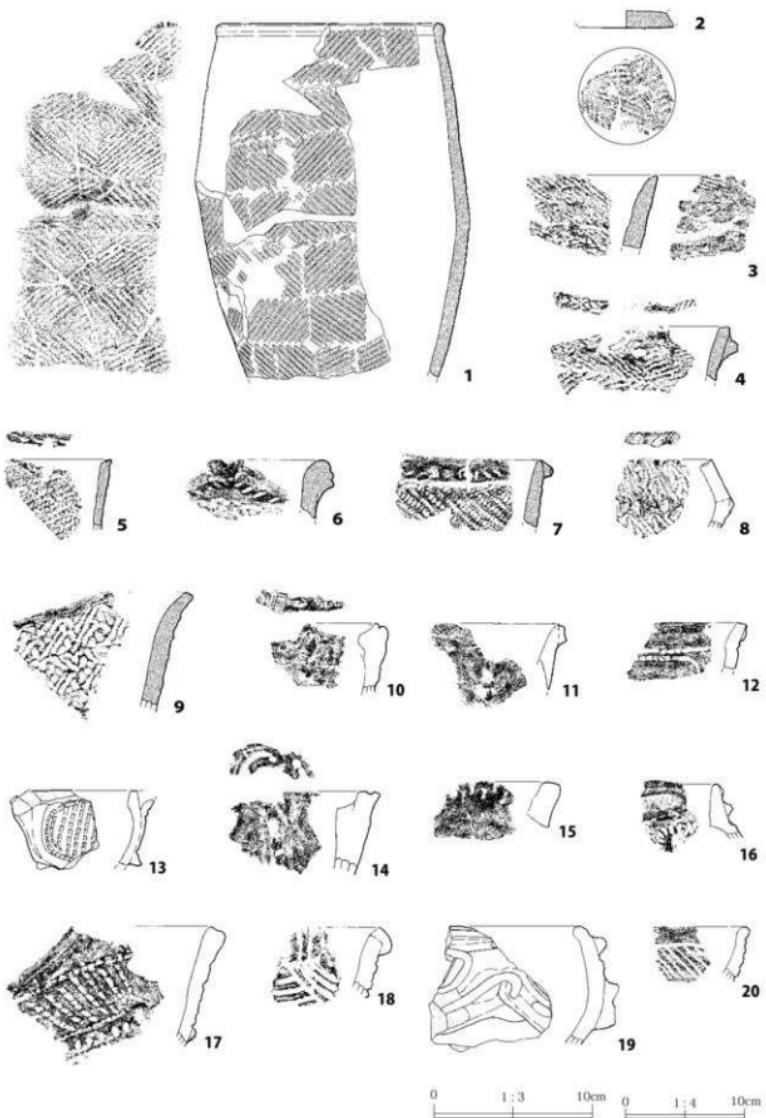
第5章 まとめ

今回発掘調査を行なった林中原I遺跡では、3調査区合わせて縄文時代前期前半の竪穴住居跡1軒、縄文時代土坑44基、ピット68基、平安時代陥し穴8基、中世～近世の掘立柱建物跡7棟、柱列1列、土坑52基、土壤墓1基、ピット58基、溝跡12条、水場遺構1基、平坦面（郭）1面、時期不明の焼土遺構1基、土坑3基が確認された。中世～近世の林域に連続した遺構が主体の複合遺跡である。吾妻川左岸の最上位段丘面の南端部段丘際に位置する。遺跡範囲の東・西・北側は緩斜面が広がり、それぞれ林中原II遺跡、林宮原遺跡、上原IV遺跡へと続いている。

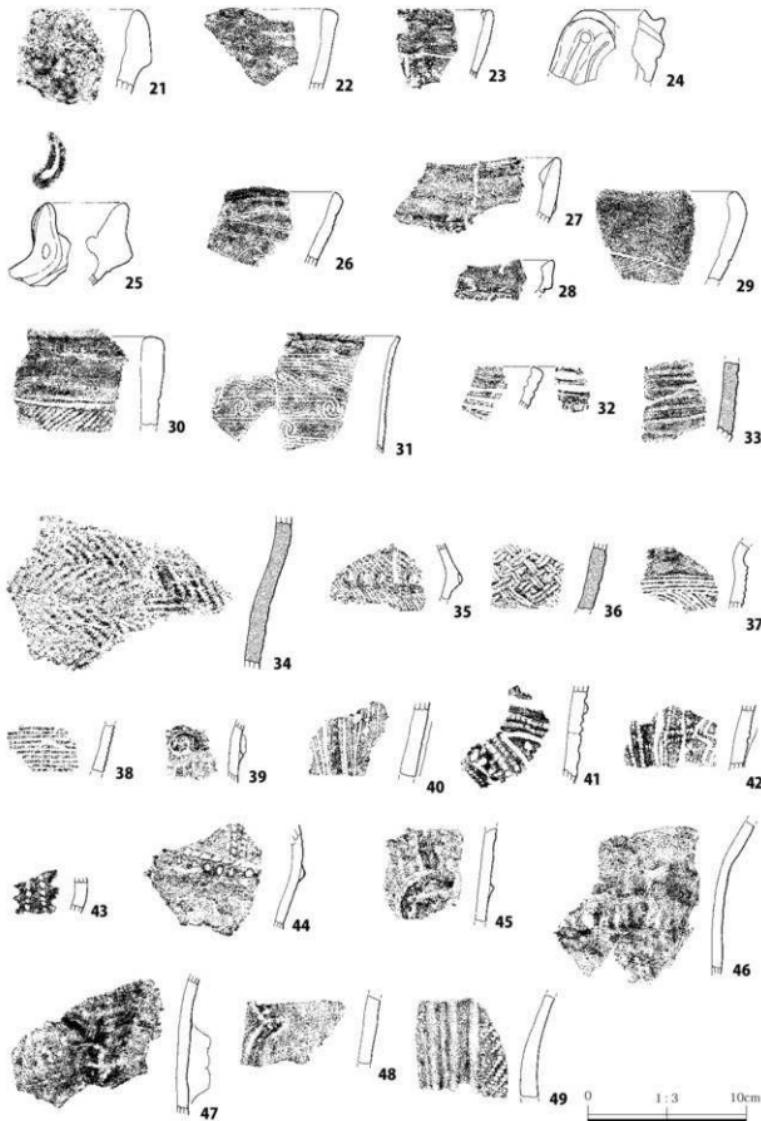
縄文時代の遺構は、1・2区調査区と3区調査区で確認された。1・2区調査区では縄文時代前期前半の竪穴住居跡1軒、縄文時代の貯蔵穴と考えられる土坑7基、3区調査区では2面目の調査で縄文時代中期～後期の土坑37基が確認された。今回確認された縄文時代前期の竪穴住居跡は、隣接する事業団調査区で確認されたものの続きであり、同時期の竪穴住居跡の軒数は増えてはいない。30m以上離れた場所に点在しており、集落の規模は小さかったと考えられる。貯蔵穴と考えられる土坑は細かい時期は不明であるが、遺構の分布状況から前期の可能性が高いと考えられる。縄文時代中期～後期の土坑は北側の3区調査区で確認された。これまでの調査事例でも遺跡範囲北側に縄文時代中～後期の遺構が多数確認されていることと同様の状況が確認されたことから、該期の中心は遺跡北側にあると考えられる。

平安時代の遺構は、1・2区調査区で7基と4区調査区で2基の陥し穴が確認された。事業団調査区を合わせても陥し穴が8基加わるだけで、竪穴住居跡は確認されていない。平安時代においては、最上位段丘面南側の林中原周辺地域は居住域ではなく、別の用途で使われていたと推測される。

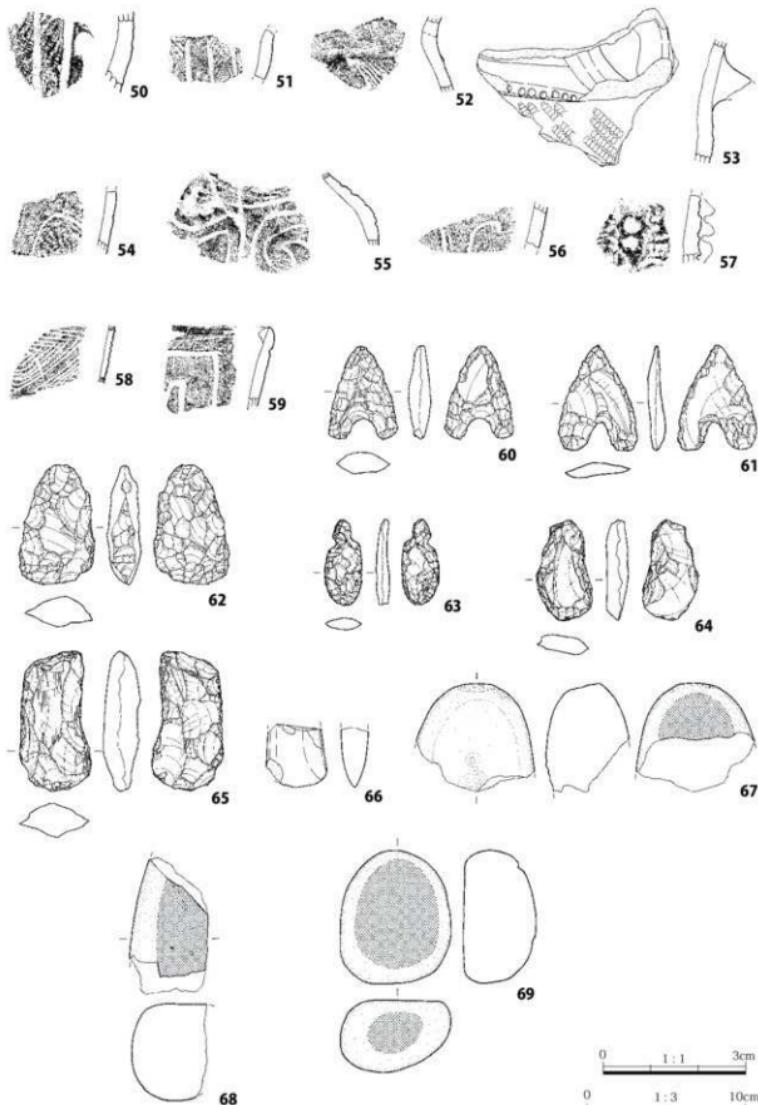
中世～近世にかけての遺構は、1・2区調査区で掘立柱建物跡7棟、柱列1列、平坦面（郭）1面、水場遺構1基、溝跡5条、土壤墓1基、土坑30基、ピット434基、3区で溝跡5条、土坑17基、ピット136基、



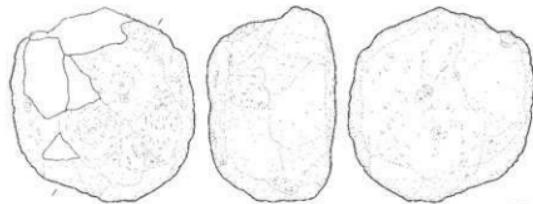
第365図 遺構外出土遺物実測図①(1/3・1/4)



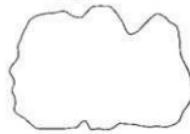
第366図 遺構外出土遺物実測図②(1/3)



第367図 遺構外出土遺物実測図③(1/1・1/3)



70



71

73

74

75

76

1・2区



72



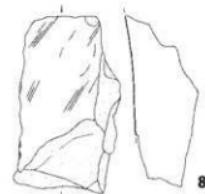
77



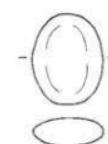
78



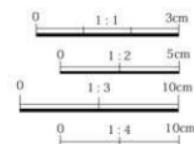
79



80

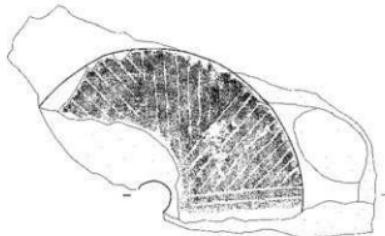


81

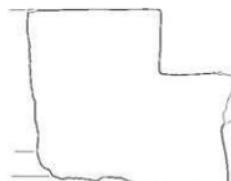


第368図 遺構外出土遺物実測図④(1/1・1/2・1/3・1/4)

1・2区



84



85



86

3区



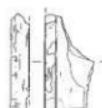
87



88



89



90

4区



94

0

1:1

3cm

0

1:2

5cm

0

1:3

10cm

0

1:4

10cm

第369図 遺構外出土遺物実測図⑤(1/1・1/2・1/3・1/4)

4 区で溝跡 2 条、土坑 4 基、ピット 16 基である。掘立柱建物跡は、1・2 区調査区谷地形の東側に分布し、SB06 のみ調査区東端に位置する。長軸または直交する方位が東に振れるもの (SB01・04～06) と西へ振れるもの (SB02・03・07) とに分けられ、重複している建物跡 (SB01・02) があることから、大きく 2 時期に分けられる。隣接する事業団調査区の第 6 区画・その他 53 区の掘立柱建物跡も同様な状況を呈していることから、同一区画の可能性がある。平坦面 (郭) は、1・2 区調査区の西端部で確認された。事業団調査区の第 5 区画の南側にあたり、林城の南東端の郭と考えられる。南西側が盛土によって平坦部が拡張され、石垣の続きが確認された。建物跡は確認されなかったが、南側の段丘崖下を見張るための場所であった可能性が考えられる。溝跡は 3 つの調査区合わせて 12 条確認された。3 区調査区で確認された 5 条の溝跡のうち 3 条 (SD01～03) は、事業団調査区から続く同一のものである。第 7 区画の東境の溝跡がさらに北側へ続いていく状況が明らかになった。また、本調査区ではさらに東側に溝跡が 1 条 (SD05) 確認された。主軸方位・規模が SD02・03 とほぼ同じことから一連の溝跡の可能性が高く、東側の区画が細分されると考えられる。中世土墳墓は 1・2 区調査区南東部で確認された。事業団調査区では 4 基が確認され、その他 53 区に 1 基、中近世屋敷西側に 2 基、東側に 1 基分布している。本調査の中世土墳墓もそれらとは離れた位置にあることから、中世の墓は墓域を形成しない状況が確認された。

今回、事業団調査区の南・北側 (1・2 区調査区、3 区調査区)、間部分 (4 区調査区) の一部で発掘調査が実施され新たに調査成果が得られたことによって、林城および林中原 I 遺跡の中世～近世遺構の様相を把握することができた。今後、周辺地域で発掘調査事例が増加することでより広い範囲で様相を把握することが可能になるであろう。

第 51 表 林中原 I 遺跡 XI 繩文住居跡諸属性一覧

遺構名	長軸方位	規模 (m × m)				柱配置	扉	周溝	付帯施設	遺物		時期
		長軸	短軸	壁高	面積					土器	石器	
SB01	N-45°-E	<4.50>	<4.13>	0.25	(0.78)	—	中央	地床炉	—	—	○ ○	縄文時代前期

参考文献

(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2014 『長野原城・林中原 I 遺跡』八ッ場ダム建設に工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第 43 集

第52表 林中原1遺跡X出土遺物観察表

縦文時代土坑出土遺物観察表			
測定No.	測定値	測定方法	口径・底径・高さ
308. 1	1.32	周上・底 直角	(8.8) / 1.32 / ~
322. 1	1.32	直角・横 直角	(1.2) / ~ / ~
322. 2	1.32	縱断・横	(1.5) / ~ / ~

中世～近世掘立柱建物跡出土遺物観察表

測定No.	測定値	測定方法	口径・底径・高さ	特徴（形態・手法等）	測定No.	測定値	測定方法	口径・底径・高さ	特徴（形態・手法等）
340. 1	1.32	陶器・質	(4.2) / ~ / ~	筒状の小口付の灰陶質と判断した様子と一致。外壁はかげ、内面は磨きなし。	340. 2	1.32	陶器・質	(1.2) / ~ / ~	筒状の小口付の灰陶質と判断した様子と一致。外壁はかげ、内面は磨きなし。
340. 3	~	陶器・質	(1.5) / ~ / ~	筒状の小口付の灰陶質と判断した様子と一致。外壁はかげ、内面は磨きなし。	340. 4	1.32	陶器・質	(1.02) / ~ / ~	筒状の小口付の灰陶質と判断した様子と一致。外壁はかげ、内面は磨きなし。
340. 5	1.32	(直角・横)	(4.0) / ~ / ~	筒状の小口付の灰陶質と判断した様子と一致。外壁はかげ、内面は磨きなし。	340. 6	1.32	陶器・質	(1.22) / ~ / ~	筒状の小口付の灰陶質と判断した様子と一致。外壁はかげ、内面は磨きなし。
340. 7	1.32	石器・石錐	15.0 < 34.4 > / < 21.6 >	筒状の小口付の灰陶質と判断した様子と一致。外壁はかげ、内面は磨きなし。	341. 8	1.33	石器・ (鉄物)	7.6 < 20.8 > < 27.6 >	筒状の小口付の灰陶質と判断した様子と一致。外壁はかげ、内面は磨きなし。
341. 9	1.32	鐵(鐵製・ 鐵石)	長 12.9 幅 5.1 / 99.6	筒状の小口付の灰陶質と判断した様子と一致。外壁はかげ、内面は磨きなし。	341. 10	~	鐵(鐵製・ 鐵石)	長 10.9 / 幅 9.0 / 99.4	筒状の小口付の灰陶質と判断した様子と一致。外壁はかげ、内面は磨きなし。
341. 11	1.32	真鍮品・金粉・銀	長 (3.8) 幅 0.6 / 90.5	筒状の小口付の灰陶質と判断した様子と一致。外壁はかげ、内面は磨きなし。					

中世～近世土壙窓出土遺物観察表

測定No.	測定値	測定方法	口径・底径・高さ	特徴（形態・手法等）	測定No.	測定値	測定方法	口径・底径・高さ	特徴（形態・手法等）
343. 1-1	1.33	合瓦	径 2.4 / 厚 0.1 / 0.6	筒状の小口付の灰陶質と判断した様子と一致。外壁はかげ、内面は磨きなし。	343. 1-2	1.33	合瓦	径 2.5 / 厚 0.1 / 0.6	筒状の小口付の灰陶質と判断した様子と一致。外壁はかげ、内面は磨きなし。
343. 1-3	1.33	合瓦	径 2.5 / 厚 0.1 / 0.6	筒状の小口付の灰陶質と判断した様子と一致。外壁はかげ、内面は磨きなし。	343. 1-4	1.33	合瓦	径 2.5 / 厚 0.1 / 0.6	筒状の小口付の灰陶質と判断した様子と一致。外壁はかげ、内面は磨きなし。

343.1.5	133	吉真	住2.4/9.01~4.06	新規3.3g。重量過重。钢板。		-	-	-	無形。
343.1.6	133	吉真	住2.5/9.01~4.06	新規3.1g。重量過重。钢板。		-	-	-	無形。

中世～近世溝出土遺物觀察表

番号	品目	法則	器形・工作・製作(1件)	特徵(形態・手作)	地紋	施上・材質等	色調(外底・内面)	備考
355.1	133	陶器・灰陶	(6.0) /-/-/-	燒陶罐。矮小。表面有凹凸可視性。山形。山腹部には取扱い跡が平底になる。外縁に丸い輪郭のナメ留めがある。山腹。外縁部分とその内縁は斜面。見事な火照りがある。	良好	焼灰	褐色(1.1mm)	1・2・3・5K302
355.2	133	陶器・灰陶	(3.7) /-/-/->4.4>	燒陶罐。高さ。山腹。外縁ともに火照りが強く、外縁部分とその内縁は斜面。見事な火照りがある。山腹。外縁部分とその内縁は斜面。見事な火照りがある。	良好	焼灰	褐色(1.1mm)	1・2・3・5K302
355.3	133	陶器・灰陶	(3.0) /-/-/-	燒陶罐。矮小。山腹。外縁部分とその内縁は斜面。見事な火照りがある。	良好	焼灰	褐色(1.1mm)	1・2・3・5K302
355.4	133	磁器・白磁	(2.0) /-/-/5.2	白磁か。圓。底はひびき。外縁部分とその内縁は斜面。見事な火照りがある。	良好	白色	純白	25.5mm×18.5mm
355.5	133	ガラス器	2.1 /<8.1><5.0>	ロココ形。内側ともにクロコアド留め。底面も内側ともにクロコアド留め。内側には斜面で窓状に自然断続して窓状の孔が開けている。	良好	にぶい黄潤	口部窓-底部窓 切刃窓	1・2・3・5K303
355.6	133	陶器・青磁	(5.6) /-/-/-	燒陶罐。圓。底滑らか。中間。本体下部の窓と見えらる。外縁部分とその内縁は斜面。見事な火照りがある。	良好	焼灰	褐色(1.1mm)	1・2・3・5K304
355.7	133	陶器・青磁	(2.6) /-/-/-	燒陶罐。圓。底滑らか。中間。本体下部の窓と見えらる。外縁部分とその内縁は斜面。見事な火照りがある。	良好	灰	褐色(1.1mm)	1・2・3・5K305
355.8	133	陶器・青磁	(3.1) /-/-/-	燒陶罐。圓。底滑らか。中間。本体下部の窓と見えらる。外縁部分とその内縁は斜面。見事な火照りがある。	良好	灰	褐色(1.1mm)	1・2・3・5K305
355.9	133	石器・長	(11.3) /-/-/-	磨石。長。(11.3) /-/-/-	磨石	褐色	褐色(4mm)	3・5K302
355.10	133	瓦礫	(4.8) /-/-/-	瓦礫。(4.8) /-/-/-	瓦礫	褐色	褐色(4mm)	3・5K302
355.11	133	瓦製品・瓦	長(4.1) /-/-/-	瓦。(4.1) /-/-/-	瓦	褐色	褐色(4mm)	3・5K303

中世～近世ビット出土遺物觀察表

番号	品目	法則	器形・工作・製作(1件)	特徵(形態・手作)	地紋	施上・材質等	色調(外底・内面)	備考	
356.1	134	石製品・内筒	長2.16 /-/-/-	圓錐400g。扁平な形状で、周囲に斜面があり、片側を削ぎ、片側を削ぐ。この状態では見えないが、この状態では見えない。	良好	斜面(左)右切 斜面(右)左切	褐色(1.1mm)	1・2・3(P2)	
356.2	134	石製品・長	(1.02) /-/-/-	圓錐450g。底部が斜面で、両端を削ぎする。片方の端面の上には、それが削られた跡である。斜面は直角で、斜面は直角である。	良好	斜面(左)右切 斜面(右)左切	褐色(1.1mm)	1・2・3(P6)	
356.3	133	石製品・長	(4.4) /-/-/-	圓錐100g。底部が斜面で、両端を削ぎする。斜面は直角になる。斜面は直角で、斜面は直角である。	良好	斜面右 斜面左	褐色(1.1mm)	1・2・3(P7)	
356.4	-	内筒	(1.8) /-/-/-	圓錐400g。扁平な形状で、周囲に斜面があり、片側を削ぎ、片側を削ぐ。	良好	斜面多面 斜面	褐色(1.1mm)	1・2・3(F14)	
356.5	133	石製品・砾石	長(7.0) /-/-/-	圓錐79.35 /-/-/-	圓錐2.0g。黒岩。表面は滑らかである。底面は丸く削り、底面は丸く削る。	良好	圓錐右 圓錐左	褐色(1.1mm)	1・2・3(P28)
356.6	134	石製品・砾石	長(9.0) /-/-/-	圓錐178.8g。長。(9.0) /-/-/-	圓錐2.0g。黒岩。表面は滑らかで底面は丸く削る。表面は滑らかで底面は丸く削る。表面は滑らかで底面は丸く削る。	良好	圓錐右 圓錐左	褐色(1.1mm)	1・2・3(P28)
357.7	134	石製品・砾石	7.3 /-/-/-	次元引きされた形状である。表面は滑らかである。底面は丸く削る。	良好	圓錐右 圓錐左	褐色(1.1mm)	1・2・3(P27)	
357.8	134	石製品・砾石	長1.6 /-/-/-	圓錐2.0g。黒岩。表面は滑らかである。底面は丸く削る。	良好	圓錐右 圓錐左	褐色(1.1mm)	1・2・3(P25)	
357.9	134	陶器・白	(2.9) /-/-/-	圓錐1.5g。白。底は丸く削る。表面は滑らかである。底面は丸く削る。	良好	圓錐右 圓錐左	褐色(1.1mm)	1・2・3(P21)	
357.10	134	陶器・白	(1.6) /-/-/-	圓錐1.5g。白。底は丸く削る。表面は滑らかである。底面は丸く削る。	良好	圓錐右 圓錐左	褐色(1.1mm)	3・5K312	

各地形出土遺物觀察表

365.17	135	周文・周・ 周林	(7.5) /-/-	前面は大きくなじむ形の頭などなるようである。多くの静物が前に被された空形の、斜めの角形をもつて隠す形である。頭部は右端には、丸い端子。内面は縫・斜子ナ。	良好	大金の金・ 石萬	水紀	綴り資料 (1種類)
365.18	135	周文・周・ 周林	(4.4) /-/-	コウル形容が付され、「傳記」による曲頭の等々を表す。内面は左端にもナナ。	良好	角閃石・石英	水紀	綴り資料 (1種類)
365.19	135	周文・周・ 周林	(7.4) /-/-	キーリバード形の頭部である。横に斜めに張り、頭部は斜めに張る。内面左端にもナナ。	良好	角閃石・石英	に云い黄題	綴り資料 (1種類)
365.20	-	周文・周・ 周林	(3.4) /-/-	頭は、無・無とある。内面左端ともに斜子ナ。	良好	石萬	周	綴り資料 (1種類)
366.21	-	周文・周・ 周林	(5.2) /-/-	前面が肥厚する。口輪は左側を表す。内面左端ともにナナ。	良好	金出玉・石萬多用	周	綴り資料 (1種類)
366.22	135	周文・周・ 周林	(5.0) /-/-	ゆるやかな形の頭などなる。内面左端ともにナナ。	良好	砂利	綴り/に云い黄題	綴り資料 (1種類)
366.23	-	周文・周・ 周林	(6.2) /-/-	上半身が肥厚する。口輪は左側を表す。内面左端ともにナナ。	良好	砂利	綴り題	綴り資料 (1種類)
366.24	135	周文・周・ 周林	(4.5) /-/-	頭には、無・無とある。正面に質子が一側に突き、頭部が後退される。筋張状	良好	砂利	綴り題	綴り資料 (1種類)
366.25	135	周文・周・ 周林	(5.1) /-/-	頭部が後退する。顔面に左側を表す。内面左端ともにナナ。	良好	砂利	綴り題	綴り資料 (1種類)
366.26	135	周文・周・ 周林小	(4.6) /-/-	頭部が後退する。内面左端ともにナナ。	良好	砂利	白	綴り資料 (1種類)
366.27	135	周文・周・ 周林	(4.4) /-/-	口輪が左側を表す。口輪部が肥厚する。内面左端ともにナナ。	良好	砂利	白	綴り資料 (1種類)
366.28	-	周文・周・ 周林	(2.1) /-/-	口輪は左側を表す。内面左端ともにナナ。	良好	砂利	白	綴り資料 (1種類)
366.29	135	周文・周・ 周林	(5.5) /-/-	口輪部が後退する。内面左端ともにナナ。	良好	砂利	白	綴り資料 (1種類)
366.30	135	周文・周・ 周林	(5.5) /-/-	口輪部が後退する。内面左端ともにナナ。	良好	砂利	白	綴り資料 (1種類)
366.31	135	周文土崩・ 周林	(7.3) /-/-	口輪が左側を表す。内面左端ともにナナ。	良好	砂利	白	綴り資料 (1種類)
366.32	-	周文・周・ 周林	(2.6) /-/-	4つの横の折れを施す。内面左端ともにナナ。	良好	砂利	白	綴り資料 (1種類)
366.33	135	周文・周・ 周林	(4.0) /-/-	内面左端ともにナナ。	良好	砂利	白	綴り資料 (1種類)
366.34	135	周文・周・ 周林	(0.5) /-/-	0.05多孔LR・周文による横の頭部が後退する。内面左端ともにナナ。	良好	砂利	白	綴り資料 (1種類)
366.35	135	周文・周・ 周林	(3.4) /-/-	口輪が左側を表す。内面左端ともにナナ。	良好	砂利	白	綴り資料 (1種類)
366.36	135	周文・周・ 周林	(4.2) /-/-	0.05多孔見、頭に、無・無とある。内面左端ともにナナ。	良好	砂利	白	綴り資料 (1種類)
366.37	135	周文・周・ 周林	(4.2) /-/-	頭部が外れる。頭部は左側である。体・頭、5つの横の折れや頭によく曲線的な文様を施す。内面はナナ。	良好	砂利	白	綴り資料 (1種類)
366.38	-	周文・周・ 周林	(2.9) /-/-	頭部が後退する。内面左端ともにナナ。	良好	砂利	白	綴り資料 (1種類)
366.39	135	周文・周・ 周林	(3.9) /-/-	0.05多孔の頭部が後退する。内面左端ともにナナ。	良好	砂利・白	に云い黄題	綴り資料 (1種類)
366.40	135	周文・周・ 周林	(4.0) /-/-	頭部が外れる。内面左端ともにナナ。	良好	砂利	白	綴り資料 (1種類)
366.41	135	周文・周・ 周林	(6.1) /-/-	頭によく、角形が右側に内面左端ともにナナ。	良好	砂利	白	綴り資料 (1種類)

366.42	135	岡之原・ 岡林・ 岡林	(4.0) /~/-/~	葉面、花被、角萼等による難易度高。葉状花序が葉面を被る。外側はナデ。内面は葉 合子ナデ。	良好	全葉緑	縮小開	縮小開 (休眠)	3区 S030
366.43	135	岡之原・ 岡林	(2.2) /~/-/~	手形は、輪状に排列し且つ葉面を被る。正面・背面で葉を被る。外側はナデ。	良好	全葉緑	縮小開	縮小開 (休眠)	3区 S030
366.44	135	岡之原・ 岡林	(6.5) /~/-/~	葉を伴う角萼に、又葉面に、又葉裏に切らかの角萼が発達される。外側はナデ。内面は葉合子ナデ。	良好	全葉緑・石井	縮	縮小開 (休眠)	4-5区 C-B
366.45	-	岡之原・ 岡林	(5.8) /~/-/~	内面は斜面の傾斜による葉面に開口する葉合子を被る。外側は葉合子ナデ。	良好	全葉緑多葉・石井	縮・葉合	縮小開 (休眠)	3区 S030
366.46	135	岡之原・ 岡林	(0.7) /~/-/~	葉面による葉合子を被る。外側は葉合子ナデ。	良好	全葉緑	縮開	縮小開 (休眠)	4-5区 C-B
366.47	135	岡之原・ 岡林	(0.8) /~/-/~	葉面による葉合子を被る。外側は葉合子ナデ。	良好	全葉緑	縮小開	縮小開 (休眠)	3区 S030
366.48	-	岡之原・ 岡林	(4.2) /~/-/~	葉面による葉合子を被る。外側はナデ。内面は葉合子ナデ。	良好	全葉緑多葉・石井	縮	縮小開 (休眠)	4-5区 B-D
366.49	-	岡之原・ 岡林	(0.3) /~/-/~	外側は斜面による葉合子を被る。3葉-4葉の葉合子。	良好	砂粒	縮合開	縮合開 (休眠)	3区 S030
367.50	-	岡之原・ 岡林	(5.0) /~/-/~	葉面による葉合子。斜面による葉合子が複数の葉合子で構成される。外側は葉合子ナデ。	良好	角閃石	縮開/葉開	縮合開 (休眠)	3区 S030
367.51	-	岡之原・ 岡林	(3.1) /~/-/~	葉面による葉合子を被る。葉合子が葉裏に、半葉状・葉裏葉合子。内面は葉合子ナデ。	良好	白色粒	に長い葉開	葉開/葉合 (休眠)	4-4.5区 S-B
367.52	135	岡之原・ 岡林	(4.7) /~/-/~	葉面が斜面を有する。葉裏葉合子上に繋いだ葉合子による葉合子。葉裏葉合子と葉裏葉合子。	良好	石英	从葉開/葉灰	縮合開 (休眠)	3区 S030
367.53	-	岡之原・ 岡林	(7.8) /~/-/~	葉面の先端に刺突状の葉合子が被る。半葉状・葉裏葉合子。外側はナデ。内面は葉合子ナデ。	良好	砂粒	从葉開/葉灰	縮合開 (休眠)	3区 P29
367.54	-	岡之原・ 岡林	(3.9) /~/-/~	葉面による葉合子を被る。葉裏葉合子。外側はナデ。内面は葉合子ナデ。	良好	石英・角閃石	縮開/灰開	縮合開 (休眠)	4-4.5区 R-9
367.55	135	岡之原・ 岡林	(6.4) /~/-/~	葉面による葉合子が葉裏葉合子。葉裏葉合子と葉裏葉合子。	良好	砂粒	に長い葉開	葉開/葉合 (休眠)	4-4.5区 P-10
367.56	-	岡之原・ 岡林	(2.9) /~/-/~	葉面による葉合子。葉裏葉合子。内面は葉合子ナデ。	良好	白色粒	引開/に長い葉開	葉開/葉合 (休眠)	4-4.5区 S-9
367.57	135	岡之原・ 岡林	(4.3) /~/-/~	3葉の葉合子の葉裏葉合子が葉裏葉合子。内面は葉合子ナデ。	良好	白雲母・鈍鉢石	縮合開 (休眠)	縮合開 (休眠)	4-4.5区 S-B
367.58	135	岡之原・ 岡林	(3.7) /~/-/~	北極による葉合子が葉裏葉合子。葉裏葉合子と葉裏葉合子。	良好	角閃石	縮	縮合開 (13種類)	4-4.5区 L-9
367.59	135	争生・岡之原・ 岡林	(5.1) /~/-/~	葉面が斜面を有する。葉裏葉合子と葉裏葉合子。	良好	白雲母・ 含金鉢石	從葉開	縮合開 (13種類)	3区 S030
367.60	135	争生・岡之原・ 岡林	長 1.9 /幅 1.4 /厚 0.5 重 1.1 kg, 平均	葉面が斜面を有する。葉裏葉合子と葉裏葉合子。	-	チャート	-	完石,	3区 S030
367.61	135	争生・岡之原・ 岡林	長 2.2 /幅 1.7 /厚 0.4 重 0.8kg, 平均	葉面が斜面を有する。葉裏葉合子と葉裏葉合子。	-	黑色安山岩	-	完石,	4-4.5区 C-G
367.62	135	争生・岡之原・ 岡林	長 2.5 /幅 1.6 /厚 0.7 重 2.6kg, 平均	葉面が斜面を有する。葉裏葉合子と葉裏葉合子。	-	墨摩石	-	完石,	3区 S030
367.63	135	争生・岡之原・ 岡林	長 5.3 /幅 2.3 /厚 0.9 重 9.7g	葉面が斜面を有する。葉裏葉合子と葉裏葉合子。	-	チャート	-	完石,	4-4.5区 H-13
367.64	135	争生・岡之原・ 岡林	長 6.3 /幅 2.5 /厚 1.4 重 33.3g, 平均	葉面が斜面を有する。葉裏葉合子と葉裏葉合子。	-	黒色輝石	-	完石,	4-4.5区 E-9
367.65	135	争生・岡之原・ 岡林	長 8.7 /幅 4.5 /厚 2.3 重 88.0g, 平均	葉面が斜面を有する。葉裏葉合子と葉裏葉合子。	-	黒色輝石	-	完石,	3区 S030
367.66	135	争生・岡之原・ 岡林	長 13.0 /幅 3.8 /厚 1.7 重 40.0 g, 平均	葉面が斜面を有する。葉裏葉合子と葉裏葉合子。	-	輝石	-	30%葉裏葉合子,	4-4.5区 T-14
367.67	136	河原・岡之原・ 岡林	長 (3.7) /幅 17.2 /厚 5.0 重 32.0 g, 平均	葉面が斜面を有する。葉裏葉合子と葉裏葉合子。	-	斜長輝石	-	30%葉裏葉合子,	3区 S030
367.68	136	河原・岡之原・ 岡林	長 (8.5) /幅 4.8 /厚 6.0 重 160 g, 平均	葉面が斜面を有する。葉裏葉合子と葉裏葉合子。	-	斜長輝石	-	30%葉裏葉合子,	3区 S030

3607-59	1.30	砂質・鶴見 多孔石	長 8.3 / 幅 6.9 / 高 7.4 長 12.3 / 幅 11.7 / 高 8.2	黒褐色の細粒岩で、やや塊状で、塊状に構成される。表面を磨かれている。	—	細粒石英岩	—	元井。
3608-70	1.30	砂質・鶴見 多孔石	直径 1.20(1.5) × 幅 8.2	黒褐色。くわんじか。薄い。表面に、断面を示す。下部と、高さに断面が現れる。	—	細粒石英岩	—	ほぼ完璧。
3608-71	1.30	鶴見・鶴 多孔石	(2.0) / — / <4.0	断面。くわんじか。薄い。表面に、断面を示す。下部と、高さに断面が現れる。	良好	白目 灰岩	良好	体積上トーア高さ5% 43%厚さ。
3608-72	1.36	鶴見・鶴 多孔石	(1.4) / — / <8.0	鶴見質の細粒岩で、塊状で、塊状に構成される。表面を磨かれていたとみえられ。中空部。二段階を示す。	良好	灰岩	良好	1・2・5区 1.3倍厚さ。
3608-73	1.36	鶴見・鶴 多孔石	(3.0) / — / —	鶴見質の細粒岩で、塊状で、塊状に構成される。表面を磨かれていたとみえられ。中空部。二段階を示す。	良好	灰岩	良好	2・5区(鉄)
3608-74	1.36	鶴見・鶴 多孔石	(3.2) / — / —	鶴見質の細粒岩で、塊状で、塊状に構成される。表面を磨かれていたとみえられ。中空部。二段階を示す。	良好	灰岩	良好	2・5区(鉄)
3608-75	1.36	鶴見・鶴 多孔石	(3.2) / — / —	鶴見質の細粒岩で、塊状で、塊状に構成される。表面を磨かれていたとみえられ。中空部。二段階を示す。	良好	灰岩	良好	2・5区(鉄)
3608-76	1.36	鶴見・鶴 多孔石	(3.3) / — / —	鶴見質の細粒岩で、塊状で、塊状に構成される。表面を磨かれていたとみえられ。中空部。二段階を示す。	良好	灰岩	良好	1・2・5区 1.5・レーン
3608-77	—	鶴見・鶴 多孔石	(4.8) / — / —	鶴見質の細粒岩で、塊状で、塊状に構成される。表面を磨かれていたとみえられ。中空部。二段階を示す。	良好	灰岩	良好	1・2・5区 1.5・レーン
3608-78	1.36	鶴見・鶴 多孔石	(5.0) / — / —	鶴見質の細粒岩で、塊状で、塊状に構成される。表面を磨かれていたとみえられ。中空部。二段階を示す。	良好	灰岩	良好	1・2・5区 1.5・レーン
3608-79	1.36	鶴見・鶴 多孔石	(3.3) / — / —	鶴見質の細粒岩で、塊状で、塊状に構成される。表面を磨かれていたとみえられ。中空部。二段階を示す。	良好	灰岩	良好	1・2・5区 1.5・レーン
3608-80	1.36	鶴見・鶴 多孔石	長 17.4 / 幅 14.5 / 高 7.2	鶴見質の細粒岩で、塊状で、塊状に構成される。表面を磨かれていたとみえられ。中空部。二段階を示す。	良好	灰岩	良好	1・2・5区 1.5・レーン
3608-81	1.36	鶴見・鶴 多孔石	長 1.9 / 幅 1.5 / 高 0.6	鶴見質の細粒岩で、塊状で、塊状に構成される。表面を磨かれていたとみえられ。中空部。二段階を示す。	良好	灰岩	良好	4・15区 C.1.3 1.5倍厚さ。
3608-82	1.36	鶴見・鶴 多孔石	1.10 / <18.8 / >	鶴見質の細粒岩で、塊状で、塊状に構成される。表面を磨かれていたとみえられ。中空部。二段階を示す。	—	細粒石英岩	—	1.5倍厚さ。
3608-83	1.36	鶴見・鶴 多孔石	長 1.6 / 幅 0.4 / 高 0.5	鶴見質の細粒岩で、塊状で、塊状に構成される。表面を磨かれていたとみえられ。中空部。二段階を示す。	—	細粒石英岩	—	1.5倍厚さ。
3609-84	1.36	鶴見・鶴 多孔石	長 7.4 / 幅 0.6 / 高 0.5	鶴見質の細粒岩で、塊状で、塊状に構成される。表面を磨かれていたとみえられ。中空部。二段階を示す。	—	細粒石英岩	—	1.5倍厚さ。
3609-85	1.36	鶴見・鶴 多孔石	18.4 / <0.1 / 0.7	鶴見質の細粒岩で、塊状で、塊状に構成される。表面を磨かれていたとみえられ。中空部。二段階を示す。	—	細粒石英岩	—	1.5倍厚さ。
3609-86	1.36	鶴見・鶴 多孔石	(1.1) / — / —	鶴見質の細粒岩で、塊状で、塊状に構成される。表面を磨かれていたとみえられ。中空部。二段階を示す。	良好	白目 灰岩	良好	1・2・5区 25%厚さ。
3609-88	1.36	鶴見・鶴 多孔石	(2.7) / — / —	鶴見質の細粒岩で、塊状で、塊状に構成される。表面を磨かれていたとみえられ。中空部。二段階を示す。	良好	白目 灰岩	良好	1・2・5区 30%厚さ。
3609-89	1.36	鶴見・鶴 多孔石	(1.5) / — / —	鶴見質の細粒岩で、塊状で、塊状に構成される。表面を磨かれていたとみえられ。中空部。二段階を示す。	良好	白目 灰岩	良好	1・2・5区 30%厚さ。
3609-90	1.36	鶴見・鶴 多孔石	長 14.1 / 幅 2.0 / 高 0.8	鶴見質の細粒岩で、塊状で、塊状に構成される。表面を磨かれていたとみえられ。中空部。二段階を示す。	—	細粒石英岩	—	1・2・5区 0.5倍厚さ。
3609-91	1.36	鶴見・鶴 多孔石	(2.3) / — / <4.0	鶴見質の細粒岩で、塊状で、塊状に構成される。表面を磨かれていたとみえられ。中空部。二段階を示す。	良好	白目 灰岩	良好	1・2・5区 20%厚さ。
3609-92	1.36	鶴見・鶴 多孔石	(7.0) / — / <5.0	鶴見質の細粒岩で、塊状で、塊状に構成される。表面を磨かれていたとみえられ。中空部。二段階を示す。	良好	白目 灰岩	良好	1・2・5区 30%厚さ。
3609-93	1.36	鶴見・鶴 多孔石	(3.1) / — / —	鶴見質の細粒岩で、塊状で、塊状に構成される。表面を磨かれていたとみえられ。中空部。二段階を示す。	良好	白目 灰岩	良好	1・2・5区 30%厚さ。
3609-94	1.36	鶴見・鶴 多孔石	長 14.4 / 幅 1.1 / 高 0.3	鶴見質の細粒岩で、塊状で、塊状に構成される。表面を磨かれていたとみえられ。中空部。二段階を示す。	—	細粒石英岩	—	1・2・5区 0.5倍厚さ。